

淑徳大学の学位プログラム GUIDE

第2版

2026年4月 大学教育課程編成委員会



淑徳大学

共に歩む これまでも これからも



改訂履歴

版数	発行日	改訂箇所	改訂履歴
第1版	2025年4月1日		初版発行
第2版	2026年4月1日	<p>【1.淑徳大学の学位プログラムの定義】 P.12「教育の内部質保証システム体制」 P.14「三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続き」 P.15「大学教育課程編成委員会の担当業務」</p> <p>【3.淑徳大学の三つの方針】 P.18「淑徳大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」 P.19「淑徳大学の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」 P.21「淑徳大学の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」</p> <p>【6.総合福祉学部】 【7.コミュニティ政策学部】 【8.看護栄養学部】 【9.教育学部】 【10.地域創生学部】 【11.経営学部】 【12.人文学部】 P.25～P.152 「三つの方針」 「カリキュラムマップ」 「履修体系図(専門科目)」 「基本形の履修モデル」</p> <p>【13.淑徳大学の正課外プログラム】 P.153「淑徳大学ともいきリーダー制度」</p>	<p>・教育の内部質保証システム体系図の見直しに伴う図表及び教育の質保証の記載内容の修正</p> <p>・三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続きの見直しに伴う記載内容の修正</p> <p>・多様なメディアを高度に利用した授業の対象科目の決定に伴う事項の追記</p> <p>・2025年度実施:三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続きに伴う修正内容の反映</p> <p>・その他表現、レイアウトの修正</p>

「淑徳大学の学位プログラム GUIDE」とは

淑徳大学は、7学部13学科2研究科において、12種類の学士といった学位を与える課程を中心とした考え方から、13の教育プログラムを設計しています。大学が何を教えるかといった視点から、大学で何を学ぶかといった学習者を中心とした視点を定め、教授側と学習側の両者の調和を超えて、本学の特色を活かした教育プログラムを展開していきます。知識基盤社会を迎え、急速なデジタル化の波が押し寄せる、変化もその速度も著しい現代において、他者とともに生きる人材を育成するという、本学の教育目的は普遍的なものです。「共生」の対象は、目の前の人間だけでなく、遠く離れた人間、環境や社会課題に向かう多様な人間であるとともに、時として生きとし生けるものに限らず、AIやロボットといった人間に近い存在まで広がっていくかも知れません。そのような多様な広がりを見せる他者とともに生き、ともに生かしあう姿勢を身に着けることを、本学の教育の場では、時代を超えて継承し続けていきます。

そのためには、建学の精神や教育目的、大学・各学位プログラムにおける三つの方針といった目標を明確に定め、その達成に向けて自己点検・評価を行い、必要に応じて教育プログラムの改善・改革を継続的に行っていかなければなりません。「淑徳大学の学位プログラム GUIDE」は、その一連の流れを明示したものであり、この GUIDE を通じて、教員、職員、学生といった本学の構成員全員が、淑徳大学におけるよりよい教育プログラムとはなにかを考える起点となるとともに、そのプロセスを明示し、学内外に公表することを通じて、本学の教育の質を保証していくことを宣言いたします。

2026年4月

大学教育課程編成委員長 山口 光治

目次

改訂履歴.....	2
「淑徳大学の学位プログラム GUIDE」とは	3
目次	4
1.淑徳大学の学位プログラムの定義	9
淑徳大学の主要授業科目	10
◆主要授業科目のカリキュラム上の位置づけ（イメージ図）	10
◆主要授業科目の確認ポイント	11
教育の内部質保証システム体制.....	12
◆教育の質保証.....	12
◆三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続き	14
◆大学教育課程編成委員会の担当業務	15
2.淑徳大学の建学の精神と教育目的	17
「利他共生」.....	17
淑徳大学の教育目的	17
3.淑徳大学の三つの方針.....	18
淑徳大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	18
淑徳大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	19
淑徳大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	21
4.淑徳大学の学位プログラム一覧.....	22
学士課程.....	22

研究科.....	22
5.全学共通基礎教育科目（S-BASIC）	23
◆履修体系図（全学共通基礎教育科目）	23
◆履修体系図（全学共通基礎教育科目）※クォーター版（地域創生学科）	24
6.総合福祉学部	25
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	25
社会福祉学科	25
◆三つの方針	25
◆カリキュラムマップ.....	29
◆履修体系図（専門科目）	33
◆基本型の履修モデル.....	35
教育福祉学科	36
◆三つの方針	36
◆カリキュラムマップ.....	39
◆履修体系図（専門科目）	45
◆基本型の履修モデル.....	48
実践心理学科	49
◆三つの方針	49
◆カリキュラムマップ.....	52
◆履修体系図（専門科目）	55
◆基本型の履修モデル.....	56
7.コミュニティ政策学部	57

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	57
コミュニティ政策学科	57
◆三つの方針	57
◆カリキュラムマップ	61
◆履修体系図（専門科目）	64
◆基本型の履修モデル	66
8.看護栄養学部	67
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	67
看護学科	67
◆三つの方針	67
◆カリキュラムマップ	71
◆履修体系図（専門科目）	76
◆基本型の履修モデル	77
栄養学科	78
◆三つの方針	78
◆カリキュラムマップ	81
◆履修体系図（専門科目）	85
◆基本型の履修モデル	86
9.教育学部	87
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	87
こども教育学科	87
◆三つの方針	87

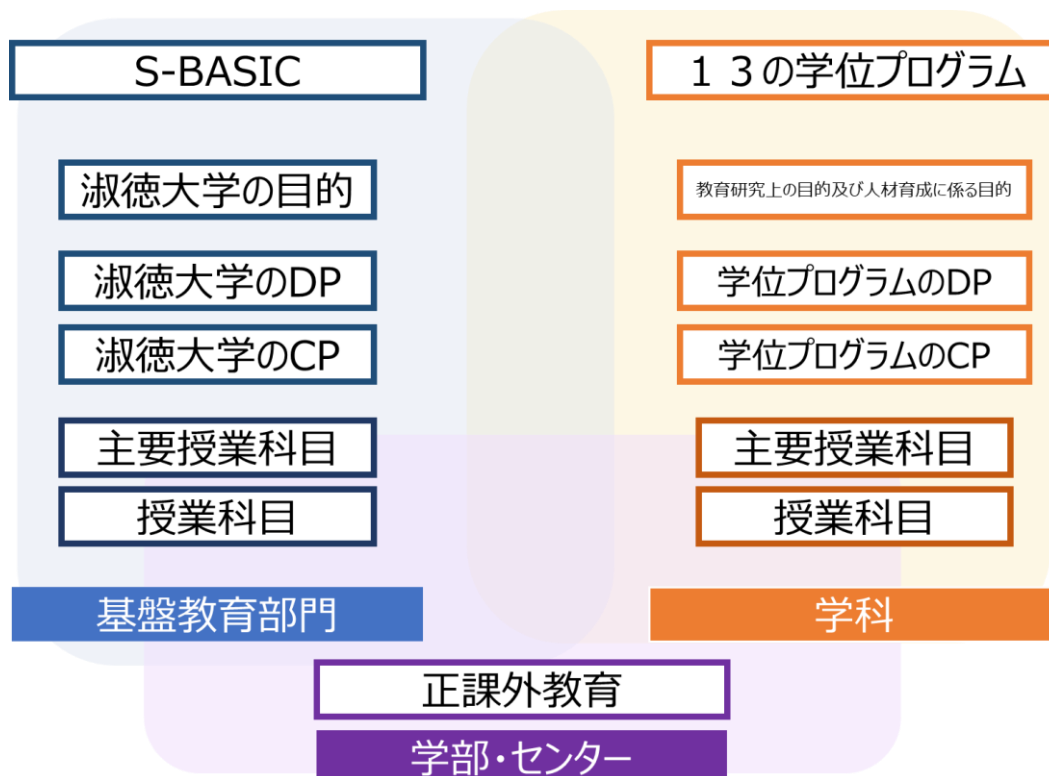
◆カリキュラムマップ	91
◆履修体系図（専門科目）	95
◆基本型の履修モデル	96
10.地域創生学部	97
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	97
地域創生学科	97
◆三つの方針	97
◆カリキュラムマップ	101
◆履修体系図（専門科目）	105
◆基本型の履修モデル	106
11.経営学部	107
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	107
経営学科	107
◆三つの方針	107
◆カリキュラムマップ	111
◆履修体系図（専門科目）	115
◆基本型の履修モデル	116
観光経営学科	117
◆三つの方針	117
◆カリキュラムマップ	120
◆履修体系図（専門科目）	124
◆基本型の履修モデル	125

12.人文学部	126
教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像	126
歴史学科	126
◆三つの方針.....	126
◆カリキュラムマップ.....	130
◆履修体系図（専門科目）.....	134
◆基本型の履修モデル.....	135
表現学科	136
◆三つの方針.....	136
◆カリキュラムマップ.....	139
◆履修体系図（専門科目）.....	142
◆基本型の履修モデル.....	143
人間科学科	144
◆三つの方針.....	144
◆カリキュラムマップ.....	147
◆履修体系図（専門科目）.....	151
◆基本型の履修モデル.....	152
13.淑徳大学の正課外プログラム	153
淑徳大学ともいきリーダー制度	153
◆「淑徳大学ともいきリーダー」概要図.....	153

1. 淑徳大学の学位プログラムの定義

「淑徳大学の学位プログラム」とは、本学において展開されている13（7学部、13学科、2研究科）の学位プログラムについて、それぞれの教育目標等とその達成に向けた教育の枠組みを明らかにしたものです。学位プログラムとは、学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計した教育プログラム¹、「学生の学修の視点に立った学位を授与する教育課程（プログラム）」を意味します。淑徳大学では、従来の学部・研究科といった教育研究組織を基本としながらも、学位を与える課程として再整理し、淑徳大学の教育目標を達成するために「S-BASIC」という組織横断的な教育の実施体制を実現しています。

淑徳大学では、三つの方針に基づいた13の学位プログラムを編成し、これらを教育の質保証の基本の体制とし、さらなる教育の充実を目指していきます。



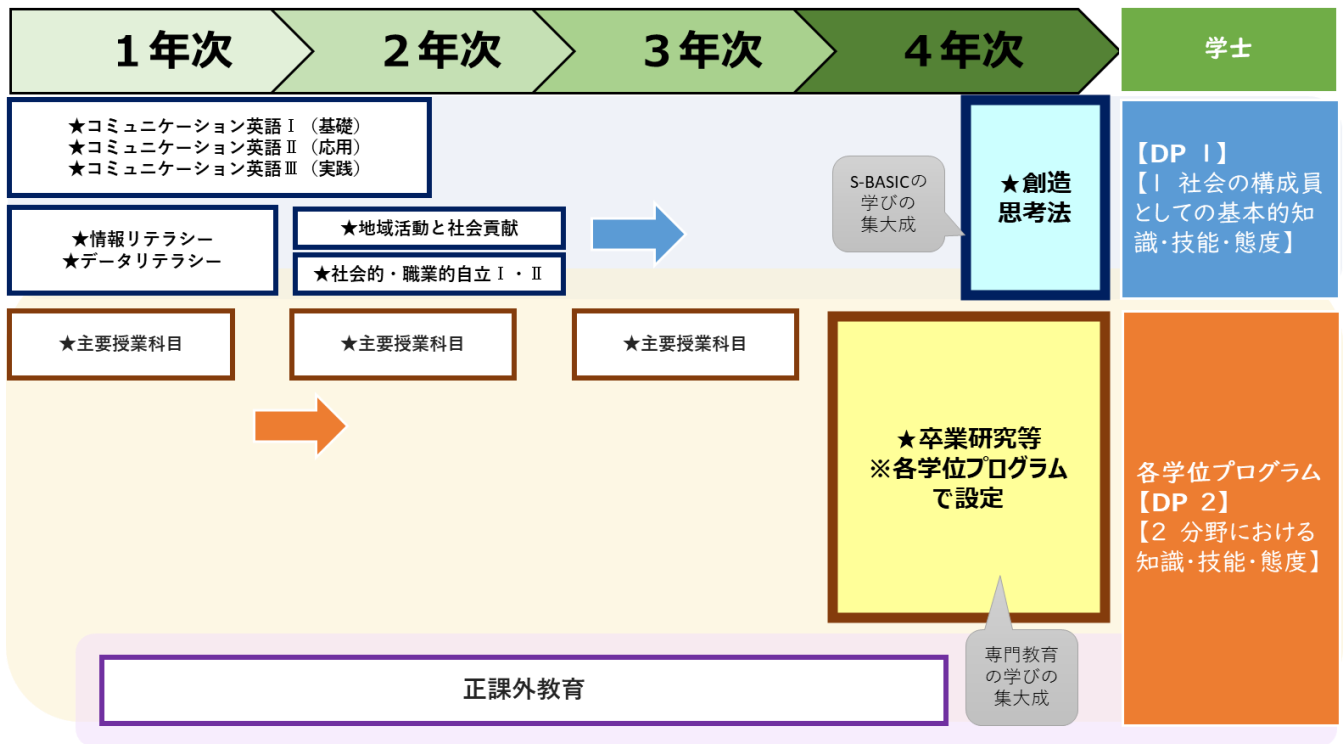
¹ 文部科学省

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/attach/1259115.htm)

淑徳大学の主要授業科目

淑徳大学における「主要授業科目」とは、13の学位プログラムに応じ学位取得のために必要となる中核科目のことを指します。学位取得のために必要となる中核科目とは、各学科の教育研究上の目的・人物像及び三つの方針を実現するための科目とします。各学位プログラムのディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを達成し、学位を授与するためのカリキュラムマップ上でも、学習成果を把握する重要な位置づけに置いています。

◆主要授業科目のカリキュラム上の位置づけ（イメージ図）



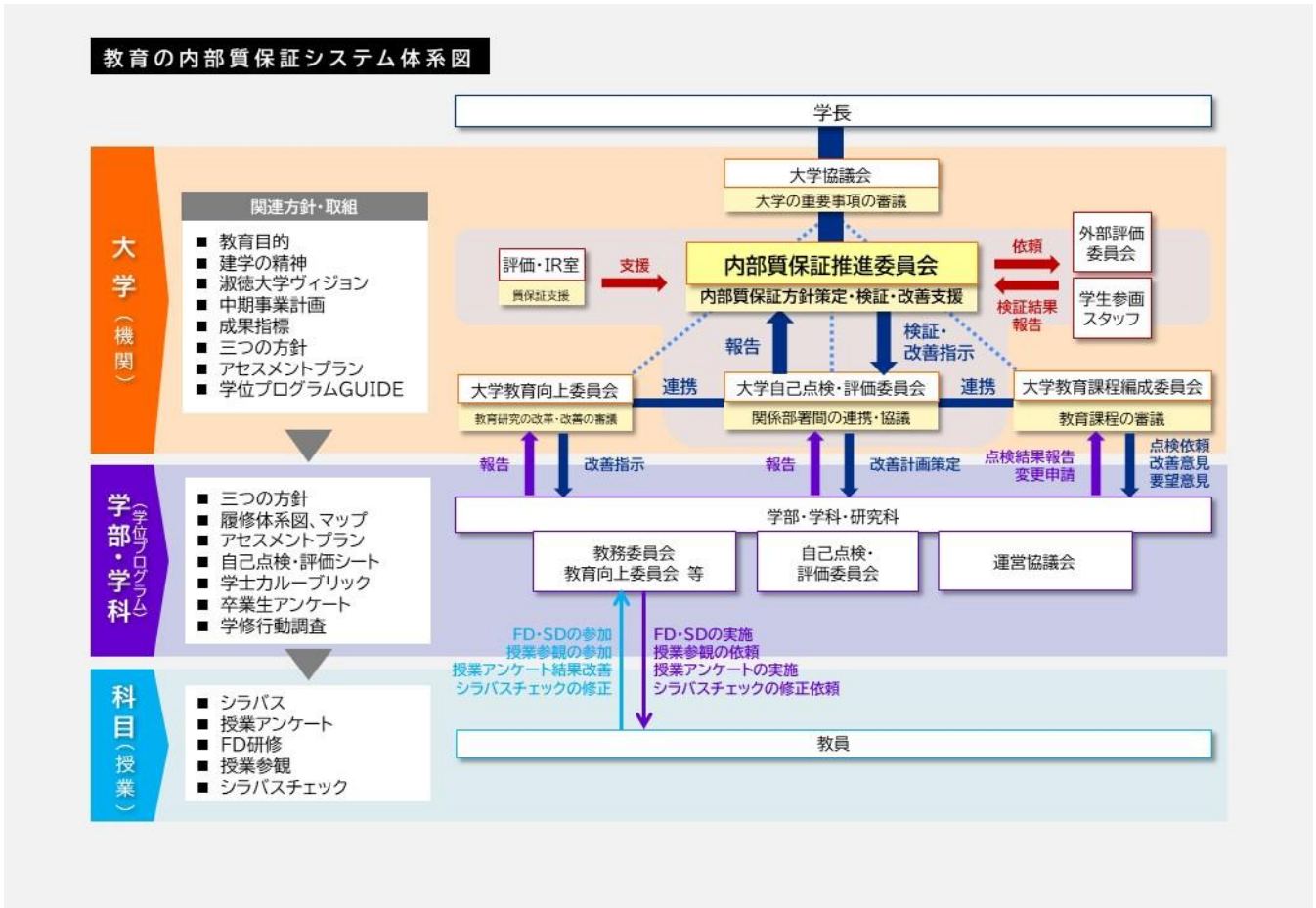
※一部学部では配当年次が異なる場合があります



◆主要授業科目の確認ポイント

No.	確認項目	「主要授業科目」と設定するための確認ポイント
1	定義	学位取得のために必要となる中核科目とは、各学科の教育研究上の目的・人物像及び三つの方針を実現するための科目とします。特に、ディプロマ・ポリシーと主要授業科目の関連性について、明確な説明が必要です。 (学修成果の把握と評価にも密接に関係してくる科目)
2	科目配置	「主要授業科目」は、 基幹教員が担当する科目とします。 (基幹教員は担当科目だけでなく、学科の学位プログラム全体について責任が生じる科目適合性の観点から、当該科目に十分な業績があること、定期的に業績の点検が行われていること) ただし、No. 2にあるように、複数クラス、複数の科目担当教員が担う場合、科目として基幹教員が主体性と責任を持って適切に授業を行っている科目は「主要授業科目」として設定してよいこととします。 *「主要授業科目」は、原則基幹教員が担当することとなっている(大学設置基準第八条(授業科目の担当))
3	科目配置	「主要授業科目」は、 科目担当教員が退職した場合も、基幹的な科目として継続性がある科目とします。 (大学都合で頻繁に変更になる科目ではない、科目適合性の観点から基幹教員が継続して担当できる科目) *「主要授業科目」は、学位を取得させるに当たり達成すべき能力を育成するために必要な科目群(文科省定義)
4	科目配置	「主要授業科目」は、 原則として多くの学生が履修し、毎年度開講している科目とします。 (6名未満の開講科目ではない、必修科目の重複時限の配置等時間割上の課題がない) *「主要授業科目」は、学位を取得させるに当たり達成すべき能力を育成するために必要な科目群(文科省定義)
5	科目配置	免許や資格取得を目指す一部の学生が履修する科目は、「主要授業科目」とはなりません。 (ただし、ディプロマポリシーに免許資格に関すること、具体的な免許資格の専門性、専門職と位置づけて設定している学科を除く) *「主要授業科目」は、学位を取得させるに当たり達成すべき能力を育成するために必要な科目群(文科省定義)
6	シラバス	「主要授業科目」において、複数クラス、複数の科目担当教員が担う場合、同一科目としてシラバスの内容を統一します。 同様の「ディプロマポリシーとの関連性」に対し、「到達目標」「評価方法」「評価基準」の項目は、同一科目として必ず統一することとし、それ以外の項目については、科目担当者が責任をもって適切に設定することとします。
7	シラバス (情報公開)	「主要授業科目」のシラバス「ディプロマポリシーとの関連性」項目には、下記のように明示します。 (シラバス登録時にシラバス担当職員が一括入力するため、主要授業科目とそれ以外の科目のシラバス内容は原則として相違はなし) ・該当箇所:ディプロマポリシーとの関連性 ・記入内容:この科目は○○学科の主要授業科目です。
8	情報公開	「主要授業科目」は、原則としてその学位を授与する全ての「履修モデル」に入れてください。かつ、「カリキュラム表」「履修モデル」「履修体系図」「カリキュラムマップ」に分かるように明示して公表します。 *いずれの授業科目が主要授業科目に当たるかについては、基幹教員の要件にも関わるものであり、基幹教員を含む教員全体に係る情報の公表は法令上も求められていることから、シラバス等、学内外から確認できるような形で明記・公表することが望ましい(文科省 Q&A https://www.mext.go.jp/mext_02034.html#q15)
9	S-BASIC	全学共通基礎教育科目(S-BASIC)における「主要授業科目」は、 基幹教員が各授業時間の指導計画を明確にし、授業の実施状況を十分に把握して、成績評価を行うよう、基幹教員が主体性と責任を持って適切に授業を行えるようにしている科目とします。 *文科省「大学が請負契約等を締結した者を活用して授業を実施する場合の留意点について(周知)(令和3年4月8日事務連絡)」 https://www.mext.go.jp/content/20240801-mxt_daigakuc02-000037448_32.pdf
10	S-BASIC	全学共通基礎教育科目(S-BASIC)における「主要授業科目」は、以下の科目とします。 「コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)」「コミュニケーション英語Ⅱ(応用)」「コミュニケーション英語Ⅲ(実践)」「情報リテラシー」「データリテラシー」 「地域活動と社会貢献」 「社会的・職業的自立Ⅰ」「社会的・職業的自立Ⅱ」 「創造思考法」

教育の内部質保証システム体制



◆教育の質保証

淑徳大学における教育の質保証は、「大学（機関レベル）」「学部・学科（学位プログラムレベル）」「科目（授業レベル）」の3層に関連する組織や委員会が中心となり、様々な取組によって、全学的に教育の改善・向上につなげる体制になっています。内部質保証推進委員会が質保証システムの基軸となってマネジメントを行っており、評価・IR室が事務局としてマネジメントに係る支援を担当しています。

教育課程に関する全学的な審議機関として大学教育課程編成委員会が置かれ、この委員会は、各学部研究科等の教育課程に関する事項について取り扱い、教育改善の全学的な支援を行う委員会となっています。各学部研究科では、各種アセスメント結果を振り返り、毎年度教育課程の点検を行います。点検の結果は大学教育課程編成委員会へ報告され、教育課程の変更がある場合は申請の手続きとなり、委員会の審議結果として、改善

意見や要望意見等を伝えます。このように大学教育課程編成委員会は、各学位プログラムの教育課程の審議を行い、全学的な教育の質保証を担う組織となっています。また、教育研究、社会貢献活動の向上を支援する組織として、大学教育向上委員会が置かれており、「学部・学科（学位プログラム）」の委員会と連携しながら、3層の階層を往来して教育研究活動の組織的な質の向上に努めています。

教育研究活動を含む、10の大学基準に則り、「学部・学科（学位プログラム）」の自己点検・評価が行われ、その結果は学部・研究科の自己点検・評価委員会にまとめられ、大学自己点検・評価委員会が全学的な協議、取りまとめを行います。その点検結果が、内部質保証推進委員会に報告され、学長（内部質保証推進委員長）の改善指示がなされる仕組みとなっています。

◆三つの方針・教育課程の点検、変更等の手続き

時期	事項（調査・点検等）	取組主体
5月	<p>アセスメントプランに基づく点検・評価（依頼） ※2026年度については、改訂版のアセスメントプランにて複数の学科（学位プログラム）にて試行実施。試行実施の結果を踏まえ、2027年度以降、全学実施見込み。 ※点検・評価のうえ、必要に応じて以降の「三つの方針」の点検へ反映</p> <p>「三つの方針」の点検について（依頼） 大学教育課程編成委員会 ・DP：卒業認定・学位授与の方針 ・CP：教育課程編成・実施の方針 大学募集・入試委員会 ・AP：入学者受入れの方針</p>	<p>高等教育研究開発センター 評価・IR室 各学位プログラム</p> <p>内部質保証推進委員会 大学委員会 各学位プログラム</p>
7月	<p>アセスメントプランに基づく点検・評価（報告）</p> <p>「三つの方針」の点検結果（報告）</p> <p>教育課程の点検について（依頼） ・教育課程点検シート</p>	<p>高等教育研究開発センター 内部質保証推進委員会 大学教育課程編成委員会</p>
9月	<p>教育課程の点検結果（報告） 教育課程の変更申請（9月末） ※該当がある場合のみ</p>	<p>大学教育課程編成委員会</p>
～11月	<p>教育課程変更の審議</p> <p>12月 学則変更対応 2月 理事会付議</p>	<p>大学教育課程編成委員会 大学協議会</p>

◆大学教育課程編成委員会の担当業務

開催時期	事項（調査・点検等）
2月	次年度 主要授業科目担当者の決定 多様なメディアを高度に利用した授業の対象科目の決定
3月	教育課程の点検結果（報告） 点検結果を受けた課題に対する改善方策の検討 それらをふまえ、 次年度 教育課程編成にかかる方針公表 （教育課程の点検方針、項目、「教育課程点検シート」の見直しを含める）
4月	今年度「学位プログラム GUIDE」公表
6月	基幹教員一覧他教育情報の公表
7月	「三つの方針」の点検結果（報告）を受けて、 教育課程の点検について（依頼） 「教育課程点検シート」にて点検を依頼（編成チームにより学部教授会にて審議）
9月	教育課程の点検結果（報告） 点検結果を受けた課題の抽出 教育課程の変更申請（9月末） 該当がある場合、以下7点の申請書類一式の取りまとめ・審議 ① 教育課程点検シート（教育課程の点検を行ったもの） ② 教育課程の編成概要（教育課程編成の趣旨、必要性及び変更理由、適切な教員配置） ③ 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び教育課程の新旧比較対照表 ④ 履修体系図（専門教育科目、基礎教育科目の学習・到達目標と体系性が明確なもの） ⑤ 履修モデル（主要授業科目、卒業要件単位数のものを必須とし、養成する具体的な人材像に対応したもの） ⑥ カリキュラムマップ（学位授与方針との関連性を示したもの）

	<p>上記③～⑥は学位プログラムの関連資料とする</p> <p>⑦ 意見への対応状況（過去の審議結果で通知された学部、研究科への意見がある場合）</p>
～11月	<p>教育課程変更の審議</p> <p>（12月度 学則変更対応・2月度 理事会付議）</p> <p>教育課程の点検結果を受けた教育改善の支援</p> <p>多様なメディアを高度に利用した授業の対象科目の精査（依頼）</p>
2月	<p>次年度 主要授業科目担当者の決定</p> <p>多様なメディアを高度に利用した授業の対象科目の決定</p>
3月	<p>教育課程の点検結果（報告）</p> <p>点検結果を受けた課題に対する改善方策の検討</p> <p>それらをふまえ、</p> <p>次年度 教育課程編成にかかる方針公表</p> <p>（教育課程の点検方針、項目、「教育課程点検シート」の見直しを含める）</p>
4月	<p>今年度「学位プログラム GUIDE」公表</p>

2. 淑徳大学の建学の精神と教育目的

「利他共生」

淑徳大学および淑徳大学大学院の理念は、建学の精神である「利他共生」²に代表されます。これは、「他者に生かされ、他者を生かし、共に生きる」という意味であり、大乘仏教の精神に基づいて設定された理念です。大乘仏教では、出家し厳しい修行をした人だけではなく、どんな人も信仰があれば大きな乗り物に乗るように救われると考え、そのために自らの人格の完成のために修行し努力すること、他者を生かすために自分が尽くすことを共に行う「自利利他」を理想としています。

淑徳大学の教育目的

◆淑徳大学学則第1節（目的）

淑徳大学（以下「本学」という。）は、大乘仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の育成を目的とする。

◆淑徳大学大学院学則第1節（目的）

第1条 淑徳大学大学院（以下「本大学院」という。）は、本学建学の理念にのっとり、深奥なる学術の理論及び応用を研究教授し、また研究能力を養い、もって人類の文化と福祉の増進に貢献することを目的とする。

² 淑徳大学 建学の精神 (<https://www.shukutoku.ac.jp/university/about/spirit.html>)

3. 淑徳大学の三つの方針³

淑徳大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、大乘仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

³ 各学科が独自で設定する三つの方針については、6章以降の学科の三つの方針に記載。

淑徳大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能・態度を修得するために、以下のように、学位プログラムごとに教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から、教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定める。

社会の構成員として求められる基礎的な知識・技能・態度を、全学共通の基礎教育科目として配置するとともに、学位プログラムごとに専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実習等を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

【1 教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 学位プログラムの専門教育分野における知識・技能・態度の修得のため、以下の科目構成からなる「専門教育科目」を置く。

① 学位プログラムとしての専門教育分野への導入・基礎に係る科目、基幹・展開に係る科目、そして関連する科目を、講義科目や演習科目として体系的に配置する。

② 専門教育分野における学習成果を実社会で実践するとともに、臨床的応用的な力量を高めるために、実習、調査、体験、フィールドワーク等に係る科目を置く。

③ 学位プログラムに関連する免許・資格等に係る科目を置く。

④ 専門教育分野での学習を総合化するとともに、学生の学習成果を把握するために、学位プログラムごとに、卒業研究等の科目を置く。

(3) 各科目区分の中核となり、教育研究上の目的・人物像及び三つの方針を実現するために軸となる科目として「主要授業科目」を設定する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究等」で確認を行う。

淑徳大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程の編成・実施方針との関連性を踏まえて、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定める。

【1 求める学生像】

- (1) 高等学校での学習内容を十分に理解・習熟できている。
- (2) 本学の教育方針及び教育分野に興味と関心を持ち、本学での学修に明確な目的と意欲を有している。
- (3) 本学での学修により、学位プログラムを終了し卒業認定と学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での学習活動等からうかがわれる。
- (4) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

入学者選抜については、次の方法を単独もしくは複数の組み合わせにより行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

大学における学習と教育への円滑な移行に資する高等学校での学習がなされていることが望ましい。また、自ら課題を発見し、探究を深める姿勢を有し、その内容を適切に表現できることが求められる。なお、各学科の学びの特性に応じた「入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度」は、別に定める。

4. 淑徳大学の学位プログラム一覧

学士課程

学部	学科	コース等	学位(種類)	学位プログラム名
総合福祉学部	社会福祉学科	社会福祉コース 福祉教職コース	学士(社会福祉学)	社会福祉学
	教育福祉学科	学校教育コース 健康教育コース	学士(教育福祉学)	教育福祉学
	実践心理学科		学士(心理学)	心理学
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科		学士(コミュニティ政策学)	コミュニティ政策学
看護栄養学部	看護学科		学士(看護学)	看護学
	栄養学科		学士(栄養学)	栄養学
教育学部	こども教育学科	初等教育コース 幼児教育コース	学士(教育学)	教育学
地域創生学部	地域創生学科		学士 (地域創生学)	地域創生学
経営学部	経営学科		学士(経営学)	経営学
	観光経営学科		学士(観光経営学)	観光経営学
人文学部	歴史学科	歴史資源コース 歴史教育コース 歴史探求コース	学士(文学)	歴史学
	表現学科	文芸表現コース 編集表現コース 放送表現コース	学士(文学)	文学
	人間科学科		学士(人間科学)	人間科学
計 7学部	計 13 学科		計 12	計 13

研究科

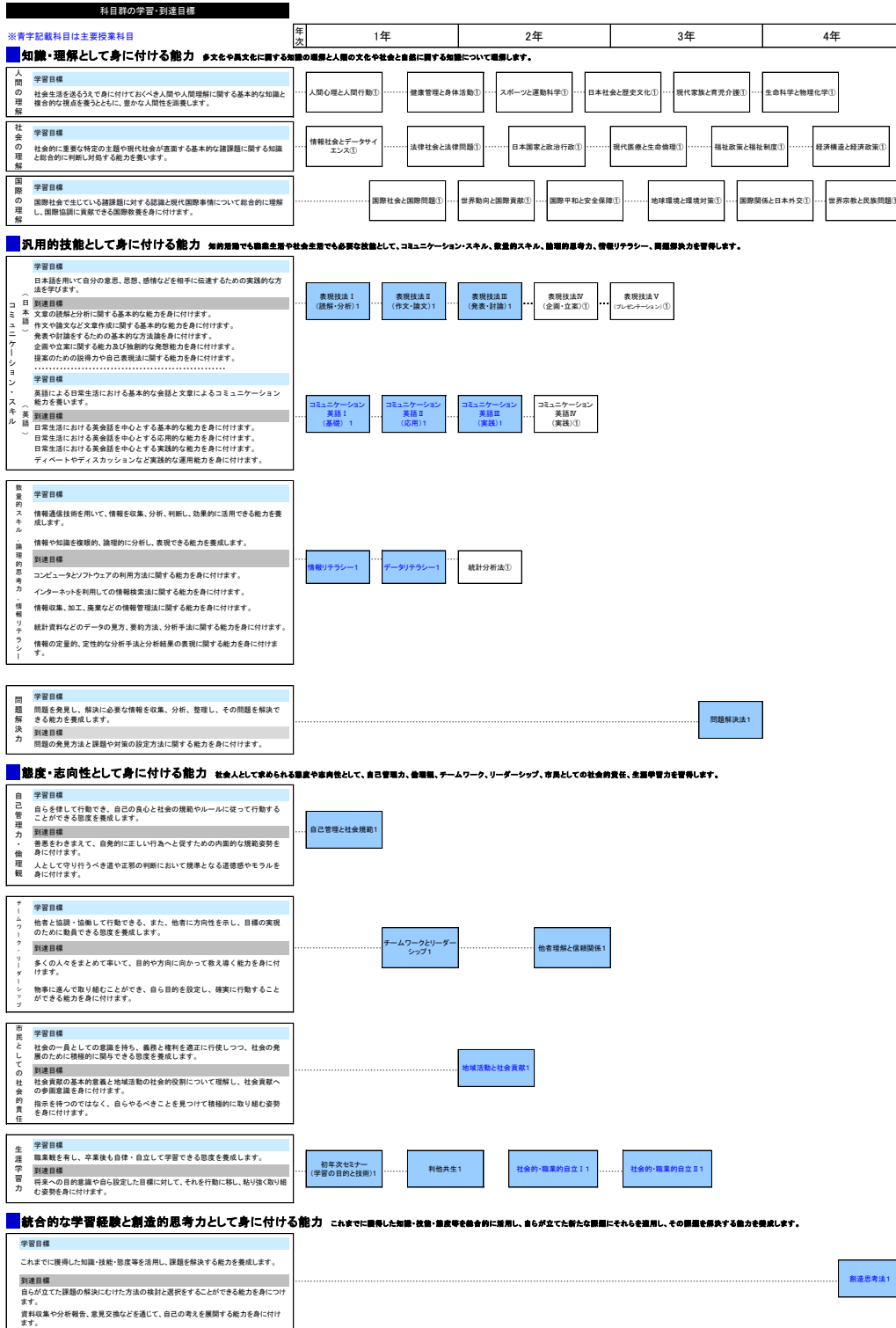
学部	学科	コース等	学位(種類)	学位プログラム
総合福祉研究科	社会福祉学専攻 (博士前期課程)	—	修士(社会福祉学)	修士(社会福祉学)
	社会福祉学専攻 (博士後期課程)	—	博士(社会福祉学)	博士(社会福祉学)
	心理学専攻 (修士課程)	—	修士(心理学)	修士(心理学)
看護学研究科	看護学専攻 (修士課程)	—	修士(看護学)	修士(看護学)
計 2研究科	計 4専攻		計 4	計 4

5. 全学共通基礎教育科目 (S-BASIC)

◆履修体系図 (全学共通基礎教育科目)

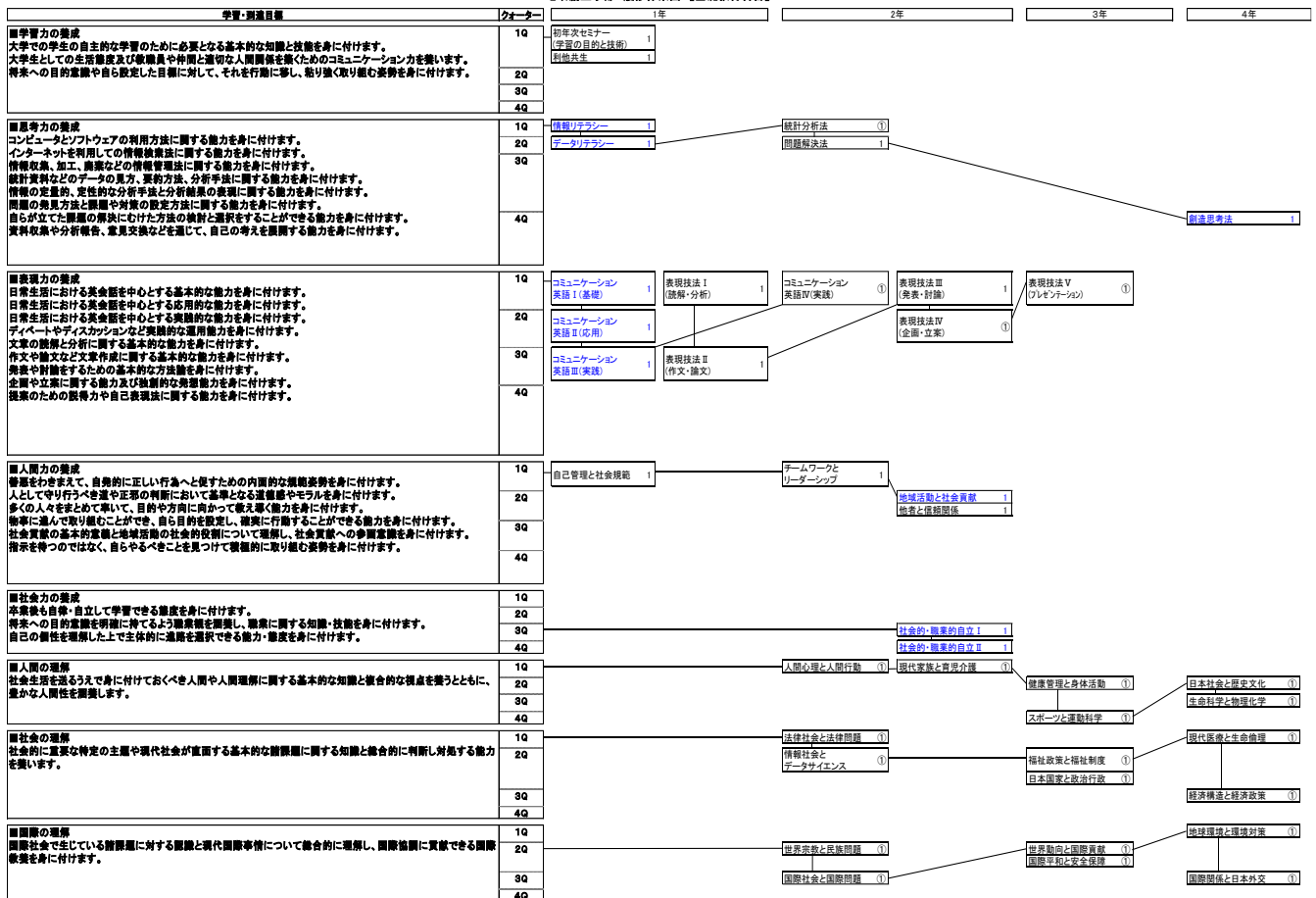
※主要授業科目 (青字)

■淑徳大学 基礎教育科目 体系図



◆履修体系図（全学共通基礎教育科目）※クォーター版（地域創生学科）

地域創生学部 履修体系図【基礎教育科目】 ※青年記課科目は主要授業科目



6.総合福祉学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(1) 総合福祉学部

ア 教育目的

社会福祉を支えるさまざまな学問分野における基礎的知識と技術を修得した上で、それらを総合的に理解し、実践的に応用し活用できる能力を身に付ける。

イ 人材像

地域社会の諸活動をはじめ経済社会全体が抱える諸課題の解明と解決に主体的かつ積極的に関わり、共生社会の実現に取り組む人材

社会福祉学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び社会福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 社会福祉学分野における知識・技能・態度】

社会福祉学に関する価値、倫理、理論、方法を体系的に理解しそこから培われる福祉マインドを持って、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。
- (2) 専門職(社会福祉士や小学校教諭等)に足る知識や技術、福祉マインドを持って、社会福祉や教育をはじめ幅広い分野で活躍する意欲と能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会福祉学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

①大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

②「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 社会福祉の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、社会福祉やソーシャルワークの基本となる理念や知識・技能を教育内容とする。

②「展開科目」及び「関連科目」では、基礎知識・技能の修得に基づく高い専門的知識・技能の修得及び社会福祉・教育領域に接するあるいは補完する関連諸分野の知識・技能を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実験・実習科目」では、社会福祉・教育領域に対する深い理解とともに、実践の場でそれを相互に関連付けて活用できる能力の育成を教育内容とする。

④免許・資格取得に係る科目は、適宜、必要に応じて上記科目内に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス（授業計画）には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「社会福祉実践演習Ⅱ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6)専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

社会福祉学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1)高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

(2)社会福祉あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

(3)本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。

(4)社会福祉の専門職等の資格取得に向け、高い意欲と継続的な努力ができる態度を有している。

(5)自分の考えを、口頭や文章等で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

社会福祉学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1)高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

(2)高等学校での履修科目に対する学力検査

(3)小論文

(4)面接

(5) プレゼンテーション

(6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

社会福祉学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

(1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習

(2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲の持続

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 社会福祉学科科目

<p><淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)> 本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>[1] 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度</p> <p>(1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。 (2)情報リテラシーや数量的スキルを修得している。 (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。 (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。 (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。</p> <p>[2] 専門教育分野における知識・技能・態度</p> <p>(1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。 (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。</p>	
<p><社会福祉学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)> 学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び社会福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>[2] 社会福祉学分野における知識・技能・態度</p> <p>社会福祉学に関する価値、倫理、理論、方法を体系的に理解しそこから培われる福祉マインドを持って、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。</p> <p>(1)社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。 (2)専門職(社会福祉士や小学校教諭等)に足る知識や技術、福祉マインドを持って、社会福祉や教育をはじめ幅広い分野で活躍する意欲と能力を身に付けている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目		
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2			
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																	
	利他共生	1前	1	講義	●																	
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●											◎					★	
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●										◎					★	
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○									◎						
	問題解決法	3後	1	講義・演習					●								◎					
	創造思考法	4後	1	講義・演習							●					◎	◎	◎	◎	◎		★
基礎教育科目	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●											◎					★	
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●										◎					★	
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●									◎					★	
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○								◎						
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●											◎						
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●										◎						
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●									◎						
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○								◎						
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○							◎						
人間力の養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●												◎					
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●											◎					
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●										◎				★	
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●									◎					
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●										◎				★	
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●									◎				★	
人間の理解	人間心理と人間行動	1前～	1	講義・演習			○		○		○						◎					
	現代家族と育児介護	1前～	1	講義		○		○		○		○						◎				
	健康管理と身体活動	1前～	1	講義・実技		○		○		○		○						◎				
	スポーツと運動科学	1前～	1	講義・演習					○		○							◎				
	日本社会と歴史文化	1前～	1	講義・FW		○		○		○		○						◎				

専門教育科目	社会の理解	生命科学と物理化学	1前～	1	講義・実験	○		○	○	○								◎					
		情報社会とデータサイエンス	1前～	1	講義			○	○	○									◎				
		法律社会と法律問題	1前～	1	講義		○	○	○	○									◎				
		福祉政策と福祉制度	1前～	1	講義		○	○	○	○									◎				
		日本国家と政治行政	1前～	1	講義			○	○	○									◎				
		経済構造と経済政策	1前～	1	講義					○									◎				
		現代医療と生命倫理	1前～	1	講義		○	○	○	○									◎				
		国際の理解	国際社会と国際問題	1前～	1	講義				○	○									◎			
			世界宗教と民族問題	1前～	1	講義		○	○	○	○									◎			
			世界動向と国際貢献	1前～	1	講義				○	○									◎			
	国際平和と安全保障		1前～	1	講義					○									◎				
	国際関係と日本外交		1前～	1	講義	○	○	○	○										◎				
	地球環境と環境対策		1前～	1	講義		○	○	○	○									◎				
	基礎科目	現代社会と福祉	1前	4	講義	●													◎			★	
		相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1前	2	講義	●													◎			★	
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1後	2	講義		○												◎				
		相談援助の理論と方法Ⅰ	2前	4	講義			○											◎			★	
		相談援助の理論と方法Ⅱ	2後	4	講義				○										◎				
	基幹科目	医学概論	1・2・3・4前	2	講義	○													◎				
		生活問題論	1前	2	講義	○													◎				
心理学概論		1後	2	講義		○												◎					
社会学概論		1・2後	2	講義		○	○											◎					
社会調査の基礎		2・3・4後	2	講義			○	○										◎					
地域福祉の理論と方法		2・3・4前	4	講義			○	○										◎			★		
社会福祉分野	社会保障	2・3・4前	4	講義		○	○											◎			★		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2・3後	2	講義			○	○										◎					
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2・3後	2	講義			○	○										◎					
	高齢者に対する支援と介護保険制度	2・3前	2	講義		○	○											◎					
	貧困に対する支援	2・3後	2	講義			○	○										◎					
	福祉サービスの組織と経営	3・4前	2	講義			○	○										◎					
	保健医療サービス	2・3・4後	2	講義			○	○	○									◎					
	権利擁護と成年後見制度	3・4前	2	講義				○	○									◎					
	更生保護制度	3・4後	2	講義				○	○									◎					
	精神保健福祉制度論	3・4前	2	講義				○	○									◎					
	精神保健福祉の原理	2・3後	4	講義		○	○											◎					
	精神障害リハビリテーション論	3・4前	2	講義			○	○										◎					
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	3・4前	4	講義			○	○										◎					
	精神医学	3・4前	4	講義			○	○										◎					
	精神保健学	3・4後	4	講義				○	○									◎					
	ジェンダー福祉論	2・3前	2	講義		○	○											◎					
	社会福祉の歴史	2・3後	2	講義			○	○										◎					
	仏教福祉論	2・3・4前	2	講義		○	○											◎					
	スクールソーシャルワーク論	3・4前	2	講義			○	○										◎					
共生援助論	3・4後	2	講義				○	○									◎						

社会福祉実践演習Ⅰ	3 後	2	演習						○										◎	★
社会福祉実践演習Ⅱ	4 前	2	演習						○										◎	★
福祉レクリエーションの理論と方法	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○	○										◎	
ユニバーサルキャンプの方法	1・2・3・4 前	2	実験・実習	○		○		○	○										◎	
福祉デザインの基礎	1 後	2	講義		○														◎	
福祉デザイン実践演習	2 前	2	演習			○													◎	
福祉デザイン実践実習Ⅰ	2 後	2	実験・実習				○												◎	
福祉デザイン実践実習Ⅱ	3 前	3	実験・実習					○											◎	
ボランティア・市民活動論	1・2 前	2	講義	○		○													◎	
社会資源論	4 後	2	講義						○										◎	
生活支援論	2・3 後	2	講義			○		○											◎	
社会開発論	4 前	2	講義						○										◎	
障害者スポーツ論	3・4 後	2	講義					○	○										◎	
国語(書写を含む。)	2・3 前	1	講義			○		○											◎	
社会	3・4 前	1	講義					○	○										◎	
算数	2・3 後	1	講義						○	○									◎	
理科	3・4 前	1	講義					○	○										◎	
生活	1・2 後	1	講義		○	○													◎	
音楽	2・3 前	1	演習			○		○											◎	
図画工作	2・3 前	1	演習			○		○											◎	
家庭	3・4 前	1	講義					○	○										◎	
体育	1・2 後	1	演習		○	○													◎	
英語	4 前	1	講義						○										◎	
初等国語科教育法	2・3 後	1	講義				○	○											◎	
初等社会科教育法	3・4 後	1	講義					○	○										◎	
初等算数科教育法	3・4 後	1	講義					○	○										◎	
初等理科教育法	3・4 後	1	講義					○	○										◎	
初等生活科教育法	3・4 後	1	講義					○	○										◎	
初等音楽科教育法	3・4 前	1	講義					○	○										◎	
初等図画工作科教育法	3・4 前	1	講義					○	○										◎	
初等家庭科教育法	3・4 後	1	講義					○	○										◎	
初等体育科教育法	2・3 前	1	講義			○		○											◎	
初等英語科教育法	4 後	1	講義						○										◎	
教職概論	1 前	2	講義	○															◎	
教育原理	1 後	2	講義		○														◎	
教育心理学	1・2 後	2	講義		○	○													◎	
発達心理学	1・2 後	2	講義		○	○													◎	
特別支援教育の理解と方法	2・3 前	1	講義			○		○											◎	
教育行政学	3・4 後	2	講義						○	○									◎	
教育課程論	3・4 前	2	講義					○	○										◎	
道徳の指導法	3・4 後	2	講義					○	○										◎	
総合的な学習の時間と特別活動の指導法	3・4 後	2	講義						○	○									◎	
教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む)	2・3 前	2	講義			○		○											◎	

	生徒・進路指導の理論と方法	3・4前	2	講義					○	○								◎	
	教育相談の理論と方法	3・4前	2	演習					○	○								◎	
演習科目	相談援助演習Ⅰ	1・2前	2	演習	●		○											◎◎	★
	相談援助演習Ⅱ	2・3前	2	演習			○	○										◎◎	
	相談援助演習Ⅲ	2・3後	2	演習			○	○										◎◎	
	相談援助演習Ⅳ	3・4前	2	演習				○	○									◎◎	
	相談援助演習Ⅴ	3・4後	2	演習					○	○								◎◎	
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2・3後	2	演習			○	○										◎◎	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	3・4前	2	演習				○	○									◎◎	
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	3・4後	2	演習					○	○								◎◎	
	スクールソーシャルワーク演習	3・4後	2	演習					○	○								◎◎	
	教職実践演習(小学校)	4後	2	演習						○								◎	(★)
実験・実習科目	相談援助実習指導Ⅰ	1・2後	2	演習		○	○											◎◎	
	相談援助実習の理解と事前指導	2・3後	2	演習			○	○										◎◎	★
	相談援助実習指導Ⅱ	3・4前	2	演習				○	○									◎◎	
	相談援助実習指導Ⅲ	3・4後	2	演習					○	○								◎◎	
	相談援助実習Ⅰ	1・2後	2	実験・実習		○	○											◎◎	
	相談援助実習Ⅱ	3・4前	4	実験・実習				○	○									◎◎	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2・3後	2	演習			○	○										◎◎	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3・4前	2	演習				○	○									◎◎	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	3・4後	2	演習					○	○								◎◎	
	精神保健福祉援助実習	3・4後	5	実験・実習					○	○								◎◎	
	スクールソーシャルワーク実習指導	3・4前	2	演習				○	○									◎◎	
	スクールソーシャルワーク実習	3・4前	2	実験・実習				○	○									◎◎	
	初等教育実習事前事後指導	3後	1	演習					○									◎	
初等教育実習	4前	4	実験・実習						○								◎		
関連科目	児童心理学	2・3・4前	2	講義			○	○	○									◎	
	福祉政策論	3・4前	2	講義				○	○									◎	
	教育学概論	1前	2	講義	○													◎	
	日本国憲法	1・2・3・4後	2	講義		○	○	○	○	○								◎	
	経営組織論	3・4前	2	講義					○	○								◎	
	事業計画論	3・4後	2	講義						○	○							◎	

※(★)社会福祉士+小学校二種履修モデルのみ主要授業科目かつ学修成果を確認する科目とする

※★それぞれのDPにおいて、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

社会福祉学科 専門教育科目 体系図

科目名の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
<p>社会福祉の発展、および社会福祉の基礎理論について理解する</p> <p>社会福祉学科の教育課程編成の基本方針とともに、社会福祉学に関する代表的な理論・援助技術を理解・習得します。併せてソーシャルワーク教育の重要性、ソーシャルワークの意義と責務及び職務内容について理解を深め、ソーシャルワークに対する情熱や使命感、及び福祉マインドを持ったソーシャルワーカー、教育者、企業人等として自らの目指す方向性を明確にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の原理（歴史・思想・哲学・理論等）と福祉政策（理念・法制度・社会システム）の基本について学びます。 ・ソーシャルワーカーに必要な医学や公衆衛生学（医療や公衆衛生）に関する基礎知識を学びます。 ・心理学の基礎を踏まえて、人の心理的応答と発達過程、基礎的な心理療法を理解します。 ・現代社会の特性や生活の多様性、人と社会との関係、社会問題と背景を学びます。 	現代社会と福祉④	生活問題論②	医学概論②	心理学概論②	社会学概論②			
<p>福祉援助をはじめとする社会福祉方法論とともに、福祉援助（ソーシャルワーク）の発展について理解する</p> <p>福祉援助をはじめとする社会福祉方法論を習得することで、福祉援助の方法とその意義、ソーシャルワーカーの責務及び職務内容について理解するとともに、ソーシャルワークに対する自身の適性を判断し、実践活動に対する情熱や使命感を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士、精神保健福祉士の法的な位置づけ、形成過程、倫理を理解し、職種に求められる役割について理解します。 ・福祉援助に関する代表的な理論・援助技術を習得します。 ・ソーシャルワークにおける専門職の概念と枠組みを学びつつ、包括的・総合的な支援の全容を理解します。 ・さまざまな課題のなかで生じる生活課題に対するためのソーシャルワーク実践の全体像を理解します。 ・社会福祉士として多様な・複雑化する社会の課題に対応するため、より実践的かつ効果的ソーシャルワークの様々な理論と方法を理解します。 ・社会資源の活用を踏まえた地域における社会資源の開発やソーシャルワーク実践への展開について理解します。 ・支援を必要とする人との支援関係の形成やニーズの察知に必要知識と技術を理解します。 ・個人や家族の主体性を尊重し、個人がもつ力を強化し、社会開発に貢献していくことについて理解します。 	福祉援助の基礎と専門職①	福祉援助の基礎と専門職②	福祉援助の理論と方法①④	福祉援助の理論と方法①④	地域福祉の理論と方法④	社会調査の意義②	社会開発論②	社会資源論②
<p>社会福祉の発展、政策についての理解を基に、福祉サービス提供組織の役割と運営の基礎理論、社会福祉の政策意識を理解する</p> <p>超国家化社会における社会福祉を考えるうえで重要な社会福祉政策・政策に関する知識を身に付けるとともに、社会福祉行政、財政および福祉サービス提供組織の管理・運営に関する知識を習得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の概念や対象及びその理念について、社会福祉政策の展開過程も含めて習得します。 ・現代社会における社会福祉政策の役割と意義、取り組むべき課題について理解します。 ・社会福祉にかかわる保険制度である年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労働保険制度について学ぶとともに、保険制度以外の社会福祉制度についての知識を習得します。 ・制度・政策設計のありかた、社会福祉の政策全体の体系、法的根拠、関連する行政組織を中心に、財政政策、福祉計画、人材の養成、定着政策等の専門基礎の知識を習得します。 			社会保険④		福祉サービスの提供と経営②	福祉政策論②		
<p>社会福祉の各種制における法制度の理解、ソーシャルワークの発展過程及び援助方法について理解する</p> <p>福祉実践現場におけるソーシャルワークプロセスの意義や展開方法を理解するとともに、実践の基盤となる基本的な法制度に関する知識や、それらを活用した援助方法を理解すると、援助活動をする上で必要となる力を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者、児童、貧困状態にある人等社会福祉援助を必要とする人々に関する今日的な生活課題に対する法制度の内容と、それらを活用した支援方法を理解します。 ・福祉現場の意義、意義を担う社会、福祉現場活動の展開について理解します。 ・各社会福祉実践機関・施設等における固有な援助目標、援助内容、支援計りづり等についての理解を深め、ロールプレイ等を通して各援助の場の特性を生かした実践力を身に付け、チームアプローチを可能とする能力を身に付けます。 ・社会福祉援助を必要とする人々の具体的な生活支援の視点と方法を理解します。 ・保健医療の動向や政策・制度・サービスと実践に必要なソーシャルワーク支援の枠組みを学びます。 ・刑事司法の動向、制度のしくみ、関係機関の役割を理解します。 			高齢者に対する支援と介護保険制度②		福祉サービスの提供と経営②	福祉政策論②		
<p>社会福祉援助の理論を現場に活用する</p> <p>社会福祉実践現場でソーシャルワーカーとしての基礎的・知識・技能等を確立するとともに、福祉現場の課題やソーシャルワーカーとしての自己の能力や適性について問題点や改善点を考察するとともに、社会福祉士としての基礎的・知識・技能等を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士としての基礎的・知識・技能等を身に付けます。 ・多様な対象者への横断的、包括的支援について実践的に理解します。 ・多様な対象者の事例を用い、必要なソーシャルワークの技術、援助の展開過程、実践モデルを学びます。 ・実習・実習等を通して、必要知識・技能を身に付け、具体的な実践について具体的な実践的理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的・知識・技能等を習得します。 ・実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として体系立てていくことができる総合的な能力を身に付けます。 ・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合し、社会福祉士としての使命に基づき支援を行うための実践能力を養い、総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解します。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握することができる能力を習得します。 	福祉援助演習Ⅰ②	福祉援助演習Ⅰ②	福祉援助演習Ⅱ②	福祉援助演習Ⅱ②	福祉援助演習Ⅲ②	福祉援助演習Ⅲ②	福祉援助演習Ⅳ②	福祉援助演習Ⅳ②
<p>精神障害者とその家族に対する支援について理解する</p> <p>精神障害者とその家族に対する支援について理解し、精神保健福祉士が行う福祉援助活動の基本的な考え方やその方法を理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害及び精神保健福祉士の課題をもつ人やその家族に対する精神保健福祉士の業務と役割、相談支援に必要な価値・知識・技術を理解します。 ・精神保健福祉士の基本的な役割、精神障害特性や精神医療の特性について理解します。 ・精神障害者の疾病と障害を理解し、個別支援からソーシャルアクションまでの実践の展開と地域に根付いた支援、多職種連携を支援する知識と技術を習得します。 ・精神科/ハビリテーションの概念やアプローチを理解し、実践的な技術を習得します。 ・精神障害者の地域生活支援と権利を守る方法について理解します。 			精神保健福祉の基礎論②					精神障害リハビリテーション論②
<p>精神保健福祉に関する倫理及び法制度理解する</p> <p>精神保健福祉分野において、実践の基盤となる基本的な法制度に関する知識や精神障害者の地域生活を支える制度について理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉法、新産業法等を中心にソーシャルワークの視点から制度の概要と課題を理解します。 ・精神障害者の生活支援（居住、就労、経済等）に関連する制度、福祉サービスの知識と支援内容について理解します。 					精神保健福祉制度論②			
<p>精神保健福祉現場の理論を現場に活用する</p> <p>精神科医療機関、障害者支援施設等での実習を通して、精神保健福祉士に必要な基礎的・知識・技能等を深め、精神保健福祉現場における課題の発見や解決方法を検討する力、精神保健福祉士としての自己の能力や適性について内省する力など、精神保健福祉士としての実践的・知識・技能等を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習における実践的な体験を通して、精神障害者の置かれている状況の理解、総合的実践能力を養うとともに、問題の解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得します。 ・精神保健福祉援助の基となる知識・技能をもとに、多様化する生活課題に対応する能力を養い、ソーシャルワーカーとしての使命感を高めていくことができる総合的な能力を身に付けます。 ・精神保健福祉援助実習を通して、様々な生活課題を抱える精神保健福祉現場の実態に接触し、精神保健福祉の専門職への認識と自己理解を深め、実践的な力を身に付けます。 ・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者や家族への支援の実践に接触し、本人や家族のニーズを踏まえた実践的援助力を身に付けます。 ・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉士の業務内容や職業倫理への理解を深め、精神保健福祉士に必要な知識・技能や実践的指導力を身に付けます。 								

◆ 基本型の履修モデル

【社会福祉学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル

125 単位

★主要授業科目を青フоновントで表記

単位：学士
(社会福祉学)

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
基礎教育科目	学習力の養成 ●他者共生 ★情報リテラシー I ★ブルーデータリテラシー I	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	2
	思考力の養成 ★情報リテラシー I ★ブルーデータリテラシー I	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	6
	表現力の養成 ★表現技法 I (読解・分析) ★表現技法 II (作文・論文)	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	4
	人間力の養成 ●自己管理と社会規範 ●チームワークとリーダーシップ	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	2
	社会力の養成 ●自己管理と社会規範 ●チームワークとリーダーシップ	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	2
	社会の理解 ●自己管理と社会規範 ●チームワークとリーダーシップ	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	4
基礎教育科目 (小計)	6	8	6	2	2	2	0	1	27
	基礎科目								
基礎科目	★現代社会と福祉 ★相談援助の基礎と専門職 I ★相談援助の理論と方法 I	4 2 2	2 2 2	★相談援助の理論と方法 II ★社会医療	4 4	★相談援助の理論と方法 ★地域福祉の理論と方法	4 2	★相談援助の理論と方法 ★地域福祉の理論と方法	16
	医学概論 生活問題論	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	18
専門教育科目	★相談援助演習 I	2	2	2	2	2	2	2	0
	★相談援助演習 I	2	2	2	2	2	2	2	10
専門教育科目 (小計)	12	12	12	16	18	16	6	4	98
	合計								
125									

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、履修の手引きの該当箇所を確認すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期、後学期については入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。
 ※「相談援助実習 I」「相談援助実習 II」：履修登録制限除外科目(集中講義)

教育福祉学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 教育福祉学分野における知識・技能・態度】

教育福祉学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉的援助を実践できる能力を身に付けている。

- (1) 人が成長すること・支え合うことに関する基本的かつ体系的な知識・技能及び態度を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉、健康教育に係る免許・資格などの専門性や協働的实践力を修得する。
- (3) 教育や福祉のさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする意欲や態度を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育福祉学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

- (1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。
 - ① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。
 - ② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。
 - ③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。
 - ④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。
 - ⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 教育福祉の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門的な知識・技能を修得するとともに、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉の援助を実践していこうとする態度を身に付けるため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、子どもの健康と成長を支援する際に必要となる教育福祉の基本的な考え方や知識・技能を教育内容とする。

②「展開科目」では、教育福祉の基本的な考え方や知識・技能を踏まえ、教育福祉のより専門的な知識・技能とそれらを実践する力の修得をめざす他、関連する諸分野の知識・技能を教育内容とする。

③「実習科目」では、これまでの学びを実際の場において確認・実践することで、修得した知識・技能を総合的に実践する力の育成を教育内容とする。

④教員免許取得に係る科目は、別途に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス（授業計画）には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4) 「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5) 学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6) 学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1) 学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2) 学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA（科目の成績評価）制度を用いて学修成果を把握する。

(3) 学士カールブリック（学修成果を測るための評価基準表）を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション（振り返り）を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「保育・教職実践演習」「教職実践演習」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

- (5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。
- (6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育福祉学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

- (1) 高等学校で履修した主要科目について基礎的な学力を有するとともに、論理的に考え、根気強く課題に取り組む姿勢を身につけている。
- (2) 教育や社会福祉あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、そうした分野に関わってほしいという強い意欲を有している。
- (3) 教員免許や各種資格の取得に向けた目的意識をもち、必要な努力を惜しまない姿勢を有している。
- (4) 自分の考えを口頭や文章で適切に表現し、他者とのコミュニケーションを図ることができる。
- (5) 物事に主体的に取り組む、他者と協調・協働して行動できる。

【2 入学者選抜の方法】

教育福祉学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

教育福祉学科を志望するみなさんには、大学での学修が円滑に進むよう、特に以下の学習内容及び学習態度の習得が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心とした、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことに関する基礎的な知識・技能
- (2) 幅広い分野に興味・関心を広げ、自分から調べようとするなど、学習に対する意欲的な態度
- (3) 免許資格を取得する上で求められる基本的な知識・技能の他、読書やボランティア体験などを通じて人間性を豊かにしようと努める態度

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 教育福祉学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

[1] 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度]

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

[2] 専門教育分野における知識・技能・態度]

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<教育福祉学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育福祉学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

[2] 教育福祉学分野における知識・技能・態度]

教育福祉学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉の援助を実践できる能力を身に付けている。

- (1) 人が成長すること・支え合うことに関する基本的かつ体系的な知識・技能及び態度を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉、健康教育に係る免許・資格などの専門性や協働的実践力を修得する。
- (3) 教育や福祉のさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする意欲や態度を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数	授業形 態	1年		2年		3年		4年		1					2			主 要 授 業 科 目																					
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	1	2	3	4	5	1	2	3																						
基礎 教 育 科 目	学習力の 養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																																				
		利他共生	1前	1	講義	●																																				
	思考力の 養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																																		★		
		データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																																	★		
		統計分析法	2前	1	講義・演習			○																																		
		問題解決法	3後	1	講義・演習							●																														
		創造思考法	4後	1	講義・演習								●																												★	
	表現力の 養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																																		★		
		コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																																		★	
		コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																																	★	
		コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																																	
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																																				
		表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																																			
		表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																																		
		表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																																	
		表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習																																					
	人間の 力の 養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																																				
		チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																																			
		地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●																																	★	
		他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●																																	
	社会力の 養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●																																	★	
		社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●																																★	
	人間の 理解	人間心理と人間行動	1前～	1	講義・演習				○																																	
		現代家族と育児介護	1前～	1	講義								○																													
		健康管理と身体活動	1前～	1	講義・実技			○		○		○		○																												
		スポーツと運動科学	1前～	1	講義・演習			○		○		○		○																												

こどもと表現(造形)	2・3前	2	講義			○	○											◎	◎			
国語	2・3前	2	講義			○	○												◎	◎		
社会	2・3前	2	講義			○	○												◎	◎		
算数	2・3後	2	講義				○	○											◎	◎		
理科	2・3前	2	講義			○	○												◎	◎		
生活	1・2後	2	講義		○		○												◎	◎		
音楽	2・3前	2	演習			○	○												◎	◎		
図画工作	2・3前	2	演習			○	○												◎	◎		
家庭	3・4前	2	講義					○	○										◎	◎		
体育	1・2後	2	演習		○		○												◎	◎	◎	
英語	3・4前	2	講義					○	○										◎	◎		
日本国憲法	1・2・3・4後	2	講義		○		○		○	○									◎	◎		
心理学研究法	3・4前	2	講義					○	○											◎		
心理学統計法	3・4前	2	講義					○	○											◎		
学習・言語心理学	1・2・3・4後	2	講義		○		○		○	○										◎		
知覚・認知心理学	2・3・4後	2	講義					○	○	○										◎		
臨床心理学概論	1・2後	2	講義		○		○													◎		
感情・人格心理学	3・4前	2	講義					○	○											◎		
発達臨床心理学	2・3・4後	2	講義				○		○	○										◎		
障害者・障害児心理学	3・4前	2	講義					○	○											◎		
福祉心理学	3・4後	2	講義						○	○										◎		
社会心理学	3・4後	2	講義						○	○										◎		
社会・集団・家族心理学	3・4前	2	講義					○	○										◎			
心理学的支援法	2・3後	2	講義				○		○											◎		
心理療法	3・4前	2	講義					○	○											◎		
心理的アセスメント	2・3前	2	講義			○	○													◎		
スポーツ実技Ⅰ	1・2・3前	2	実験・実習	○		○	○													◎	◎	
スポーツ実技Ⅱ	2・3後	2	実験・実習				○		○											◎	◎	
スポーツ実技Ⅲ	4後	2	実験・実習							○										◎	◎	
スポーツ原理	1・2後	2	講義		○		○													◎	◎	
スポーツ心理学	2・3・4前	2	講義			○	○		○											◎	◎	
スポーツ経営管理	2・3・4後	2	講義				○		○	○										◎	◎	
スポーツ社会学	2・3・4後	2	講義				○		○	○										◎	◎	
運動学	2・3前	2	講義			○	○													◎	◎	
生理学	1・2後	2	講義		○		○													◎	◎	
衛生学	2・3前	2	講義			○	○													◎	◎	
公衆衛生学	2・3後	2	講義				○		○											◎	◎	
救急処置法	2・3後	2	講義				○		○											◎	◎	

学校保健	2・3前	2	講義			○		○										◎	◎				
健康管理論	3・4前	2	講義					○		○									◎	◎			
生活習慣病論	2・3・4後	2	講義				○		○		○								◎	◎			
トレーニング論	2・3後	2	講義					○		○									◎	◎			
体力測定法	2・3前	2	講義				○		○										◎	◎			
スポーツ指導法	3・4前	2	講義						○		○								◎	◎			
スポーツ栄養学	3・4前	2	講義						○		○								◎	◎			
コーチング理論	2・3後	2	講義					○		○									◎	◎			
スポーツ医学	3・4後	2	講義							○		○							◎	◎			
リハビリテーション論	3・4前	2	講義						○		○								◎	◎			
健康運動実践指導Ⅰ	2・3後	2	実験・実習					○		○										◎	◎		
健康運動実践指導Ⅱ	3・4前	2	実験・実習						○		○									◎	◎		
健康相談活動	3・4前	2	講義						○		○								◎	◎			
養護概論	2・3後	2	講義					○		○									◎	◎			
栄養学	2・3・4後	2	講義					○		○		○							◎	◎			
解剖生理学	2・3前	2	講義				○		○										◎	◎			
免疫学	1・2後	2	講義		○		○												◎	◎			
看護学概論	2・3前	2	講義				○		○										◎	◎			
看護技術論	2・3後	2	講義					○		○										◎	◎		
実習科目	教職体験研究	1前	1	演習	○														◎	◎		★	
	保育実習Ⅰ	3後	4	実験・実習						○										◎	◎		
	保育実習指導Ⅰ	3前	2	演習						○										◎	◎		
	保育実習Ⅱ	4前	2	実験・実習							○									◎	◎		
	保育実習指導Ⅱ	3後	1	演習							○									◎	◎		
	特別支援教育実習	4後	3	実験・実習								○								◎	◎	◎	
	幼児教育実習事前事後指導	3後	1	演習							○									◎	◎		
	幼児教育実習	4前	4	実験・実習								○								◎	◎	◎	
	初等教育実習事前事後指導	2・3後	1	演習					○		○									◎	◎		
	初等教育実習	3・4前	4	実験・実習						○		○								◎	◎	◎	
	心理学基礎実験	2・3前	2	実験・実習				○		○										◎			
	心理学調査実習	2・3後	2	実験・実習					○		○									◎			
	心理アセスメント実習	2・3後	2	実験・実習					○		○									◎			
	心理演習	3・4前	2	演習						○		○								◎		◎	
	看護学実習Ⅰ	3前	2	実験・実習							○									◎	◎	◎	
	看護学実習Ⅱ	3後	2	実験・実習								○								◎	◎	◎	
	看護学実習Ⅲ(救急処置)	4前	2	実験・実習								○								◎	◎	◎	
フィールドスタディⅠ	3・4前	1	実験・実習							○		○							◎	◎		★	
フィールドスタディⅡ	4前	1	実験・実習									○							◎	◎		★	
演習科目	保育・教職実践演習(幼小)	4後	2	演習								○							◎	◎	◎	★	

(2) 教育福祉学科の教職科目

※次の欄の教職科目の修得単位は、専門教育科目の修得単位に含めることができます。ただし、両科目欄にある同一名称の科目に関しては、両科目の単位を修得しても、卒業要件に含めることができるのは1科目分の修得単位です。(本学のシステム上で上記のような設定を行っています)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目		
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2	3			
教職科目	教職概論	1前	2	講義	○															◎	◎	◎	★
	教育原理	1後	2	講義		○														◎	◎	◎	★
	教育心理学	1後	2	講義		○														◎	◎	◎	★
	発達心理学	1後	2	講義		○														◎	◎		
	教育行政学	3・4後	2	講義					○		○									◎	◎		
	特別支援教育の理解と方法	1・2前	1	講義	○		○													◎	◎	◎	★
	教育課程論	2・3前	2	講義			○		○											◎	◎	◎	
	保健体育科教育法Ⅰ	3・4前	4	講義					○		○									◎	◎		
	保健体育科教育法Ⅱ	3・4後	4	講義					○		○									◎	◎		
	道徳の指導法	2・3後	2	講義				○		○										◎	◎		
	総合的な学習の時間と特別活動の指導法	2・3後	2	講義				○		○										◎	◎		
	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2・3前	2	講義			○		○											◎	◎		
	生徒・進路指導の理論と方法	2・3前	2	講義			○		○											◎	◎		
	生徒指導の理論と方法	2・3前	2	講義			○		○											◎	◎		
	教育相談の理論と方法	2・3前	2	講義			○		○											◎	◎		
	養護実習事前事後指導	3後	1	演習						○											◎	◎	
	養護実習Ⅰ	4後	2	実験・実習								○								◎	◎	◎	
	養護実習Ⅱ	4後	2	実験・実習								○								◎	◎	◎	
	中等教育実習事前事後指導	2・3後	1	演習				○		○											◎	◎	
	中等教育実習Ⅰ	3・4前	2	実験・実習					○		○									◎	◎	◎	
中等教育実習Ⅱ	3・4前	2	実験・実習					○		○									◎	◎	◎		
教職実践演習(養護教諭)	4後	2	演習								○								◎	◎	◎	(★)	
教職実践演習(中・高)	4後	2	演習								○								◎	◎	◎	(★)	

※(★)各免許資格を取得する履修モデルのみ主要授業科目かつ学修成果を確認する科目とする
 ※(★)それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

■教科及び領域の内容について理解する
 小学校の教育課程で取り扱われる各教科について、それぞれが持つ特性と内容の理解を深めるとともに、各教科の特質と教育内容を基に高い教養的・社会的な教科指導ができる力を身に付けます。
 ・小学校各教科について、学習指導要領の趣旨を理解するとともに、教科書の目標・内容及びその果たすべき役割について理解を深め、各教科に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けます。
 ・「国語」では、話す、聞く、書く、読むの活動に関する表現力、理解力、思考力、想像力及び言語感覚を身に付けます。
 ・「社会」では、地域社会や我が国の国土と歴史に対する理解を深めるとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動や、それに基づいた表現活動の進め方を身に付けます。
 ・「算数」では、数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用」の領域についての理解を深め、数学的な概念を身に付けます。
 ・「理科」では、物理、化学、生物、地学に関する理解を深め、科学的な見方、考え方を身に付けます。
 ・「生活」では、児童の発達段階を考慮して、生活の中の具体的な活動や体験を授業内容として構想する力を身に付けます。
 ・「音楽」では、歌唱・演奏・創作などの表現活動及び鑑賞の活動を通して、音楽に対する感性や知識・技能を身に付けます。
 ・「図画・工作」では、表現や鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動を展開する力を身に付けます。
 ・「家庭」では、衣食住などの家庭生活に関する知識を深め、実践的・体験的な活動を展開する力を身に付けます。
 ・「体育」では、運動や健康安全に関する理解を深め、基本的な運動、ゲーム、体つり運動、器械運動、陸上運動、水泳、表現運動、ボール運動に関する知識・技能を身に付けます。
 ・「英語」では、中・高等学校の外国語科で使うコミュニケーション能力を支える素地づくりとしての小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身に付けます。
 幼稚園の教育課程で取り扱われている領域について、それぞれの領域に関する専門的事項について理解を深めるとともに、領域の総合性を踏まえた指導ができる力を身に付けます。
 ・「子ども健康」は幼児期の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの知識を身に付けます。
 ・「子ども人間関係」は幼児の人と関わる力の育ちについて知識を身に付けます。
 ・「ことばと表現」は幼児の豊かな言葉や表現の育成についての知識及び技能を身に付けます。
 ・「ことばと表現」は幼児の豊かな言葉や表現の育成とともに、想像する楽しさを広げようとする知識を身に付けます。
 ・「ことばと表現」は幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの知識・技能、表現力を身に付けます。

生活②	国語②	算数②	英語②
体育②	社会②		家庭②
	理科②		
	音楽②		
	図画工作②		
子ども人間関係②	子ども言葉②	子ども健康②	
子ども環境②	子どもと表現(音楽)②		
	子どもと表現(造形)②		

■保育の背景・目的について理解する
 社会福祉の基本的な考え方やその役割、援助の仕方などについて理解するとともに、保育の現状と課題を考察し、現代社会に求められる保育や養護の役割や業務などについて理解します。
 ・教育福祉学の基礎を構成する社会福祉学についての基礎的な知識を習得します。また、子どもや子育て家庭、障害者への支援のあり方、保育実践の基本的な考え方や社会的養護サービスの理念を学び、保育の本質や目的を理解します。
 ・保育や養護の現状と課題について考察するとともに、その意義並びに歴史、法体系、理念などについて理解し、保育実践や社会的養護サービスの基本的な考え方を身に付けます。

社会福祉概論②	子ども家庭福祉②	子育て支援①	
保育原理②	社会的養護①②	障害者福祉論②	

■保育の対象について理解する
 子どもの保健、食生活、家族援助等の分野で必要となる保育の基礎的な内容を学び、保育対象者に応じた保育や援助のあり方を身に付けます。
 ・「保育の対象となる子どもの発達と健康」健康の増進、疾病の予防について理解します。また、子どもの健康観察や事故予防、急患処置、基本的な生活習慣指導への援助などについて学び、小児保健の基本的な考え方やその活用、及び今日の課題について理解を深めます。
 ・小児科における現代的な食生活と栄養に関する基本的知識を身に付けるとともに、保育の対象は子ども・保護者をめぐる多様な状況であることを理解し、家族の意義と子育て支援の重要性を認識します。

		子どもの保健②	子どもの健康と安全①
			子どもの食と栄養②
		子ども家庭支援論②	

■保育の内容・方法について理解する
 乳幼児や障害者の発達と健康、保育問題の対処法や介助技術の基本を学び、保育所等における保育内容の特性および基本的な保育方法のあり方について学び、乳幼児保育、障害児保育の基本と援助の仕方を身に付けます。

		乳児保育①②	乳児保育①①
			障害児保育②
		保育内容の理解と方法①②	保育内容の理解と方法①②

■特別支援教育の基礎理論について理解する
 特別支援教育の理念とは何か、また、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の意義がどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解します。
 現代の特別支援学校の教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解します。

特別支援教育概論②			
-----------	--	--	--

■知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)のある幼児、児童及び生徒の心身、発達及び病弱について専門的に理解する
 心身に障害のある幼児、児童及び生徒、特に、知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)のある子どもの心身、生活及び発達について、その特徴やそれらの相互作用、発達の特性を理解するとともに、家庭や関係機関との連携について専門的に理解します。

		知的障害者の心理・生理・病理②	
		肢体不自由者の心理・生理・病理②	
		病弱者の心理・生理・病理②	

■知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)に障害のある幼児、児童及び生徒の教育課程及び指導法について専門的に理解する
 特別支援学校教育要領(学習指導要領)を基準として特別支援学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて専門的に理解します。
 知的障害・肢体不自由・病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病状や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等(「自立活動」を除く。*)の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けます。

		知的障害者教育総論②	知的障害者指導論②
		肢体不自由者教育総論②	肢体不自由者指導論②
		病弱者教育総論②	病弱者指導論②

■視覚・聴覚障害、重複障害、発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身・発達・病弱、保育課程及び指導法について包括的に理解する
 特別支援学校教育要領(学習指導要領)を基準として特別支援学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解します。
 視覚・聴覚障害、重複障害、発達障害のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等(「自立活動」を除く。*)の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けます。

		視覚・聴覚障害者教育総論②	重複障害者教育総論②	発達障害者教育総論②
--	--	---------------	------------	------------

■健康運動の理論と方法について理解する
 健康運動の理念に基づく実践と指導について、生涯スポーツに関わっていただくための基礎的な知識の理解を深めるとともに、各年齢に応じた健康運動実践指導するための能力を身に付けます。
 ・スポーツがもたらす人間への影響を理解し、各運動項目の基本的な技術、ルール、指導法及び様々なスポーツ場面においても活躍できるリーダーとしての資質を身に付けます。
 ・スポーツの特性・特徴について考察するとともに、スポーツの現状を心理学、経営管理、社会学、医学などの様々な観点から理解する能力を身に付けます。
 ・自ら見本を示せる技術と身に付け、集団への運動指導力やそれぞれの運動の理論を管理し、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身に付けます。

スポーツ実技Ⅰ②	スポーツ実技Ⅱ②		
運動学②			
体力測定法②	トレーニング論②		
	コーチング理論②		
		スポーツ指導法②	

■スポーツ原理②

スポーツ心理学②	スポーツ経営管理②	スポーツ医学②	リハビリテーション論②	スポーツ社会学②
----------	-----------	---------	-------------	----------

■健康運動実践指導Ⅰ②

■健康運動実践指導Ⅱ②

目 健康管理の理論と方法について理解する
 学校運営上求められる学校保健推進のための基本的な知識の理解を深めるとともに、子どもの成長・発達に
 応じた健康管理を行う能力を身に付けます。
 ・子どもの成長・発達の特徴や健康の維持・増進に関連する基本的な知識を習得し、子どもの健康問題につ
 いて理解するとともに、児童・生徒の健康管理や安全に常に配慮する姿勢を身に付けます。
 ・実践知識の果たすべき職務や役割についての基本的な知識を習得し、保健室の在り方や児童・生徒の健全
 な成長・発達を促進するための具体的な方法を理解するとともに、学校緊急処置に必要な知識・技術・態度を
 身に付けます。

生理学②
 免疫学②

生活習慣病論②
 精神生理学②
 衛生学② 公衆衛生学②
 栄養学②
 薬理概論②
 学校保健② 精神保健学④
 救急処置法②
 看護学概論② 看護技術論②

健康管理論②

健康相談活動②

小児保健②

看護学実習Ⅰ② 看護学実習Ⅱ②

看護学実習Ⅲ(救急処置)
②

目 心臓と循環器系の理論と方法について理解する
 教育現場での相談や援助のあり方について理解し、具体的な問題に対してそれぞれに適した対応をすること
 のできる知識と、カウンセリング・マインドで対応できる能力を身に付けます。
 ・心理学において必要な様々な研究方法について学び、基礎的な統計法や実験的研究方法の知識を身に付
 けます。
 ・心理学の実験・実習を通して、データ解析や心理検査等の基礎的な手法を実践的に身に付けます。
 ・知覚、記憶、言語、思考、学習など、人間が生活を支える上で基礎となる心理学に関する知識を身に付
 けます。
 ・人が集団の中でどのように振舞うかというような、行動理解の基礎となる社会心理の知識を身に付けます。
 ・性格や人格特性などの個性や個人差の問題を学び、人格心理学の知識を身に付けます。
 ・心の問題を抱えた人を理解するための理論とその援助方法について、事例研究を通して、心理臨床の実践
 的課題への基本姿勢を身に付けます。
 ・カウンセリング・マインドについての理解を深めるとともに、自己を振り返り、洞察を深め、他者理解へと関心を
 広げる姿勢を身に付けます。

心理学概論② 教育心理学②

発達心理学②
 学習・言語心理学②

臨床心理学概論②

心理統計法②

心理学研究法②

心理学調査実習②

知覚・認知心理学②

社会心理学②
 発達臨床心理学②
 福祉心理学②

社会・集団・家族心理学②

障害者・障害児心理学②

心理学的支援法②

心理的アセスメント②
 心理学基礎実験②

心理アセスメント実習②

※印刷業者へのご依頼
 体系図の全てのページを(横向きの場合)以下に以下の文章を挿入してください。
 ※表中の数字は単位数を表し、②は必修科目 ②は選択科目です。

実践心理学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び心理学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 心理学分野における知識・技能・態度】

対人援助場面を含む多様な社会状況で活かすことのできる心理学及び人間科学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、人間が直面する諸課題の解決のために活用する意欲・能力を身に付けている。

- (1) 自己理解、他者理解、人間関係についての理解をもたらす心理学及び人間科学の基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。
- (2) 人間が社会生活や職業生活で直面する諸課題を、一般心理学及び臨床心理学、発達心理学、社会心理学の観点から総合的に理解して、その理解を課題の解決のために活用する意欲や能力を身に付けている。
- (3) 心理学及び人間科学に関する諸理論を用いて、人間の行動に関する新たなアイデアを創出し、それについて科学的・実証的に説明する能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

実践心理学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

- (1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。
 - ① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。
 - ② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。
 - ③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2)心理学の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・資質の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、一般心理学に関する理論とその研究方法、さらにそれらの知識や技能を応用した心理学領域の知識と技能を教育内容とする。

②「展開科目」では、臨床心理学領域、発達心理学領域、社会心理学領域における、より専門性の高い知識と技能、及びそれらの適用背景となる社会福祉についての知識を教育内容とする。

③「実践科目」では、幅広い心理学の知識と技能を、様々な実践の場で適用するための総合的な知識・技能・態度の育成を教育内容とする。

(3)科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1)「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「心理学総合演習Ⅱ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、

定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

実践心理学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

(2) 心理学及び人間科学、さらにそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(4) 心理学に関する資格の取得、心理学を活かせる様々な場での活躍に向けて、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

(5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に課題に取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

実践心理学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

(2) 高等学校での履修科目に対する学力検査

(3) 小論文

(4) 面接

(5) プレゼンテーション

(6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

実践心理学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

(1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習

(2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲の持続

		スポーツと運動科学	1前～	1	講義・演習	○		○		○		○									◎							
		日本社会と歴史文化	1前～	1	講義・FW		○		○		○		○								◎							
		生命科学と物理化学	1前～	1	講義・実験	○		○		○		○									◎							
	社会の理解	情報社会とデータサイエンス	1前～	1	講義	○		○		○		○									◎							
		法律社会と法律問題	1前～	1	講義		○		○		○		○								◎							
		福祉政策と福祉制度	1前～	1	講義		○		○		○		○								◎							
		日本国家と政治行政	1前～	1	講義				○		○		○								◎							
		経済構造と経済政策	1前～	1	講義		○		○		○		○								◎							
		現代医療と生命倫理	1前～	1	講義		○		○		○		○								◎							
		国際社会と国際問題	1前～	1	講義						○		○								◎							
		世界宗教と民族問題	1前～	1	講義		○		○		○		○								◎							
	国際の理解	世界動向と国際貢献	1前～	1	講義							○		○						◎								
		国際平和と安全保障	1前～	1	講義	○		○		○		○		○						◎								
		国際関係と日本外交	1前～	1	講義	○		○		○		○		○						◎								
		地球環境と環境対策	1前～	1	講義		○		○		○		○							◎								
専門教育科目		基礎科目	心理学概論	1前	2	講義	●														◎						★	
			心理学の展開	2前	2	講義			●													◎	◎					★
	心理学研究法		2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎						★	
	心理学統計法		1・2前	2	講義	●		●													◎							
	心理学実験		1・2・3後	2	講義		○		○		○										◎		◎					
	心理的アセスメント		2・3前	2	講義			○		○											◎							
	心理学基礎実験		2前	2	実験・実習			○													◎		◎				★	
	心理学調査実習		2後	2	実験・実習					○											◎		◎					
	心理アセスメント実習		2・3後	2	実験・実習					○		○									◎	◎					★	
		基幹科目	感情・人格心理学	1・2・3前	2	講義	○		○		○										◎							
			教育・学校心理学	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎	◎					
			学習・言語心理学	1・2・3後	2	講義		○		○		○										◎						
			知覚・認知心理学	1・2・3後	2	講義		○		○		○										◎						
			神経・生理心理学	2・3・4後	2	講義				○		○		○								◎						
			臨床心理学概論	1・2・3後	2	講義		○		○		○										◎	◎					★
			精神疾患とその治療	3・4前	2	講義					○		○									◎						
			心理学的支援法	2・3・4後	2	講義				○		○		○								◎						★
			社会・集団・家族心理学	3・4前	2	講義					○		○									◎						
			社会心理学	1・2・3前	2	講義	○		○		○											◎	◎					★
			産業・組織心理学	3・4後	2	講義						○		○								◎						
			発達心理学	1・2・3後	2	講義		○		○		○										◎	◎					★
			児童心理学	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎	◎					
		青年心理学	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎	◎						
		展開科目	心理療法	3・4前	2	講義					○		○								◎							
			司法・犯罪心理学	3・4後	2	講義						○		○							◎							
			健康・医療心理学	2・3・4後	2	講義				○		○		○							◎	◎					★	
			公認心理師の職責	3・4後	2	講義						○		○								◎						
	人体の構造と機能及び疾病		2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎	◎						
		心理演習	3・4前	2	演習				○		○									◎	◎	◎						

心理実習	4前	2	実験・実習						○									◎					
対人関係心理学	2・3・4前	2	講義			○		○	○										◎				
消費者心理学	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎				
キャリア心理学	3・4前	2	講義					○		○									◎				
対人・集団行動分析	4前	1	演習							○									◎				
消費者行動分析	3・4後	2	演習						○	○									◎				
対人スキル実践演習	3前	2	演習					○											◎	◎			
関係行政論	4後	2	講義							○									◎				
福祉心理学	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎	★			
高齢者心理学	3・4後	2	講義						○	○									◎				
発達臨床心理学	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎				
障害者・障害児心理学	3・4前	2	講義					○		○									◎	◎			
現代社会と福祉	2・3前	4	講義			○		○											◎	◎			
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎	◎			
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎	◎			
高齢者に対する支援と介護保険制度	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎	◎			
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎	◎			
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎	◎			
貧困に対する支援	2・3・4後	2	講義				○		○	○									◎	◎			
保健医療サービス	3・4後	2	講義						○	○									◎	◎			
更生保護制度	3・4後	2	講義						○	○									◎	◎			
教育心理学	2・3後	2	講義				○		○										◎	◎			
哲学概論	3・4前	2	講義					○		○									◎				
社会学概論	3・4後	2	講義						○	○									◎				
社会的養護Ⅰ	3・4後	2	講義							○	○								◎				
ジェンダー福祉論	3・4前	2	講義					○		○									◎				
共生援助論	3・4後	2	講義						○	○									◎				
発達障害教育総論	3・4後	2	講義						○	○									◎				
障害者スポーツ論	3・4後	2	講義						○	○									◎				
医学概論	3・4前	2	講義					○		○									◎				
スポーツ心理学	3・4前	2	講義					○		○									◎				
実践科目	心理学基礎演習Ⅰ	1前	2	演習	●														◎	◎	◎	★	
	心理学基礎演習Ⅱ	1後	2	演習		●														◎	◎	◎	★
	心理学実践演習Ⅰ	3前	2	演習				○												◎	◎	◎	★
	心理学実践演習Ⅱ	3後	2	演習					○											◎	◎	◎	★
	心理学総合演習Ⅰ	4前	2	演習							●									◎	◎	◎	★
心理学総合演習Ⅱ	4後	2	演習								●								◎	◎	◎	★	

※ ★ それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

実践心理学科 専門教育科目 体系図

は主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標

■基礎的な心理学およびその周辺領域の知識を修得する
心理学のなかでも基礎心理学に分類される科目の理論的視点を身に付けることで、その後の発展科目を理解するための心理学的視点を獲得します。

心理学概論では、心理学全体について広く学ぶことで、それぞれの下位科目の関連等、学問的体系を理解するとともに、自身の関心領域を見いだすことができるようになります。学習・言語心理学、知覚・認知心理学、感情・人格心理学においては、心理学的な科学としての行動への理解の視点を修得します。神経・生理心理学、人体の構造と機能及び疾病では、行動の生物学的メカニズムを理解します。

■心理学的研究方法とその分析的視点を修得します。
学問としての心理学における研究方法およびデータの分析手続きの理論的理解および実践的技術を修得します。

心理学統計法では、心理学における各種研究手続きの理論的視点について理解します。心理学実験では、ヒトを対象としたさまざまな心理学実験を行い、分析の結果についてのレポートを作成することで、心理学における科学論文の書き方を修得します。心理学統計法では統計的処理の理論的基礎を理解し、心理学調査実習では、統計の基礎で学んだ手続きを実際のデータに応用させることで、データ処理・分析、その結果報告方法の技術を修得します。対人・集団行動分析では、心理学的データを科学的に分析する手法を身に付けます。

■発達心理学に関する知識を修得する
発達心理学を実践的心理学のひとつと位置づけ、ヒトの発達についての理解、発達支援の方法についての理解を目指します。

発達心理学において、発達心理学全体の体系について理解します。発達心理学、青年心理学、高齢者心理学においては、各ステージの発達の特徴を理解します。発達臨床心理学、障害者・障害児心理学では、発達心理学と関連の深い諸問題を対象とした支援の方法について理解します。

■社会心理学に関する知識を修得する
社会心理学を実践的心理学のひとつと位置づけ、ヒトと社会との関係について心理的に理解します。

社会・集団・家族心理学において、社会心理学全体の体系について理解します。対人関係心理学、消費者心理学においては、社会心理学領域の具体的な理論、背景知識を身に付けます。さらに対人スキル実践演習では実際の職場での実践力を鍛えます。キャリア心理学では、社会心理学の知見を対人援助に応用した具体的な支援方法の視点を身に付けます。消費者行動分析では、社会心理学の知見を科学的に分析する手法を身に付けます。

■臨床心理学に関する知識を修得する
心理学を実践的心理学のひとつと位置づけ、対人援助のための理論についての知識を修得します。

臨床心理学概論において、臨床心理学全体の体系を理解します。精神疾患とその治療では、ヒトが示す心理学的な諸問題についての知識を修得します。心理学的支援法において、臨床心理学的介入の全体像を理解したうえで、心理療法では、精神分析療法、認知行動療法などの心理療法の視点を修得します。心理的アセスメントでは、各種心理検査等の概要、具体的な手続きについて修得します。

■実践的心理学に関する技術を修得する
実践的に心理学を応用するため、対人援助のための具体的なスキルを修得します。

心理アセスメント実習、心理演習では、さまざまな実践的な心理学的介入の基礎的視点を修得します。心理実習では、臨床心理士や公認心理師が活動する領域の現場への見学を通して、実際の業務について理解します。

■実践的心理学に関する職業や各領域の発展・支援を修得する
実践的に心理学を応用し、各領域の現場で働く上で求められる役割や責任を学び、各現場で生じる課題や必要な支援について修得します。公認心理師の職業では、公認心理師として働く上で求められる倫理や能力について理解します。健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学では、各領域で生じる問題やその背景、及び必要な支援について修得します。関連行政論では、各領域に關係する法律、制度について理解します。

■社会福祉に関連する知識を修得する
心理学の知見を実際の対人援助領域で活用できるものにするべく、対人援助の基盤となる社会福祉に関連する基礎的知識を習得します。

さまざまな領域の福祉の現状とその支援制度について理解することで、共生社会の実現に資する実践力を基礎づけます。

■心理学に関する新たな視点を展開する
心理学基礎演習では、心理学全体の体系について理解し、学習やディスカッション、プレゼンテーションを行うためのスキルについての修得します。心理学実践演習、心理学総合演習では、これまでに修得してきた心理学の知識を基に、考えを表現するためのスキルや研究スキル等を用いて、ゼミ形式の講義の中で自身の新たな心理学的知見を展開する力を修得します。具体的には、卒業研究として心理学の論文作成を行い、知識を創造し、報告する力を身に付けます。

	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
心理学概論②			心理学の展開②				哲学概論②	社会学概論②
感情・人格心理学②			教育心理学②				スポーツ心理学②	
知覚・認知心理学② 学習・言語心理学②			人体の構造と機能及び疾病②	神経・生理心理学②				
心理学統計法②			心理学研究方法②	心理学調査実習②			対人・集団行動分析①	
心理学実験②			心理学基礎実験②					
発達心理学②					児童心理学②		青年心理学②	高齢者心理学②
						発達臨床心理学②	障害者・障害児心理学②	発達障害教育総論②
社会心理学②			対人関係心理学②		社会・集団・家族心理学②			
			消費者心理学②			消費者行動分析②		
					キャリア心理学②			
					対人スキル実践演習②			
					精神疾患とその治療②			
臨床心理学概論②			心理的アセスメント②	心理学的支援法②	心理療法②			
			心理アセスメント実習②		心理演習②			心理実習②
			教育・学校心理学②					
			健康・医療心理学②					
			福祉心理学②					
						産業・組織心理学②		
						司法・犯罪心理学②		
						公認心理師の職業②		
								関係行政論②
			現代社会と福祉④					更生保護制度②
			福祉援助の基礎と専門論Ⅰ②	福祉援助の基礎と専門論Ⅱ②				保健医療サービス②
								貧困に対する支援②
								ジェンダー福祉論②
								社会的養護Ⅰ②
								医学概論②
								障害者スポーツ論②
心理学基礎実習Ⅰ②	心理学基礎実習Ⅱ②				心理学実践演習Ⅰ②	心理学実践演習Ⅱ②	心理学総合演習Ⅰ②	心理学総合演習Ⅱ②

◆ 基本型の履修モデル

単位：学士
(心理学)

★主要授業科目を青フオンントで表記

124 単位

【実践心理学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎 教育 科目	学習力の養成 ●利他共生	1							2	
	思考力の養成 ★情報リテラシー	1	★データリテラシー	1		●問題解決法	1	★創造思考法	4	
	表現力の養成 ●表現技法Ⅰ (経緯・分析)	1	●表現技法Ⅱ (執筆・討論)	1					6	
	人間力の養成 ●自己管理と社会規範	1	●自己マネジメントとリーダーシップ	1	●他者理解と信頼関係	1			4	
	人間の理解 ●社会的・職業的自立Ⅰ	1	●社会的・職業的自立Ⅱ	1					11	
	社会の理解 ●人間性と人間行動	1	●健康と身体活動	1	●日本社会と歴史文化	1				
	国際の理解 ●国際社会とグローバルイノベーション	1	●国際社会と国際問題	1	●法律社会と法律問題	1	●経済構造と経済政策	1		
					●世界動向と国際貢献	1			1	
基礎教育科目 (小計)	8	6	4	5	0	2	0	2	27	
専 門 教 育 科 目	★心理学概論	2	●認知心理学	2	★心理学の展開	2	●教育・学校心理学	2	現代社会と福祉	4
	心理学概論系	2	●学習・言語心理学	2	★心理学研究法	2	●心理学調査実習	2		16
	量的研究法系	2	●心理学実験	2	★心理学基礎実験	2	●心理学的アプローチ	2	●対人・集団行動分析	9
	心理査定系				●心理的アセスメント	2	●心理的アセスメント実習	2		6
	神経心理学系				●神経・生理心理学	2	●神経疾患とその治療	2		8
	臨床心理学系	2	★臨床心理学概論	2	●心理学的支援法	2	●心理療法	2		10
	社会心理学系	2	●社会心理学	2	●対人関係心理学	2	●社会・集団・家族心理学	2	●キャリア心理学	2
	社会心理学系				●対人関係心理学	2	●対人スキル実践演習	2	●社会学概論	2
	発達心理学系		●発達心理学	2	●福祉心理学	2	●産業・組織心理学	2	●関係行政論	2
	実践科目	2	●心理学基礎演習Ⅰ	2	●心理学基礎演習Ⅱ	2	●消費者心理学	2	●消費者行動分析	2
実践科目 (小計)	10	12	12	12	16	14	13	8	97	
合計	18	18	16	17	16	16	13	10	124	

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は卒業要件選択科目です (ただし免許・資格取得に必修となる科目は、履修の手引の該当箇所を確認すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもありますので、各年度当初に必ず確認してください。

7.コミュニティ政策学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(4) コミュニティ政策学部

ア 教育目的

地域社会におけるコミュニティ形成に関する諸課題を的確に認識し、幅広い視点からの問題分析や課題解決のための方向性を見だし、政策提言や価値創造、地域活動等の社会開発や地域開発の能力を身に付ける。

イ 人材像

地域社会の多様な場においてコミュニティ形成の中核を担い、広くは社会開発や地域開発に貢献する人材

コミュニティ政策学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及びコミュニティ政策学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】

コミュニティ政策学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。

- (1) コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。

- (2) 講義科目で学んだ専門的な知識とサービスラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。
- (3) 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成や課題解決に主体的に参画する態度・志向性を持っている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

コミュニティ政策学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

- ① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。
- ② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。
- ③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。
- ④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。
- ⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) コミュニティ政策の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・能力の修得のため、「専門教育科目」を置く。

- ① 「導入科目」では、コミュニティ政策の概念及びその政策過程の基礎的な考え方、コミュニティ政策に関わる仕組みや行動主体の役割について理解する教育内容とする。
 - ② 「基礎科目」及び「基幹科目」では、社会学、経済学、法律学、政策学の4分野における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解する教育内容とする。
 - ③ 「展開科目」では、専門的な知識や考え方を深め、課題に対して、自ら考えるための知識と技能を身に付ける教育内容とする。
 - ④ 「関連科目」では、コミュニティ政策や現代社会の課題を考えるために必要な関連領域・分野の知識や考え方、具体的な方法や事例などを理解する教育内容とする。
 - ⑤ 「実践科目」では、コミュニティ政策に対する興味や関心を高めるための動機づけと、サービスラーニング教育を用いた具体的な事例の理解を深める教育内容とする。
- (3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「ワークショップⅡ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

コミュニティ政策学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1)高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、基礎的な課題を解くことができる。

(2)コミュニティ政策学の学びに強い興味と関心を持ち、学んだことをサービラーニング等の活動を通じて、実践の場で生かす意欲を有している。

(3)コミュニティ政策や現代社会の課題に対する強い興味と関心を持ち、自ら学び、課題解決に取り組む意欲を有している。

(4)本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力・意欲があることを、高等学校での活動等から確認することができる。

(5)将来の職業選択や各種資格の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

(6) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

コミュニティ政策学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

コミュニティ政策学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 「現代社会」や「政治経済」など、社会事象や社会のしくみ、政治や経済に関する基礎知識を身に付ける学習、現代社会や政治・経済の問題に対する興味や関心などの意欲
- (3) インターンシップ(職業体験)やボランティア等を通じて、社会の現場に参画することへの意欲

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ コミュニティ政策学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>
 本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。
 【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】
 (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
 (2)情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
 (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
 (4)自己管理力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
 (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。
 【2 専門教育分野における知識・技能・態度】
 (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
 (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<コミュニティ政策学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>
 学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及びコミュニティ政策学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。
 【2 コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】
 コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。
 (1)コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。
 (2)講義科目で学んだ専門的な知識とサービスラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。
 (3)地域社会の多様な場において、コミュニティ形成や課題解決に主体的に参画する態度・志向性を持っている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年	2年	3年	4年	1					2			主要授業科目												
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4		5	1	2	3								
					●		○																						
基礎教育科目	の 学 習 力	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																							
	利他共生	1前	1	講義	●																								
	思 考 力 の 養 成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●								◎													★		
		データリテラシー	1後	1	講義・演習		●							◎														★	
		統計分析法	2前	1	講義・演習			○						◎															
		問題解決法	3後	1	講義・演習				●									◎											
		創造思考法	4後	1	講義・演習					●				◎	◎	◎	◎	◎										★	
		表 現 力 の 養 成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●								◎														★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)		1後	1	講義・演習		●							◎														★	
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)		2前	1	講義・演習			●						◎														★	
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)		2後	1	講義・演習				○					◎															
	表現技法Ⅰ(読解・分析)		1前	1	講義・演習	●								◎															
	表現技法Ⅱ(作文・論文)		1後	1	講義・演習		●							◎															
	表現技法Ⅲ(発表・討論)		2前	1	講義・演習			●						◎															
	表現技法Ⅳ(企画・立案)		2後	1	講義・演習				○					◎															
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)		3前	1	講義・演習					○				◎															
	人 間 力 の 養 成		自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●												◎										
		チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●											◎											
		地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●										◎										★	
		他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●									◎											
	の 社 会 力	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●										◎										★	
		社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●									◎										★	
	人 間 の 理 解	人間心理と人間行動	1前~	1	講義・演習	○		○		○								◎											
現代家族と育児介護		1前~	1	講義				○		○							◎												
健康管理と身体活動		1前~	1	講義・実技		○		○		○							◎												
スポーツと運動科学		1前~	1	講義・演習	○		○		○		○						◎												

	国際経済学	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
法律学分野	地方自治法	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	行政法(組織・作用法)	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
	行政救済法	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	商法・会社法	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	社会保障法	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	消費者法	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	労働法	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
政策学分野	公共管理論	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
	地方自治行政論	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	政策立案論	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
	政策評価論	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	公共政策論	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
	地域政策論	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	比較政策論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
関連科目	地域振興論	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
	NPO論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	キャリアデザイン	3 前	1	講義					○											◎
	地域スポーツ概論	2・3 前	2	講義			○	○										◎		
	スポーツマネジメント	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	社会福祉論	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	社会保障論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	地域福祉論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	地域環境論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	家族社会学	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	犯罪社会学	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	社会病理学	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	地域防災論	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	地域防犯論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	危機管理論	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	産業社会学	3・4 前	2	講義						○	○							◎		
	労働社会学	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	産業心理学	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	教育社会学	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
	社会教育学	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	教育行政学	3・4 後	2	講義						○	○							◎		
	環境経済学	2・3 後	2	講義				○	○									◎		
	観光経済学	3・4 前	2	講義					○	○								◎		
共有資源管理論	3・4 後	2	講義						○	○							◎			
実践科目	コミュニティ研究Ⅰ	1 前	2	演習	●													◎		★
	コミュニティ研究Ⅱ	1 前	2	演習	●													◎		★
	コミュニティ研究Ⅲ	1 後	2	演習		●												◎		★
	ケーススタディⅠ	3 前	2	演習					●									◎		★
	ケーススタディⅡ	3 後	2	演習						●								◎		★
	ワークショップⅠ	4 前	2	演習							●							◎	◎	★
	ワークショップⅡ	4 後	2	演習								●						◎	◎	★

※ ★ それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

コミュニティ政策学部 専門科目 体系図

オレンジ色は主要授業科目

科目学習の学習目標・到達目標

コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解する
コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決への道筋等を身に付けます。
コミュニティ政策論では、コミュニティ政策の概念及びその政策過程の基礎的な考え方、コミュニティ政策に關する批判的・主体的な視点について理解します。
地域社会論では、地域社会における課題を的確に認識し、幅広い視点からの課題分析や課題解決のための方向性を見出し、政策提言や価値創造に至るための基礎力を身に付けます。

社会科学における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解する

社会科学では、コミュニティ政策学部の学びの土台として、社会科学の基礎的な知識を身に付け、社会の構造および機能への理解を深めるための基本的な分析方法を獲得し、専門的な学びに発展させる力を身に付けます。
社会の構造および機能への理解を深めるためには、学生にとって身近な現代を分析することが基本となります。
現代社会論では、コミュニティを考える上で大切な条件である、戦後の日本社会の体系的な連続と変遷を理解し、「地域社会学」では、地域社会の歴史や変遷の理論的変化と問題意識を理解します。
社会への理解は人間への理解にもつながります。「社会心理学」では、社会と心理の相互作用過程である社会心理の諸相を理解し、「社会人類学」では、社会と文化の相互作用過程を理解します。
社会学では、社会学の諸相を理解し、社会学の諸相と社会との関係性について理解します。

社会科学に關する基礎理論と方法の両面から理解する

社会科学や社会に關する諸事象を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄と方法の両面から理解します。
「社会調査法」では社会調査に関する基本的事項を修得し、「社会調査法」では社会調査の企画・設計段階からデータを収集しおえる段階までの一連の作業過程を具体的に理解します。
「社会統計学」では基礎的な知識としての統計学の基礎を学び、「統計解析法」および「応用統計解析法」では実際に統計ソフトウェアを操作し、重要なデータを分析する力を身に付けます。さらに、「社会調査実践」では調査実践、調査実践、データ入力、フリーニング、解析、結果の報告という一連のデータ処理過程の具体的な方法を修得します。

経済学における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解し、経済社会における課題の解決について自ら考えることができる。

経済学では、コミュニティ政策学部の学びの土台として、経済活動の仕組みや市場の役割について基礎的な知識を身に付け、経済学の基礎を理解します。
経済の動きを理解し、そこにおいて生じる問題を解決するために行われる経済政策の基本を理解するために、経済の理論・政策・実証の基礎を身に付けます。
「ミクロ経済学」「マクロ経済学」では、経済を分析する前提となる経済学理論の基礎を理解し、経済モデルを用いて経済の動きを分析し、経済政策に関する意見を考察する力を身に付けます。「経済政策論」では、経済社会において生じるさまざまな課題の解決に向けた政策的対応としての経済政策を理解し、その有効性と限界について理論的・実践的に考察する力を修得します。「社会経済学」では、経済モデルの適用について実践的に検証し、経済政策の策定とその評価への活用可能性について考察する力を修得します。そのため、分析目的に応じた資料・データを収集し、必要に応じて加工し、適切な解析手法を選択するなどの数量的な分析手法を身に付けます。
経済社会における諸問題の解決にアプローチするうえで、金融、財政、国際経済に関する制度、理論、政策を理解します。
金融論では、金融の制度・仕組み、および金融市場に関する基礎的な知識を身に付け、金融・金融政策の理論を理解し、現実に実施されている金融政策の効果について考察する力を修得します。「財政学」では、政府の政策の立案・実施における制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付け、財政の収支について理解し、経済活動の振興や分配に關する政策的対応について考察する力を修得します。「国際経済学」では、財・サービス・資本の国際取引に関する制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付け、貿易や国際金融に関する理論・政策を理解し、現実経済における課題解決について考察する力を修得します。

日本や地域社会における経済問題について、課題解決につながる政策を考える力を身に付けます。
「公共経済学」では、政府や地域の公共的団体が取り組むべき現実の経済問題を取り上げ、その解決に向けた政策的対応を自ら考えることができる力を修得します。「地域経済学」では、地域経済の振興、その構造を理解し、そこで生じる課題の解決のための具体的な施策について考えることができる力を修得します。「地方財政論」では、人々の生活に密接に関わる地方財政の理論・制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付けます。また、国の取分部分と地方自治体が取組むべき経済問題を理解し、それを解決するための地方自治体の財政政策について考察する力を修得します。

日本や地域社会における経済問題について、課題解決につながる政策を考える力を身に付けます。
「公共経済学」では、政府や地域の公共的団体が取り組むべき現実の経済問題を取り上げ、その解決に向けた政策的対応を自ら考えることができる力を修得します。「地域経済学」では、地域経済の振興、その構造を理解し、そこで生じる課題の解決のための具体的な施策について考えることができる力を修得します。「地方財政論」では、人々の生活に密接に関わる地方財政の理論・制度・仕組みに関する基礎的な知識を身に付けます。また、国の取分部分と地方自治体が取組むべき経済問題を理解し、それを解決するための地方自治体の財政政策について考察する力を修得します。

法学における基礎的な知識と、専門的な学びに発展させるために必要な知識と考え方を理解する

法学分野では、コミュニティ政策に關する法律や判例について基礎的な理解を認め、リーガルマインド（法的思考力）を身に付けます。「法律学概論」では、コミュニティ政策における法律の意義や役割を踏まえ、それを学ぶための土台を固めるべく、憲法を含む各種法令の位置づけ、法学の基本的な概念や考え方を学修します。

公法分野では、「憲法」、「行政法（組織・作用法）」、「行政裁量法」、「地方自治法」、「刑法」を学びます。「憲法」では統治構造や人権保障の仕組みを、「行政法（組織・作用法）」では行政の組織や活動に関する原理原則や制度を学びます。また、「行政裁量法」では行政裁量によって侵害される権利利益の救済のための法制度を、「地方自治法」では地方自治の本旨に基づく地方自治の法制度を、さらに「刑法」では国家の刑罰権の行使に関する罪刑法定主義や刑法の総則や各論を学びます。これらの科目の学びを通じて、刑罰権を含む国家や自治体の統治機能や統治構造を学び、そこで個人の権利自由が如何に保護されているのかを知り、社会生活における公法上の課題について対応できる能力を身に付けます。

私法分野では、「民法（総則・物権法）」、「債權法」、「民法（会社法）」、「消費者法」を学びます。民法は財産と契約法に大別され、「民法（総則・物権法）」では財産法の基本原則と基本概念を定めている総則及び所有権に代表される人と物との権利関係を定めた物権を中心に学びます。また、「債權法」では契約や不法行為（例えば交通事故）等の財産法の基礎的論点を理解し、社会生活をめぐる紛争の未然防止・事後的解決の手段・方法を学修する力を身に付けます。「民法（会社法）」は株式会社制度の基本的な仕組みを理解するとともに、企業統治や内部統制のあり方など、株式会社をめぐる重要論点を中心に学修します。「消費者法」は事業者と消費者間の交渉力・情報量の均衡を目的とした消費者契約法やクーリング・オフ制度に代表される特定商取引法の内容を学修することにより、消費生活をめぐる法的問題に対する解決能力を高め、また、これら科目の学びを通じて、社会生活や企業活動において発生する私法上の法的諸問題に対応できる能力を身に付けます。

社会法分野では、「労働法」と「社会保障法」を学びます。「労働法」は、雇う者と雇われる者との間の雇用関係を中心として成立していることから、雇用関係の法的ルールがその主たる対象であり、例えば労働契約の締結や労働条件の変更等に関する労働契約法、労働過程の労働者の保護に関する労働基準法を学びます。「社会保障法」は、国民の生活と社会的安定の確保を目的とする社会保障制度の法的仕組みの理解が目的であり、具体的には、失業・労災・年金・医療・介護等には生活保護等の法的仕組みを扱います。これらの科目の学びを通じて、社会法の理念や社会法の役割を体系的に学修し、職業生活と家庭生活をめぐる法的諸問題について対応できる能力を身に付けます。

1年		2年		3年		4年	
前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
	コミュニティ政策論② 地域社会論②						
	社会科学論② 現代社会論②	地域社会学② 社会心理学②		比較社会論②			
	社会科学論② 社会調査法②	統計解析法② 社会統計学②	応用統計解析法②	社会調査実習②			
	経済学概論②	ミクロ経済学② マクロ経済学② 金融論②	経済政策論② 計量経済学② 財政学② 国際経済学②	公共経済学②	地方財政論② 地域経済論②		
	法學概論②	憲法② 民法②	行政法（組織・作用法）② 刑法② 債權法②	行政裁量法② 地方自治法②	消費者法② 民法（会社法）②	労働法② 社会保障法②	

■政策学における基礎的な知識を元に、専門的な学びに展開させるための考え方を理解する

政策学を学ぶ基礎として「政策学概論」「公共哲学」を学びます。「政策学概論」では、政策学の土台として、公共政策の基本的な考え方や政策過程について理解を深め、政策立案・実施・評価の基礎的な理論を身に付けます。「公共哲学」では、公共政策における集合的意思決定の基礎となる正義・人権・徳・責任の観点から、制度設計の基本原則を理解します。

政策形成過程分野として、「政策過程論」「政策立案論」「政策評価論」を学びます。「政策過程論」では多様な利害関係者の行動や意思形成のプロセスを理解し、「政策立案論」では課題解決に向けた具体的な政策や計画の立案手法を学びます。さらに「政策評価論」では政策の実施効果を測定し、改善につなげる方法を理解します。これらの科目の学びを通じて、政策の企画立案から実施、評価に至る一連のプロセスを体系的に理解し、実践的な政策形成能力を身に付けます。

行政運営の仕組みを理解するため「行政学」「地方自治行政論」「公共管理論」を学びます。「行政学」では行政組織と政策執行の基本的な仕組みを理解し、「地方自治行政論」では国と地方の役割分担・財源配分や地方行政及び議会の仕組みについて学びます。また「公共管理論」では行政組織がどのように運営されるべきか、また社会問題が複雑化する中で企業やNPOなど多様な主体を含めた行政運営のあり方を学びます。これらの科目を通して、政策実施の担い手となる諸機関の役割や相互関係、さらに効果的な政策実施のための管理手法について理解を深めます。

政策実務を理解するため「公共政策論」「地域政策論」「比較政策論」を学びます。「公共政策論」では社会の諸問題の変化に対応した政策課題の設定と解決方法について検討します。「地域政策論」では住民にとって身近な地域の課題について、地理的要素や自治体間の関係を考慮しながら、実際の政策問題について理解を深めます。「比較政策論」では具体的な事例研究を通して、政策の有効性や限界について分析的に理解します。これらの科目の学びを通じて、エビデンスに基づいた政策の実践と、適切な政策対応を検討できる能力を身に付けます。

これら政策学分野の諸科目を通して、現代社会の課題に対する政策的な対応力を身に付け、具体的な解決策を構想・実施・評価できる能力を養います。基礎理論を土台としながら、政策の立案過程や行政の仕組みを理解し、さらに実践的な政策形成への段階的に学びを深めていきます。理論と実践を結びつけるため、適宜、実務家を招聘します。

政策学概論②

公共哲学②
政策立案論②
行政学②
公共政策論②

政策評価論②
地方自治行政論②
公共管理論②
地域政策論②
比較政策論②

■現代社会や地域がもつ課題を理解するとともに、その要因となる制度や仕組み、問題を把握し、分析するための方法について理解することで、コミュニティ政策の考え方を深める。

社会学、経済学、法学、政治学、行政学等の専門分野の基礎知識に加え、学際分野としての「コミュニティ政策学」の考え方を理解するために、その関連領域として、福祉学、教育学や心理学の基本的な知識を修得するとともに、現代社会や地域がもつ諸問題の背景やそれによる制度等に関する基本的な知識を身に付けます。

地域実務論②

観光経済学②
NPO論②
社会福祉論②
社会保険論②
地域福祉論②
社会福祉学②
家族社会学②
初級社会学②
地域防災論②
危機管理論②
産業社会学②
労働社会学②
産業心理学②
教育社会学②
社会教育学②
教育行政学②
地域スポーツ概論②
スポーツマネジメント②
キャリアデザイン①
地域福祉論②
共有資源管理論②

地域スポーツ概論②

地域経済学②

■参加型・双方向型の授業を通して地域コミュニティをめぐって生じる課題解決の手法等を身に付ける

コミュニティ政策に対する興味や関心を高めるための動機づけを図るとともに、サービスマーケティングの手法を用い、具体的な事例研究を通して、実践的にコミュニティ政策学の理解を深めます。

行政機関や企業、地域と連携し、幅広い視点から問題解決の実践の提案や、新しい社会のあり方を構想し、実現できる能力を修得します。学外での体験授業を通して実践的な事例研究、行政や企業の実務者を招いての授業等を通して、社会における諸課題について実践的に演習形式により学びます。

コミュニティ政策Ⅰ②
コミュニティ政策Ⅱ②
コミュニティ政策Ⅲ②
コミュニティ政策Ⅳ②

ケーススタディⅠ②
ケーススタディⅡ②
ワークショップⅠ②
ワークショップⅡ②

8.看護栄養学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(3) 看護栄養学部

ア 教育目的

人々の健康の保持増進と病む人の生活を支えるために、看護学又は栄養学の分野において、専門性の高い知識、技術及び豊かな対人能力を身に付ける。

イ 人材像

看護分野又は栄養分野で働く専門職として、対象となる人々の尊厳と人権を擁護し得る高い倫理観と確かな実践能力を備え、更に、他の保健、医療、福祉等の専門職者と有機的に連携して協働できる人材

看護学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び看護学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 看護学分野における知識・技能・態度】

看護学に関する知識・技能を体系的に理解し、多様な実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 共生の精神を基盤に、人々の生老病死に寄り添い、尊厳と人権を守る倫理観を身に付けている。
- (2) 対象者の多様な背景を理解し、最善について共に考え、柔軟に行動できる技能を身に付けている。

- (3) 全人的に対象者をとらえ、健康と安寧に向け、対象者と共に課題を見出し、共に取り組む態度を身に付けている。
- (4) 知識・技術、対人関係能力に加えて、対象者のニーズや地域社会の特性に合わせた、根拠に基づく看護を実践する技能を身に付けている。
- (5) 保健医療福祉チームの一員として、連携・協働・実践する技能を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 看護学の主要分野における基礎・基本となる知識・技術及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技術を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

① 「専門基礎科目」では、看護対象者を心理・社会・行動面から理解するとともに、疾患による人体への影響や看護援助の基礎となる知識・技術を教育内容とする。

② 「看護専門科目」では、看護学の各領域に関する基礎知識及び技術を修得し、各領域での実習でさらに深める教育内容とする。

③ 「看護発展科目」では、現代社会で看護学に要請される保健医療福祉職との連携と協働、さらに、人々の生老病死に寄り添う看護の理解を深め発展させる教育内容とする。

④ 看護師・保健師免許取得に係る科目は、上記科目内に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6)専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

看護学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1)高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

(2)看護あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

(3)本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。

(4)看護師・保健師免許の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

(5)自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

看護学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

看護学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 社会に対し広く深い興味・関心を示し、常に知識の向上へ深い欲求をもち続けている。
- (2) 文章の読解力、基礎的語学力を身につけている。
- (3) 「化学」、「生物」、「数学」の基礎的な知識・学力を有し、さらなる知識の習得に意欲を有している。

	産業保健活動論	3前	1	講義					○								◎				
	基礎看護学実習Ⅰ(看護を知る)	1前	1	実習	●												◎				
	基礎看護学実習Ⅱ(地域で暮らす人々との共生)	2前	2	実習		●											◎				
	基礎看護学実習Ⅲ(看護職者に学ぶ共生)	2後	1	実習			●										◎				
	基礎看護学実習Ⅳ(看護実践場面における共生)	3前	2	実習				●									◎				
	成人看護学実習	3後	4	実習					●									◎			
	老年看護学実習	3後	2	実習					●									◎			
	母性・小児看護学実習	3後	4	実習					●									◎			
	精神看護学実習	3後	2	実習					●									◎			
	在宅看護学実習	3後	2	実習					●									◎			
	公衆衛生看護基礎実習	3後	2	実習					○									◎			
	公衆衛生看護展開実習	4後	3	実習						○									◎		
	統合実習	4前	3	実習					●										◎	★	
看護発展科目	専門職連携の基礎	保健医療と福祉の連携Ⅰ(チーム医療)	1前	1	講義	●											◎				
		保健医療と福祉の連携Ⅱ(多職種連携)	4前	1	講義					●									◎		
	看護を発展させる基礎	研究方法論	4前	1	講義					●								◎			
		卒業研究	4後	1	演習					●										◎	★
		国際看護論	4前	1	講義					○										◎	
		災害看護	4前	1	講義					○										◎	
		エンドオブライフケア	4後	1	講義						○									◎	
仏教と看護	4前	1	講義					●									◎				

※ ★それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

履修体系図 (専門科目)

看護学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

※保健師課程履修者 必修科目
※太字下線 主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
人間関係の構築 看護職としてすべての人とのかわりの基本となる人間関係やコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を学ぶ。	人間関係学 2 人間関係性発達論 1 2	人間関係発達論 1 1						
看護文化と社会理解 *医学と社会 公衆衛生看護活動で用いられる保健統計について、その作成方法・利用方法・近年の動向・統計学的解析の基礎・文章書法について理解できるようにする。 *制度と社会 社会における看護職の働きかけにより、身体的・精神的機能を増進させる。公衆衛生学の基礎について理解をし、社会保険制度の現状と課題、さらには保健福祉領域での支援技術の基礎を理解できるようにする。		社会学社論 1 公衆衛生学 1		※医学 2 保健師養成法実践論 1 1 ※保健師養成法行政論 2 2	保健師養成統計学 2 地域福祉論 2			
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと看護の推進 人体の構造と機能・疾病の成り立ちについて医学やコンピュータグラフィカル(医学と臨床を専門職)分野における基礎となる解剖・生理・免疫について理解し、さらに人体の感覚器・消化器・呼吸器・循環器・神経系・内分泌系・腎臓・泌尿器系の構造と機能について理解する。	生化学 2 人体の構造と機能 1 1 人体の構造と機能 1 1	人体の構造と機能 1 1 人体の構造と機能 1 1	病態学 2 (病態学論・看護学・看護学)	臨床病態学 I 1 (看護学・看護学・看護学) 臨床病態学 II 1 (看護学・看護学・看護学) 臨床病態学 III 1 (看護学・看護学・看護学)	臨床病態学 I 1 (看護学・看護学・看護学) 臨床病態学 II 1 (看護学・看護学・看護学) 臨床病態学 III 1 (看護学・看護学・看護学)			
看護倫理 看護の対象であるその人が健康的な日常生活を支援できるように、看護の提供・増進、疾病を予防し、健康の回復と疼痛の緩和を目指すことを理解し、看護実践ができるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 看護の対象となる人間に関する理解・看護の倫理・看護職の倫理・看護職の倫理・看護職の倫理について学び、「看護」は何かを学ぶ。表現できるようにする。 対象者の倫理的ニーズに着目し、人それぞれ異なることについて理解し、エビデンスに基づいたケア方法とは何かを明らかにする。	看護倫理入門 2	看護倫理入門 2		看護倫理学 2 倫理学入門 2 倫理学入門 2	倫理学入門 2 倫理学入門 2 倫理学入門 2			
地域・在宅看護論 在宅看護の歴史、概念及び看護を理解し、療養生活支援の方法を修得するとともに、在宅看護の役割と今後の展望を明らかにする。 疾病や障害を持つ人が在宅で暮らしている個人とその家族を理解し、生活の場で看護を実践する基本的能力を養う。 在宅ケアにおける他職種との連携や協働の実践及びその重要性を理解する。				在宅看護論 I (看護) 1 在宅看護論 I (看護) 1 在宅看護論 I (看護) 1 在宅看護論 I (看護) 1	在宅看護論 I (看護) 1 在宅看護論 I (看護) 1 在宅看護論 I (看護) 1 在宅看護論 I (看護) 1			
高齢者看護 「成人期」における対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象に対し看護が実践できる基礎的能力を養う。 対象者の個別な身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 対象者の看護に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、健康上の看護問題を解決するために必要な方法と判断能力を養う。 急性期、慢性期における対象の特性と適切な看護を学ぶ。 継続看護の必要性を理解し、対象及び家族への適切な生活指導について学ぶ。 保健師チームの一員としての看護職の役割を学ぶ。	成人看護学論 2	成人看護学論 2		成人看護学論 2 (看護学・看護学・看護学)	成人看護学論 2 (看護学・看護学・看護学)			
若年者看護 「若年期」における対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象への看護が実践できる基礎的能力を養う。 対象者の個別な身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 対象者の看護に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、健康上の看護問題を解決するために必要な方法と判断能力を養う。 高齢者の特性を踏まえた看護を学ぶ。また若年期に関連するケアの関連機関やケア実践の場について理解する。 高齢者をとりまく保健、医療、福祉の現状と課題を理解し、それらの関連機関における看護職の役割を学ぶ。 保健師チームの一員としての看護職の役割を学ぶ。				若年者看護学論 1 若年者看護学論 1 若年者看護学論 1 若年者看護学論 1	若年者看護学論 1 若年者看護学論 1 若年者看護学論 1 若年者看護学論 1			
小児看護学 「小児期」における対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象への看護が実践できるための基礎的能力を養う。 小児は、成長発達の途上において、身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 看護職者をつつがねとする家族とのコミュニケーション・関係を築く。 受け持ち患者の成長、発達段階を把握し、子供に適切な日本生活指導ができる。 受け持ち患者に適切な看護実践が計画でき、看護計画に基づき、看護実践を評価し評価できる。 子供の日常生活、成長、発達、生活(入院)環境に適切な感染防止、安全の確保、事故防止ができる。				小児看護学論 1 小児看護学論 1 小児看護学論 1 小児看護学論 1	小児看護学論 1 小児看護学論 1 小児看護学論 1 小児看護学論 1			
産科看護学 母性及び女性の特性を知り、健康が守られる仕組みと母性看護活動について学び、性と生殖にかかわる健康増進と産科看護について理解する。 妊娠、分娩、産後期における女性と胎児・新生児及び家族の特性を理解し、個別な看護の必要性を判断しながら看護過程を展開する基礎的能力を養う。				産科看護学論 1 産科看護学論 1 産科看護学論 1 産科看護学論 1	産科看護学論 1 産科看護学論 1 産科看護学論 1 産科看護学論 1			
精神看護学 病状及び地域で生活する精神障害者を理解し、看護が実践できる基礎的能力を修得する。 精神疾患及び患者をとりまく環境について理解する。 患者の病歴を収集、分析、解釈、統合し、疾患に共通する援助方法及び個別な援助方法を実践できる。 患者のニーズや生活環境を踏まえケアプランを立案し、実施、評価、修正を行う看護実践を展開できる。 患者-看護関係の特性を理解し、自己評価を深めつつ、援助のコミュニケーション・技術を活用できる。 精神疾患をもつ人のケアの場を理解し、歴史的背景及び人権擁護について理解する。	精神看護学論 1	精神看護学論 1		精神看護学論 1 精神看護学論 1 精神看護学論 1 精神看護学論 1	精神看護学論 1 精神看護学論 1 精神看護学論 1 精神看護学論 1			
公衆衛生看護学 公衆衛生看護学の理念及び基礎となる概念を理解し、地域に暮らす人々を対象とした疾病予防と健康増進を促進して展開されるヘルスプロモーション活動の展開を理解する。また、その活動を推進する保健師の役割や機能を理解する。 公衆衛生看護活動の展開方法及び個人・家族・集団・地域の健康課題を解決するための知識・技術を修得する。 公衆衛生看護活動における社会資源の開発、利用、調整と保健活動計画に対する評価活動、地域の関係者や住民との連携の意義、重要性を理解する。 健康増進及び予防活動の意義、重要性を理解し、地域保健活動に携わる看護職の役割、機能を学ぶ。	公衆衛生看護学論 1 1 (看護学・看護学)	公衆衛生看護学論 1 1 (看護学・看護学)		公衆衛生看護学論 1 1 (看護学・看護学)	公衆衛生看護学論 1 1 (看護学・看護学)			
看護実践 既習の知識・技術を統合し、積極的に実習に臨むことを通じて、それぞれの領域における実習目標を達成する。	看護実践学 1 1 (看護学・看護学)	看護実践学 1 1 (看護学・看護学)		看護実践学 1 1 (看護学・看護学)	看護実践学 1 1 (看護学・看護学)			
専門職としての看護 臨床に活用する人々の看護多様なニーズに応え、生活の質を維持・向上するために、保健・医療・福祉の専門家が連携し、支援内容を統合した援助計画立案について理解する。	看護実践学 1 1 (看護学・看護学)	看護実践学 1 1 (看護学・看護学)		看護実践学 1 1 (看護学・看護学)	看護実践学 1 1 (看護学・看護学)			
看護職を担う者としての看護 興味・関心のある看護分野、あるいはより深めたい特別な状況下にある対象に対して、あるいはチーム医療の一員としての看護実践能力を高める。 看護・福祉・医療の協働的役割を学ぶ。 自己の看護職を明確にすることができる。 将来における自分自身の看護の方向性を探求することができる。								

栄養学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び栄養学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 栄養学分野における知識・技能・態度】

栄養学・健康に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、あらゆる実践の場で活用できるような技能・能力を身に付けている。

- (1) 栄養学を構成する基本的かつ体系的な知識・技能の修得に加えて、健康の維持・増進に係る関連分野に関する知識について理解している。
- (2) 医療・地域・福祉・学校等の現場で、栄養管理や栄養の教育並びに他部門等との総合マネジメントを行う意欲や技能・能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

栄養学科では教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

- (1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。
 - ① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。
 - ② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。
 - ③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。
 - ④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 栄養学分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「専門基礎科目」では、管理栄養士に必要な専門基礎分野として、環境や社会、人体や疾患、食品や調理加工に係る知識・技能を幅広く修得することを教育内容とする。

②「専門基幹科目」では、管理栄養士に必要な専門分野として、エネルギー・栄養素の生理的な意義を確認し、実践の場で活用できる知識や技能を修得することを教育内容とする。

③「専門関連科目」では、栄養専門職に関連する知識及び、他職種と協働しうる基礎的知識・技能の修得を教育内容とする。

④管理栄養士及び栄養士免許取得に係る科目は上記科目内に配置し、栄養教諭免許取得に必要な科目の一部は「教職科目」に配置する。科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4) 「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5) 学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6) 学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1) 学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2) 学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3) 学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては3年次の「**臨地実習**」、4年次の「**卒業研究**」で、複数の教員により確認

を行う。知識については、「管理栄養士演習」または「総合演習Ⅰ・Ⅱ」も含めて確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

栄養学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。

(2) 栄養あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(4) 管理栄養士・栄養士免許等の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。

(5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

栄養学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

(2) 高等学校での履修科目に対する学力検査

(3) 小論文

(4) 面接

(5) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

栄養学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

(1) 社会に対し広い興味・関心を示し、常に知識の向上への欲求をもち続けている。

(2) 文章の読解力を有し、基礎的語学力を身につけている。

(3) 「化学」、「生物」、「数学」の基礎的な学力を有し、さらなる知識の習得に意欲を持っている。

	調理学実習Ⅰ	1前	1	実習	●														◎	★
	調理学実習Ⅱ	1後	1	実習		●													◎	★
	調理科学実験	2前	1	実験			●												◎	
基礎栄養学	基礎栄養学	1前	2	講義	●														◎	★
	基礎栄養学実験	1後	1	実験		●													◎	★
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	1後	2	講義		●													◎	★
	応用栄養学Ⅱ	2前	2	講義			●												◎	★
	応用栄養学Ⅲ	3前	2	講義				○											◎	
	応用栄養学実習	2前	1	実習			●												◎	★
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2前	2	講義			●												◎	★
	栄養教育論Ⅱ	2後	2	講義				●											◎	★
	栄養教育論Ⅲ	3前	2	講義				○											◎	
	栄養教育論実習Ⅰ	2後	1	実習				●											◎	★
	栄養教育論実習Ⅱ	3前	1	実習					●										◎	
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2前	2	講義			●												◎	★
	臨床栄養学Ⅱ	2後	2	講義				○											◎	★
	臨床栄養学Ⅲ	3前	2	講義					○										◎	
	臨床栄養学Ⅳ	3後	2	講義						○									◎	
	臨床栄養学実習Ⅰ	2後	1	実習				●											◎	★
	臨床栄養学実習Ⅱ	3前	1	実習					○										◎	
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2後	2	講義				●											◎	★
	公衆栄養学Ⅱ	3前	2	講義					○										◎	
	公衆栄養学実習	3前	1	実習						○									◎	
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2前	2	講義			●												◎	★
	給食経営管理論Ⅱ	2後	2	講義				○											◎	★
	給食経営管理論実習	3前	1	実習					●										◎	★
総合演習	総合演習Ⅰ	3前	1	演習					○										◎	★
	総合演習Ⅱ	3後	1	演習						○									◎	★
	管理栄養士演習	4後	1	演習							○								◎	
臨地実習	公衆栄養学臨地実習	3後	1	実習						○									◎	
	給食経営管理論臨地実習	3後	1	実習							○								◎	
	給食管理臨地実習	3後	1	実習								●							◎	★
	臨床栄養学臨地実習	3後	2	実習								○							◎	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	4前	1	演習							●								◎	★
	卒業研究Ⅱ	4後	1	演習								○							◎	★
専門関連科目	フードスペシャリスト論	1後	2	講義				○											◎	
	フードコーディネーター論	3後	2	講義							○								◎	
	食品評価論	2後	2	講義								○							◎	
	食品流通論	2前	2	講義					○										◎	◎

		有機化学	4 前	2	講義															○									◎			
		専門職ネットワーク演習	3 後	1	演習															○										◎		
		心理学概論	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○																			◎			
		カウンセリング論	1・2・3 後	2	講義		○		○		○																			◎		
教職科目		教職概論	1・2 前	2	講義	○		○																					◎			
		教育原理	4 後	2	講義																									◎		
		教育心理学	1 後	2	講義		○																							◎		
		発達心理学	1・2・3・4 後	2	講義		○		○		○																				◎	
		特別支援教育の理解と方法	4 前	1	講義																									◎		
		教育行政学	4 後	2	講義																									◎		
		教育課程論	2 前	2	講義			○																						◎		
		教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2 前	2	講義				○																					◎		
		道徳の指導法	3 後	2	講義																									◎		
		総合的な学習の時間と特別活動の指導法	2 後	2	講義					○																				◎		
		生徒指導の理論と方法	3 前	2	講義						○																			◎		
		教育相談の理論と方法	3 前	2	講義							○																		◎		
		日本国憲法	4 前後	2	講義																									◎		
		学校栄養教育法	3 前	2	講義							○																		◎		
		学校栄養指導論	3 後	2	講義								○																	◎		
		栄養教育実習事前・事後指導	4 後	1	演習																									◎		
		栄養教育実習	4 後	1	実習																									◎		
	教職実践演習(栄養教諭)	4 後	2	演習																									◎			

※ ★ それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

履修体系図 (専門科目)

栄養学科

専門教育科目 履修体系図

※青字記載科目は主要授業科目

学年	学期	科目名	履修内容	
1年	前期	社会・健康と環境	現代社会における健康・疾病と社会・環境の関わりおよび諸問題に対する保健・医療・福祉の対策について学びます。	
		学修目標	健康・公衆衛生の概念および健康増進・疾病予防・健康格差に関する行動・社会・環境要因の基礎的な知識を身につけます。	
	後期	測定目標	健康・医療・福祉の領域に関する基礎的な知識をもとに諸課題に総合的に対応する能力を身につけます。	
		学修目標	健康増進の科学的根拠となる疫学的方法論および統計の基礎的な能力を身につけます。	
	前期	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	栄養学を学ぶ基礎として人体の構成や正常構造と機能、生体を構成する化学物質、臨床栄養学の実践に不可欠なような病態栄養学の知識を学びます。	
		学修目標	人体を構成する各器官系の正常構造、機能および生体情報伝達について説明する能力を身につけます。	
	後期	測定目標	器具・標本を含む実習を通して医療器具の適切な取り扱い姿勢を身につけます。	
		学修目標	食品の衛生や安全の概念について理解し、食料や食品の安全性を確保できる能力を身につけます。	
	2年	前期	食生活と健康	食品の分類・成分及び物性を理解し、食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保、栄養・嗜好性の向上について学びます。
			学修目標	食品の栄養的特徴や物性を踏まえた食事設計及び健康維持に向けた調理の役割について学びます。
後期		測定目標	食品成分の栄養的特徴、物性、増粘剤に関する成分等について説明する力を身につけます。	
		学修目標	食品の加工・製造工程の理解・把握について説明する力を身につけます。	
前期		基礎栄養学	栄養の概念、摂取行動、栄養素の消化・吸収、栄養素の体内動態、栄養素の代謝、エネルギー代謝について学びます。	
		学修目標	健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学びます。	
後期		測定目標	血液や尿中の糖質、脂質、蛋白質、尿中物質、およびこれらの代謝産物の測定方法を学び、基本的な評価方法や基準範囲を理解し、栄養状態や病態との関連性を学びます。	
		学修目標	栄養摂取の調節、栄養素の消化・吸収、栄養素の体内動態、栄養素の代謝、エネルギー代謝について説明できる力を身につけます。	
前期		応用栄養学	栄養の専門職として栄養管理を遂行するための基本的な事項と、日本人の食事摂取基準等の基本的な考え方と活用方法を学びます。	
		学修目標	妊娠、成長、発達、加齢などライフステージにおける人体の構造や機能の変化について学びます。	
後期	測定目標	運動、ストレス条件下における生理的変化をふまえた食事計画ができる能力を身につけます。		
	学修目標	日本人の食事摂取基準について、考え方や活用方法を身につけます。		
前期	栄養教育論	健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定することを学びます。		
	学修目標	健康・栄養教育の理論と方法を修得し、ライフステージ、ライフスタイルに応じた、栄養教育のメッセージングについて学びます。		
後期	測定目標	栄養教育に必要な理論・行動科学について理解し、活用できる能力を身につけます。		
	学修目標	栄養教育の対象者やメッセージ、栄養教育の目標を達成できる能力を身につけます。		
3年	前期	臨床栄養学	患者の病態や栄養状態の特徴を学び、各種病態に応じた栄養アセスメント、栄養診断、栄養補給法及び栄養療法を学びます。	
		学修目標	チーム医療を達成するための栄養療法の実践スキルを学びます。	
	後期	測定目標	各種病態に対応する栄養食事指導の知識と技術を学びます。	
		学修目標	臨床栄養学を遂行するための論理観を身につけます。	
	前期	公衆栄養学	人々の生活する自然・社会環境の中で、どのように健康という観点から、食生活・食生活を改善できるようにするために、人々の健康・栄養課題やニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・評価・改善するための基礎知識とスキルおよび集団の特性に応じた公衆栄養プログラムの展開の方法を学びます。	
		学修目標	公衆栄養活動の概念と目的について説明でき、日本人の健康、栄養状態、食生活、食環境等の現状と課題を読み取る力を身につけます。	
	後期	測定目標	地方自治体の公衆栄養行政の役割について説明する力を身につけます。	
		学修目標	国際的な健康・栄養課題に主要な政策等について説明する力を身につけます。	
	前期	給食経営管理論	健康増進法に関する特定給食施設における管理栄養士業務は、給食運営や関連の食品流通や食品開発の状況、給食に関する組織や経費等の総合的な知識、栄養衛生、安全管理、経理面全般のマネジメント能力が必要とされる。そのため、給食システムの理解、メニュー開発や経営管理の理論的な知識と技術を学びます。	
		学修目標	特定給食施設の新規や管理運営を担い、基礎および専門科目で学んだことを関連づけ、マネジメント能力を身につけます。	
後期	測定目標	管理栄養士の給食経営管理の業務に必要とされる、給食経営管理の業務に必要な知識・技能を身につけます。		
	学修目標	21世紀に必要とされる管理栄養士に求められるスキル(栄養指導能力、マネジメント能力、コミュニケーション能力)を習得し、給食経営管理の領域で実践する力を身につけます。		
4年	前期	総合演習	臨床実習の事前事後学習として、栄養管理の実践に必要な知識を学びます。	
		学修目標	職業人としての適切な態度について学びます。	
	後期	測定目標	臨床実習に向けた課題発見と課題解決方法を考え、遂行する能力と態度を身につけます。	
		学修目標	臨床実習および実践演習を通じて学習成果を報告・共有し、総合的学習能力を身につけます。	
	前期	臨床実習	実践活動の中で、栄養の専門職として栄養管理を行うための知識・技術を学びます。	
		学修目標	栄養の専門職としての職業倫理について学びます。	
	後期	測定目標	臨床栄養学、公衆栄養学または給食経営管理論の学習先において、栄養の専門職として栄養管理を行うための知識・技術を身につけます。	
		学修目標	栄養の専門職としての使命、責任を理解し、生活にむかひ自己研鑽し学び続ける能力と態度を身につけます。	
	前期	卒業研究	栄養学における科学的探究の視点について学び、栄養学の科学的根拠づくりに管理栄養士・栄養士自ら関わることの必要性を学びます。	
		学修目標	卒業研究の一連の過程を理解し、研究計画や実施手法について学びます。	
後期	測定目標	卒業研究の公表を通じて、科学的かつ論理的に思考する方法について学びます。		
	学修目標	卒業研究の公表を通じて、科学的かつ論理的に思考する方法について学びます。		
前期	専門関連科目	フードコーディネーターや食品流通などの栄養学や食品に関連する知識を学びます。		
	学修目標	フードコーディネーターや食品流通などの栄養学や食品に関連する知識を学びます。		
後期	測定目標	栄養管理を必要とする人々には関わる関係者の役割を理解し、その専門職と協働性を保持して連携・協働するための基礎的な知識・態度を身につけます。		
	学修目標	栄養管理を必要とする人々には関わる関係者の役割を理解し、その専門職と協働性を保持して連携・協働するための基礎的な知識・態度を身につけます。		
前期	就職科目	栄養職論一種免許取得に必要な、学校給食の目的や栄養職論の役割・制度設計の背景を学びます。		
	学修目標	食育を推進する上で必要となる、学校内での教職員、多(職)種連携、連携調整、学校・家庭・地域の連携のありかたを学びます。		
後期	測定目標	食育プログラムや対応を含む、学校における個別指導について学びます。		
	学修目標	食育プログラムの開発・実施と課題、卒業後の就職・職場内、食生活に関する歴史的・文化的事項を踏まえて、幼児・児童・生徒に食に関する指導を推進するために必要な知識・技術を学びます。		
前期	学修目標	食育プログラムの開発・実施と課題、卒業後の就職・職場内、食生活に関する歴史的・文化的事項を踏まえて、幼児・児童・生徒に食に関する指導を推進するために必要な知識・技術を学びます。		
	測定目標	食育プログラムの開発・実施と課題、卒業後の就職・職場内、食生活に関する歴史的・文化的事項を踏まえて、幼児・児童・生徒に食に関する指導を推進するために必要な知識・技術を学びます。		

※:管理栄養士必修 ○:集中開講 ☆:いずれかを選択して履修

1年	2年	3年	4年
前期	後期	前期	後期
	※健康増進論 社会福祉概論		
	※公衆衛生学	※保健医療統計学	疫学
※学生化学	※学生化学実験○	※栄養生化学実験	※分子栄養学
※解剖生理学Ⅰ	※解剖生理学Ⅱ ※解剖生理学実験	※病理病態学Ⅰ	※病理病態学Ⅱ
※微生物学	※微生物学実験		
※食品化学Ⅱ	※食品化学Ⅰ ※食品化学実験Ⅰ	※食品衛生学	※食品衛生学実験
※調理学	※調理学実習Ⅰ○	※調理学実習Ⅱ	
※基礎栄養学	※基礎栄養学実験		
※応用栄養学Ⅰ	※応用栄養学Ⅱ ※応用栄養学実習○	※応用栄養学Ⅲ	
※栄養教育論Ⅰ	※栄養教育論Ⅱ	※栄養教育Ⅲ	
※臨床栄養学Ⅰ	※臨床栄養学Ⅱ ※臨床栄養学実習	※臨床栄養学Ⅲ ※臨床栄養学実習Ⅱ	※臨床栄養学Ⅳ
※公衆栄養学Ⅰ	※公衆栄養学Ⅱ	※公衆栄養学実習	
※給食経営管理論	※給食経営管理論	※給食経営管理論実習	
		※総合演習Ⅰ	※総合演習Ⅱ
		※★公衆栄養学臨床実習①	
		※★給食経営管理論臨床実習①	
		※給食管理臨床実習	
		※臨床栄養学臨床実習	
			※卒業研究Ⅰ
			※卒業研究Ⅱ
			※フードコーディネーター論
			※スポーツ栄養学演習①
			※有機化学②

◆ 基本型の履修モデル

【栄養学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル	125 単位				★主要授業科目を青フォントで表記				学位：学士 (栄養学)	
	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
基礎教育科目	● 健康モーター(学修の目的は別)	● 利他共生	● データリテラシー	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	● 問題解決法	● 創造思考法	● 創造思考法
基礎教育科目	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー	● 情報リテラシー
基礎教育科目	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成	● 表現力の養成
基礎教育科目	● 人間力の養成	● 自己管理と社会規範	● 社会的・職業的自立 I	● 社会的・職業的自立 II	● 社会的・職業的自立 I	● 社会的・職業的自立 II	● 社会的・職業的自立 I	● 社会的・職業的自立 II	● 他者理解と信頼関係	● 他者理解と信頼関係
基礎教育科目	● 社会の理解	● 人間の理解	● 社会の理解	● 社会の理解	● 社会の理解	● 社会の理解	● 社会の理解	● 社会の理解	● 社会の理解	● 社会の理解
基礎教育科目	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解	● 国際の理解
基礎教育科目 (小計)	6	4	3	2	1	3	4	4		
専門教育科目	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論	● 健康管理論
専門教育科目	● 解剖生理学 I	● 解剖生理学 II	● 解剖生理学	● 解剖生理学	● 解剖生理学	● 解剖生理学	● 解剖生理学	● 解剖生理学	● 解剖生理学	● 解剖生理学
専門教育科目	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学	● 微生物学
専門教育科目	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学	● 生化学
専門教育科目	● 食品化学 I	● 食品化学 II	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学
専門教育科目	● 食品化学 I	● 食品化学 II	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学	● 食品化学
専門教育科目	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学	● 調理学
専門教育科目	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学
専門教育科目	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学	● 基礎栄養学
専門教育科目	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学	● 応用栄養学
専門教育科目	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論	● 栄養教育論
専門教育科目	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学
専門教育科目	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学	● 臨床栄養学
専門教育科目	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学
専門教育科目	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学	● 公衆栄養学
専門教育科目	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習
専門教育科目	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習	● 総合演習
専門教育科目	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習	● 臨床実習
卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究	● 卒業研究
専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目	● 専門関連科目
専門教育科目 (小計)	12	14	15	16	17	15	3	15	2	98
合計	18	18	18	18	18	17	7	17	6	125
合計	20	19	20	18	18	17	7	17	6	125

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である (ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。
 ◎印は管理栄養士国家試験受験資格必修科目
 ■印は「いづれかを選択して履修する管理栄養士国家試験受験資格必修科目」
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム通りには実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。

9.教育学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(6) 教育学部

ア 教育目的

子どもの知・徳・体にわたるバランスの取れた成長と支援、子どもの心と身体の健やかな成長や発達と援助に必要な学校教育と児童福祉のあり方について、人間形成、人間発達及び人間援助の観点から考究し、それを実践する能力を身に付ける。

イ 人材像

学校教育や児童福祉の分野において、子どもとともに学ぶ情熱を持ち、専門職としての能力を備え、幅広い視野と豊かな人間性に基づき同僚、保護者及び地域と連携しつつ教育実践に取り組む人材

こども教育学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 こども教育分野における知識・技能・態度】

こども教育に関する考え方や基礎知識を体系的に理解し、学校教育や児童福祉の分野など、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 教育学や保育学に関する基礎的で体系的な知識を身に付けている。
- (2) 学校教育や児童福祉などの実践の場で活用できる技能・能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

こども教育学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) こども教育の主要分野における基礎的・基本的知識・技能及びより高度の専門知識の修得に加えて、理論知や技能を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

① 「基礎科目」及び「基幹科目」では、教職の意義、児童福祉や社会的養護の意義、教育や保育の基本原則、こどもの発達、特別支援教育、教育行政や学校経営、保育士の役割等に関する基礎的な理論を教育内容とする。

② 「展開科目」では、小学校の各教科・道徳・特別活動とその指導法、幼稚園・保育所で教える保育内容の各領域、さらにはこども理解、生活指導や教育相談の理論と方法等を教育内容とする。

③ 「関連科目」では、教育と保育の現場における今日的課題を理解するための教育内容とする。

④ 「演習科目」「実習科目」及び「実践科目」では、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士として、課題解決に必要な実践的指導力を身に付けるための教育内容とする。

⑤ 免許・資格取得に係る科目は、適宜、必要に応じて上記科目内に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4) 「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5) 学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6) 学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それら进行分析・考察することによって改善に資する。

(1) 学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2) 学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3) 学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

こども教育学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について基礎的な知識を有しており、それを用いて課題を解決することができる。

(2) こども教育あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かそうとする意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(4) 小学校教諭あるいは幼稚園教諭、保育士の免許・資格取得に向けた旺盛な意欲を持ち、不断に努力することができる。

(5) 自分の考えを口頭や文章で適切に表現するコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動することができ、物事に主体的に取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

こども教育学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

-
- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
 - (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
 - (3) 小論文
 - (4) 面接
 - (5) プレゼンテーション
 - (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

こども教育学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ こども教育学学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2)情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<こども教育学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び教育学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 こども教育分野における知識・技能・態度】

- (1)こども教育に関する考え方や基礎知識を体系的に理解し、学校教育や児童福祉の分野など、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。
- (2)修得した体系的専門知識を、学校教育や児童福祉などの実践の場で活用できる技能・能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目				
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2					
の 学 習 力 の 養 成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																			
	利他共生	1前	1	講義	●																			
思 考 力 の 養 成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●											◎						★		
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●										◎							★	
	統計分析法	2・3・4前	1	講義・演習			○		○		○					◎								
	問題解決法	3後	1	講義・演習						●							◎							
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●				◎	◎	◎	◎	◎				★
基 礎 教 育 科 目	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●											◎							★	
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●										◎							★	
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●									◎							★	
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2・3・4後	1	講義・演習				○		○		○				◎								
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●											◎								
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●										◎								
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●									◎								
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2・3・4後	1	講義・演習				○		○		○				◎								
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3・4前	1	講義・演習					○		○					◎								
人 間 力 の 養 成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●												◎							
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●											◎							
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●										◎							★
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●									◎							
の 社 会 力 の 養 成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●										◎							★
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●									◎							★
人 間 の 理 解	人間心理と人間行動	1・2・3・4前	1	講義・演習	○		○		○		○							◎						
	現代家族と育児介護	2・3・4前	1	講義			○		○		○							◎						

専門教育科目		健康管理と身体活動	1・2・3・4 前	1	講義・実技	○		○		○		○		○		◎				
		スポーツと運動科学	1・2・3・4 後	1	講義・演習		○		○		○		○				◎			
		日本社会と歴史文化	2・3・4 後	1	講義・FW				○		○		○				◎			
		生命科学と物理化学	2・3・4 後	1	講義・実験				○		○		○				◎			
	社会の理解	情報社会とデータサイエンス	1・2・3・4 前	1	講義	○		○		○		○					◎			
		法律社会と法律問題	1・2・3・4 前	1	講義	○		○		○		○					◎			
		福祉政策と福祉制度	1・2・3・4 後	1	講義		○		○		○		○				◎			
		日本国家と政治行政	2・3・4 前	1	講義			○		○		○					◎			
		経済構造と経済政策	1・2・3・4 後	1	講義		○		○		○		○				◎			
		現代医療と生命倫理	2・3・4 後	1	講義				○		○		○				◎			
	国際の理解	国際社会と国際問題	1・2・3・4 後	1	講義		○		○		○		○				◎			
		世界宗教と民族問題	1・2・3・4 後	1	講義		○		○		○		○				◎			
		世界動向と国際貢献	1・2・3・4 前	1	講義	○		○		○		○					◎			
		国際平和と安全保障	1・2・3・4 後	1	講義		○		○		○		○				◎			
		国際関係と日本外交	1・2・3・4 後	1	講義		○		○		○		○				◎			
		地球環境と環境対策	2・3・4 前	1	講義			○		○		○					◎			
	基礎科目	教育原理	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○		○					◎	◎	★	
		保育原理	1・2・3・4 後	2	講義		○		○		○		○					◎	◎	
		教育心理学	1・2・3・4 後	2	講義		○		○		○		○					◎		★
		社会福祉概論	2・3・4 前	2	講義			○		○		○						◎		
	基幹科目	教職概論	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○		○						◎	◎	★
		保育者論	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○		○						◎		
		教育行政学	4 前	2	講義						○								◎	★
		特別支援教育の理解と方法	2・3・4 前	1	講義			○		○		○							◎	★
		発達心理学	3・4 前	2	講義					○		○							◎	★
		子ども家庭支援の心理学	2・3・4 後	2	講義					○		○							◎	
		子育て支援	3・4 後	1	演習					○		○							◎	
		子ども家庭福祉	2・3・4 前	2	講義			○		○		○							◎	
		社会的養護Ⅰ	2・3・4 後	2	講義				○		○		○						◎	
		社会的養護Ⅱ	3・4 前	1	演習					○		○							◎	◎
	展開科目	子どもの保健	2・3・4 後	2	講義				○		○		○						◎	◎
		子どもの健康と安全	3・4 後	1	演習						○		○						◎	◎
		子どもの食と栄養	3・4 前	2	演習					○		○							◎	
		子ども家庭支援論	3・4 後	2	講義						○		○						◎	
		教育課程論	1・2・3・4 後	2	講義		○		○		○		○						◎	★
		保育内容総論	1・2・3・4 後	1	演習		○		○		○		○						◎	
		保育内容(健康)	3・4 前	2	演習					○		○							◎	◎
		保育内容(人間関係)	3・4 前	2	演習					○		○							◎	◎
保育内容(環境)	3・4 後	2	演習						○		○						◎	◎		

保育内容(言葉)	3・4 後	2	演習					○	○										◎	◎		
保育内容(音楽表現)	2・3・4 後	2	演習				○		○	○										◎	◎	
保育内容(造形表現)	3・4 前	2	演習					○		○										◎	◎	
保育内容(身体表現)	3・4 後	2	演習						○		○									◎	◎	
乳児保育Ⅰ	2・3・4 後	2	講義					○		○	○									◎	◎	
乳児保育Ⅱ	3・4 前	1	演習						○		○									◎	◎	
障害児保育	2・3・4 前	2	演習				○		○		○									◎	◎	
初等国語科教育法	3・4 前	2	講義							○	○									◎	◎	
初等社会科教育法	3・4 前	2	講義							○	○									◎	◎	
初等算数科教育法	3・4 前	2	講義								○	○								◎	◎	
初等理科教育法	3・4 前	2	講義								○	○								◎	◎	
初等家庭科教育法	3・4 後	2	講義									○	○							◎	◎	
初等生活科教育法	3・4 前	2	講義								○		○							◎	◎	
初等音楽科教育法	3・4 後	2	講義									○		○						◎	◎	
初等体育科教育法	3・4 後	2	講義										○		○					◎	◎	
初等図画工作科教育法	3・4 後	2	講義											○		○				◎	◎	
初等英語科教育法	2・3・4 後	2	講義						○		○		○							◎	◎	
教材研究	3・4 後	2	講義									○		○						◎	◎	
道徳の指導法	2・3・4 前	2	講義					○		○			○							◎	◎	
総合的な学習の時間と特別活動の指導法	2・3・4 後	2	講義							○		○		○						◎	◎	
生徒・進路指導の理論と方法	2・3・4 後	2	講義							○		○		○						◎	◎	
教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2・3・4 前	2	講義						○		○		○							◎	◎	★
幼児理解の理論と方法	2・3・4 前	2	演習					○		○		○								◎	◎	
教育相談の理論と方法	3・4 後	2	演習										○		○					◎	◎	★
児童文化	3・4 前	2	講義								○		○							◎	◎	
こどもと健康	1・2・3・4 前	2	演習	○		○		○		○										◎	◎	
こどもと人間関係	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○		○										◎	◎	
こどもと環境	2・3・4 後	2	講義						○		○		○							◎	◎	
こどもと言葉	3・4 前	2	演習								○		○							◎	◎	
こどもと表現(音楽)	2・3・4 前	2	演習					○		○		○								◎	◎	
こどもと表現(造形)	1・2・3・4 後	2	演習				○		○		○		○							◎	◎	
音楽	2・3・4 前	2	演習					○		○		○								◎		
体育	1・2・3・4 後	2	演習				○		○		○		○							◎		
図画工作	1・2・3・4 後	2	演習				○		○		○		○							◎		
スポーツ実技	1・2・3・4 前	1	演習	○		○		○		○								◎				
言語表現	4 前	2	演習																	◎		
国語	2・3・4 前	2	講義					○		○		○								◎		
社会	2・3・4 前	2	講義					○		○		○								◎		
理科	2・3・4 後	2	講義						○		○		○							◎		

	家庭	3・4 前	2	講義					○		○								◎		
	生活	2・3・4 後	2	講義				○		○		○							◎		
	算数	2・3・4 後	2	講義				○		○		○							◎		
	英語	2・3・4 前	2	講義			○		○		○								◎		
関連科目	日本国憲法	1・2・3・4 後	2	講義		○		○		○		○							◎		
	学級経営の理論と方法	2・3・4 後	2	講義				○		○		○							◎		
	教師の対人コミュニケーション能力	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○		○								◎		
	学校の安全管理と指導	3・4 後	2	講義						○		○							◎		
	自然探索・野外活動	1・2・3・4 前	2	講義	○		○		○		○								◎		
	児童キャリア教育	1・2・3・4 後	2	講義		○		○		○		○							◎		
	育児学	2・3・4 前	2	講義			○		○		○								◎		
	ICT 指導法	2・3・4 後	2	講義				○		○		○							◎		
実習科目	保育実習Ⅰ	3 通	4	実習						○	○								◎	◎	
	保育実習Ⅱ	4 前	2	実習							○								◎	◎	
	保育実習Ⅲ	4 前	2	実習							○								◎	◎	
	保育実習指導Ⅰ	3 通	2	演習						○	○								◎	◎	
	保育実習指導Ⅱ	4 前	1	演習							○								◎	◎	
	教育実習	3・4 通	4	実習						○	○	○	○						◎	◎	★
	教育実習事前事後指導	3・4 通	1	演習						○	○	○	○						◎	◎	★
演習科目	専門演習Ⅰ	2 前	1	演習		●													◎	★	
	専門演習Ⅱ	2 後	1	演習			●												◎	★	
	専門演習Ⅲ	3 前	1	演習				●											◎	★	
	専門演習Ⅳ	3 後	1	演習					●										◎	★	
	卒業研究	4 通	4	演習							●	●							◎	◎	★
	保育・教職実践演習(幼・小)	4 後	2	演習								○							◎	◎	
実践科目	フィールドスタディーⅠ	1・2・3・4 後	2	演習		○		○		○		○							◎		
	フィールドスタディーⅡ	2・3・4 後	2	演習				○		○		○							◎		
	学校インターンシップⅠ	1・2・3・4 後	1	演習		○		○		○		○							◎		
	学校インターンシップⅡ	2・3・4 後	1	演習				○		○		○							◎		
	学校インターンシップⅢ	3・4 後	2	演習						○		○							◎		
	教職インターンシップ	4 後	2	演習								○							◎		
	事例研究	4 前	2	演習								○							◎		
	短期海外研修	2 後	2	実習				○											◎	◎	

※★それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆ 基本型の履修モデル

学位：学士
(教育学)

★主要授業科目を青フォントで表記

124 単位

【こども教育学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎教育科目	学習力の養成	1							2	
	思考力の養成	1							1	
	表現力の養成	1	★●コミュニケーション英語Ⅲ ★●コミュニケーション英語Ⅱ ★●コミュニケーション英語Ⅰ ●表現技法Ⅰ(読解、分析) ●表現技法Ⅱ(作文、論述)			●問題解決法		★●創造思考法	4	
	人間力の養成	1	●自己管理と社会規範 ●コミュニケーション・リーダーシップ ●社会的・職業的自立Ⅰ ★●社会的・職業的自立Ⅱ	●他者理解と信頼関係 ●社会的・職業的自立Ⅰ ★●社会的・職業的自立Ⅱ					4	
基礎教育科目	社会力の養成	1							2	
	人間の理解	1	人間心理と人間行動 健康心理と身体活動						3	
	社会の理解	1	法律・社会と法律問題 情報社会とデータサイエンス						3	
基礎教育科目 (小計)	国際の理解	1	国際平和と安全保障						3	
	基礎科目	2	★教育心理学	4	2	1	0	1	27	
	基礎科目	2	★教育心理学	★特別支援教育の理解と方法	1		★発達心理学	2	7	
	専門科目	1	図画工作 体育 ★教育課程論	2	道徳の指導法 音楽 国語 英語 社会 ★教育の方法と技術 (情報通信技術の活用含む)	2	2	2	2	
	関連科目	2	児童キャリア教育 日本国憲法						2	
	実習科目			★●専門演習Ⅰ	1	★●専門演習Ⅱ	1	★●専門演習Ⅲ	1	4
	演習科目								4	
	実践科目								2	
	実践科目 (小計)	7	13	14	16	15	17	7	8	
	合計	18	18	18	18	18	18	7	9	124

※科目名の頭に●がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもありまして、各年度当初に必ず確認してください。

10.地域創生学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(9) 地域創生学部

ア 教育目的

地域の見方や考え方を理解させ、実践的かつ体験的な学習活動を通して、地域資源の活用による地域文化の振興や地域産業の発展を担う職業人として必要な資質や能力を身に付ける。

イ 人材像

我が国の地域社会に関する基礎的な知識と地域資源や資源活用に関する能力を地域文化や地域産業の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、地域創生を主体的かつ創造的に行うことのできる幅広い人材

地域創生学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び地域創生学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 地域創生学分野における知識・技能・態度】

地域創生学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域資源の活用に関する能力を地域文化や地域産業の諸活動に適用することができる意欲、行動力と能力を身に付けている。

- (1) 地域創生を学ぶうえでの基盤となる各分野に関する基礎的な知識を論理的に理解し、地域創生を実践するために必要な基礎的な知識を身に付けている。
- (2) 地域調査に関する知識と技法を用いて地域動向や地域事象等を的確にとらえるための基本的な分析手法や評価方法を修得している。
- (3) 地域社会や地域資源と資源活用に関する知識と能力を総合して他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる知識、能力と態度を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地域創生学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

①大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

②「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 地域創生の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・能力の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「専門導入科目」「専門基盤科目」「専門基礎科目」では、地域創生を学ぶ目的、地域創生の学習分野の理解及び地域創生を学ぶにあたっての基盤となる基礎的な知識を修得させる教育内容とする。

②「専門基幹科目」「専門展開科目」では、地域社会や地域事情に関する知識を修得させ、地域文化や地域産業などの地域資源を理解させる教育内容とする。

③「専門実習科目」では、地域の現状と諸課題についての認識を深め、調査活動や資源活用を主体的に行う態度を育てながら地域創生の各分野に関する能力を実践的な活動を通して総合的に修得させる教育内容とする。

④「専門研究科目」では、地域創生に関する課題の解決を図り、専門的な知識と技能の深化と創造的な能力と態度を育てる教育内容とする。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1)「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6)専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

地域創生学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1)高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している。

(2)地域社会、経済、文化に対する強い興味と関心を有し、学部教育に対する学習意欲を有している。

(3)物事を正しく認識し、自分の考えを口頭や文章で適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる。

(4)本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(5)物事に主体的に取り組み、他者と協調・協働して行動できる。

【2 入学者選抜の方法】

地域創生学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

地域創生学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習。
- (2) 現代社会の課題や地域経済・地域文化の問題に対する関心に基づく探究学習。
- (3) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 地域創生学科科目

<p><淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)> 本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育による人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。 【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。 (2)情報リテラシーや数論的スキルを修得している。 (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。 (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。 (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。 【2 専門教育分野における知識・技能・態度】 (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。 (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。</p>	
<p><地域創生学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)> 定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び地域創生に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。 【2 地域創生学分野における知識・技能・態度】 地域創生学に関する考え及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域資源の活用に関する能力を地域文化や地域産業の諸活動に適用することができる意欲、行動力と能力を身に付けている。 (1)地域創生を学ぶうえでの基盤となる各分野に関する基礎的な知識を論理的に理解し、地域創生を実践するために必要な基礎的な知識を身に付けている。 (2)地域調査に関する知識と技法を用いて地域動向や地域事象等を的確にとらえるための基本的な分析手法や評価方法を修得している。 (3)地域社会や地域資源と資源活用に関する知識と能力を総合して他者と共に商品やサービスの価値の創造に取り組むことができる知識、能力と態度を身に付けている。</p>	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年				2年				3年				4年				1					2			主要授業科目											
					1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1	2	3	4	5	1	2	3												
基礎教育科目	学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1①	1	講義・演習	●																																		
		利他共生	1①	1	講義	●																																		
	思考力の養成	情報リテラシー	1①	1	講義・演習	●																																	★	
		データリテラシー	1②	1	講義・演習		●																																★	
		統計分析法	2①	1	講義・演習						○																													
		問題解決法	2②	1	講義・演習							●																												
		創造思考法	4④	1	講義・演習																																		★	
	表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1①	1	講義・演習	●																																	★	
		コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1②	1	講義・演習		●																																★	
		コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	1④	1	講義・演習				●																														★	
		コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2①	1	講義・演習					○																														
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	1①	1	講義・演習	●																																		
		表現技法Ⅱ(作文・論文)	1④	1	講義・演習				●																															
		表現技法Ⅲ(発表・討論)	2①	1	講義					●																														

11.経営学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(5) 経営学部

ア 教育目的

企業経営や観光ビジネスに必要な専門知識と技能を座学やフィールドにおける演習又は実習を通じて習得し、企業の問題を解決する能力やリーダーシップを発揮できる能力を身に付ける。

イ 人材像

使命感や責任感を持って主体的に行動し、グローバルな視点から地域資源を活用することで、企業や観光産業が直面している諸問題を解決し、ひいては地域社会の発展に貢献できる人材

経営学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 経営学分野における知識・技能・態度】

経営学に関する基礎知識、技能及び考え方を体系的に理解し、社会の多種多様な分野で経営的知識や分析方法を活用する意欲や能力を身に付けている。

- (1) 経営学の基礎及び専門領域に関する知識を体系的に修得し、マネジメント、マーケティング、ファイナンス、データサイエンスの知識と分析方法を身に付けている。
- (2) 企業が直面している諸課題を、各専門領域の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

①大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

②「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 経営の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる技能・能力の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「導入科目」及び「基礎科目」では、経営学の基礎知識・技能の修得を教育内容とする。

②「展開科目」では、経営学の各分野を構成する各論に関する知識・技能の修得を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実践科目」では、演習でのケーススタディや経営活動の取組みを観察・体験することにより、理論の実践への適用や経営に対する態度の育成を教育内容とする。

④「関連科目」では、国内外の地域性や経済活動等に関する知識を修得することで、そこでの企業経営の係り方を考えることを教育内容とする。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4) 「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5) 学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6) 学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1) 学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2) 学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3) 学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

経営学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

(1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有しており、それを用いて課題を解決することができる。

(2) 経営あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かそうとする意欲を有している。

(3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。

(4) 各種資格の取得に向けた旺盛な意欲を持ち、不断に努力することができる。

(5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動することができ、物事に主体的に取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

経営学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

(1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査

-
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
 - (3) 小論文
 - (4) 面接
 - (5) プレゼンテーション
 - (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

経営学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 経営学科

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

[1] 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度]

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

[2] 専門教育分野における知識・技能・態度]

- (1) 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<経営学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

[2] 経営学分野における知識・技能・態度]

経営学に関する基礎知識、技能及び考え方を体系的に理解し、社会の多種多様な分野で経営的知識や分析方法を活用する意欲や能力を身に付けている。

- (1) 経営学の基礎及び専門領域に関する知識を体系的に修得し、マネジメント、マーケティング、ファイナンス、データサイエンスの知識と分析方法を身に付けている。
- (2) 企業が直面している諸課題を、各専門領域の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目		
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2			
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前	1	講義・演習	●																	
	利他共生	1前	1	講義	●																	
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																★	
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●															★	
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○															
	問題解決法	3後	1	講義・演習					●													
	創造思考法	4後	1	講義・演習							●											★
基礎教育科目	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																★	
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●															★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○														
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																	
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●															
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○														
人間力の養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW		●																
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習	●																	
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●															★
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●														
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●															★
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●														★
人間の理解	人間心理と人間行動	1・2・3・4前	1	講義・演習	○		○		○		○											
	現代家族と育児介護	2・3・4前	1	講義			○		○		○											

		人材開発論	3・4前	2	講義					○	○									◎			
		生産管理論	3・4前	2	講義					○	○										◎		
	流通・マーケティング分野	マーケティング戦略	1・2・3・4後	2	講義		○		○		○	○									◎		★
		国際マーケティング	3・4後	2	講義						○	○									◎		
		サービスマーケティング	3・4前	2	講義						○	○									◎		
		広告論	2・3・4後	2	講義						○	○	○								◎		★
		消費者行動論	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		★
		販売管理論	2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		★
		ロジスティクス論	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		
		マーケティングデータ分析	3・4前	2	講義							○	○								◎		
		スポーツマーケティング	3・4後	2	講義							○	○								◎		
		商品開発論	3・4前	2	講義							○	○								◎		
		会計ファイナンス分野	簿記Ⅰ	1・2・3・4後	2	講義		○		○		○	○									◎	
	簿記Ⅱ		2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		
	原価計算論		2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		★
	財務会計論		2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		★
	管理会計論		3・4前	2	講義						○	○									◎		★
	コーポレートファイナンス		3・4後	2	講義							○	○								◎		
	会計データ分析Ⅰ		2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		
	会計データ分析Ⅱ	3・4前	2	講義							○	○								◎			
	データサイエンス分野	データアナリシスⅠ	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		
		データアナリシスⅡ	2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		
		ビジネスモデル分析演習	3・4前	2	講義							○	○								◎		
		情報デザイン	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		★
		情報処理論	2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		★
		AIビジネス論	2・3・4前	2	講義			○		○		○									◎		★
		イノベーション論	2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		★
		ICT & AI論	3・4後	2	講義							○	○								◎		
		データマイニング	3・4後	2	講義							○	○								◎		
		デジタルメディア処理論	3・4前	2	講義							○	○								◎		
		ICTビジネス戦略論	3・4後	2	講義							○	○								◎		
	関連科目	ミクロ経済学	2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		★
		日本経済論	2・3・4後	2	講義					○		○	○								◎		
		国際経済論	3・4前	2	講義							○	○								◎		
		マクロ経済学	3・4前	2	講義							○	○								◎		★
		地域振興論	3・4前	2	講義							○	○								◎		
	演習科目	経営専門演習Ⅰ	2前	2	演習			●													◎	◎	★
経営専門演習Ⅱ		2後	2	演習				●												◎	◎	★	
経営専門演習Ⅲ		3前	2	演習					●											◎	◎	★	
経営専門演習Ⅳ		3後	2	演習							●									◎	◎	★	

実践科目	卒業研究Ⅰ	4前	2	演習														●																		◎	◎	★					
	卒業研究Ⅱ	4後	2	演習															●																		◎	◎	★				
	企業経営研究	1後	2	演習																																		◎	◎	★			
	経営プロジェクト研究Ⅰ	2・3・4後	2	演習																																			◎	◎			
	経営プロジェクト研究Ⅱ	3・4前	2	演習																																				◎	◎		
	プロジェクト実践Ⅰ(SLDP)	1前	2	演習																																				◎			
	プロジェクト実践Ⅱ(SLDP)	1後	2	演習																																					◎		
	ボランティア研修	2・3・4前後	2	実習																																						◎	
	インターンシップ(事前事後指導を含む)	2・3・4通	2	実習																																						◎	
	短期海外研修	2後	2	実習																																						◎	

※ ★ それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

経営学部 経営学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

科目別の学習目標・到達目標

■経営学分野における基本的な基礎概念を理解する
 *大学の学習およびその延長線上にある社会生活では、知識の蓄積に加え、知識を創り活用する技能が要求されることを理解し、大学での学びを一貫して学習します。
 *大学の学習およびその延長線上にある社会生活では、知識の蓄積に加え、知識を創り活用する技能が要求されます。このことを理解するとともに、その基礎となるリーディングスキルとライティングスキルを身につけます。
 *経営とは何か、経営学をなぜ学ぶのかを知り、組織を運営するために経営学の知識が必要であることを理解します。
 *模範講義の基本原理解（貸借対照表）と期首から期末までの流れ（簿記一巡の手続き）、会計学の基礎概念を学習します。

■経営学を構成する各専門分野について理解する
 *経営学の4つの領域（マネジメント・マーケティング・ファイナンス・データサイエンス）の各分野を、体系的に学ぶために必要となる基礎概念を学びます。
 *経営学の基本的な概念を理解し、専門的な知識・スキルを身につけるために必要な知識、技能、能力を身に付けます。企業、組織、業種、業式会社、日本の経営、経営活動のグローバル化、企業の社会的責任などの経営基本概念を把握します。
 *経営管理の概念的アプローチをベースに、経営管理（マネジメント）に関する論理を理解し、自ら考察できる能力を養います。
 *利他的行動への理解を深め、社会の公器であるべき企業にそれがどのような役割を果しているのかを知り、それを基盤とした日本企業の利他共生の理念やその実践を学習します。

■マネジメント分野の体系知識について学習する
「マネジメント分野における基礎概念（管理論・組織論・経営論）と組織論の史的動向を学び、組織マネジメントに関する基礎概念を分析し、解決策を考えるための基礎力を身に付けます。」
 *企業を主とした社会の中の組織をイメージできることにより、社会システムの基本、働くことの基本、経営用語、組織用語の基本などを理解し、組織の中の個人、組織と個人の関係を考える機会になり、具体的なイメージができるようになります。
 *実際の企業の事例から経営課題を把握し、その内容を分析し、それを総合的に解決するための能力を身につけます。
 *社会経済の発展と中小企業政策の関係を理解し、中小企業の経営管理の特徴および中小企業が抱える課題を学びます。
 *起業から安定成長にいたるまでに直面する経営上の課題を理解し、新しいアイデアの発想法、問題解決の方法などを学習し、実践できる力を身につけます。
 *企業の国際経営活動をめぐる様々なビジネス課題を経営論や事例を通じて学習し、国際経営についての様々な課題を論理的に分析します。
 *企業と管理関係者の関係性を理解した上で、社会に対する企業の社会的責任の意義を論理的に分析し、各分野で発生している環境問題の本質を理解し、課題の解決策について、各分野の企業への対応策を学びます。
 *社会で発生している環境問題の本質を理解し、その問題が企業にもたらす課題と解決策について学びます。

■マーケティング・流通分野の体系知識について学習する
 *マーケティングの基礎理論を基盤に、実際の事例から企業のマーケティングの現状と課題を分析します。
 *企業、消費者、流通といった経営活動の基本的な構造について理解し、流通と商業の仕組み、企業のマーケティング活動の基礎について学びます。
 *事例研究を通してマーケティング課題の発見、原因分析、解決策立案に関する方法論と論理的思考力を身につけます。

■会計・ファイナンス分野の体系知識について学習する
 *企業の会計データを取引・記録するスキルを身につけ、実際の企業における会計の仕組みを学びます。
 *企業会計の発展に必要となる簿記と管理会計の基礎理論を学び、会計的思考の基礎力を養います。
 *会計データを活用し、現実の企業を対象とした経営分析を行う方法を学びます。
 *企業活動における資金の流れを理解し、企業価値の最大化を目指す財務戦略の基礎を学びます。

■データサイエンス分野の体系知識について学習する
 *経営学の専門知識に基づいた、ビジネスに活用できる情報通信技術やデータ分析によって、日常生活や社会、企業の課題解決を学びます。
 *デジタル形式の情報を中心として、それらを処理する情報通信技術の考え方や特徴を理解し、現在の知識社会での影響と可能性を考えます。
 *企業経営における情報システム上の概要と役割を理解し、それを活用するビジネスやサービスを学びます。
 *経営学の専門知識と方法論を用いて、ICTやAIを活用して変化するビジネスモデルを分析します。
 *データ分析や情報処理技術の概要を学び、基礎的な分析や開発を体験します。

■経済・経済・社会・企業経営等に關連する知識を修得する
 経営学を学ぶ上で必要とされる経済学の基本的な概念を身に付けます。
 *市場や政府の役割を踏まえ、最近の経済ニュースを日本経済の現状から現在までの歩みと関連付けながら理解します。
 *グローバル化の進展に伴って、経済活動や日々の暮らしの視点からの事例をも含め多面的に学習し、実践的理解を深めます。
 *産業、人口、グローバル化等の視点から地域経済の現状と課題を概観し、国や自治体による政策の流れと課題解決に向けた地域の取り組みについて理解します。

■自ら課題を発見し、課題を解決する能力を修得する
 グループ討議、事例研究、現地調査などの実践的な授業方法により、専門科目の各分野で学んだ知識と技能を身に、社会的な応用能力を修得するとともに、業務執行のための実践的手法を身に付けます。
 *学修のテーマを決定し、資料収集しながらグループ討議を行い、プレゼンテーション能力を向上させます。
 *提供されたテーマについて、学修した手法を活用し調査研究をします。
 *4年間の学修の成果として、実際に自らの手で研究を遂行し、論文にまとめます。

■自律的に学習するシステムを構築する
 主体性と実行力を持った人材となるため、様々なプロジェクトを立案し、自らPDCAサイクルを構築することによって、理論と実践を有機的に身につけます。
 *様々な課題をグループで解決するプロセスを体験することにより、組織の中で協働しつつ発揮できるリーダーシップを身に付けます。
 *様々な知識を活かし、実際のプロジェクトの計画、実施、評価のプロセスを体験することにより、実行力をも身につけます。
 *インターンシップを通じて職業に関する知識を修得し、キャリア形成に結びつけます。
 *国内の自治体、学校、組織において、本学が自主的かつ積極的にボランティア活動に参加し、地域社会への貢献を通してボランティアの心構えを体得します。
 *他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することにより、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや対人能力といった社会常識を身につけます。

	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
アカデミック・ライティングⅠ 経営演習基礎Ⅰ①								
アカデミック・ライティングⅡ 経営演習基礎Ⅱ②								
経営学概論 ②								
マーケティング概論 ②								
会計学概論 ②								
経営情報概論 ②								
経営学概論 ②								
経営史 ②								
組織行動論 ②								
経営概論 ②								
経営概論 ②								
人的資源管理論 ②								
生産管理論 ②								
中小企業論 ②								
国際経営論 ②								
ベンチャー起業論 ②								
CSR論 ②								
エコビジネス論 ②								
サービス・マーケティング ②								
国際マーケティング ②								
スポーツマーケティング ②								
消費者行動論 ②								
広告論 ②								
マーケティングデータ分析 ②								
ロジスティクス論 ②								
販売管理論 ②								
商品開発論 ②								
簿記Ⅰ ②								
簿記Ⅱ ②								
原簿計算論 ②								
財務会計論 ②								
管理会計論 ②								
会計データ分析Ⅰ ②								
会計データ分析Ⅱ ②								
コーポレートファイナンス ②								
AI&ビジネス論 ②								
イノベーション論 ②								
ビジネスモデル分析演習 ②								
ICT&ビジネス戦略論 ②								
情報デザイン ②								
情報処理論 ②								
デジタルメディア経営論 ②								
ICT&AI論 ②								
データアナリシスⅠ ②								
データアナリシスⅡ ②								
データマイニング ②								
ミクロ経済学 ②								
マクロ経済学 ②								
日本経済論 ②								
国際経済論 ②								
地域振興論 ②								
経営専門演習Ⅰ ②								
経営専門演習Ⅱ ②								
経営専門演習Ⅲ ②								
経営専門演習Ⅳ ②								
卒業研究Ⅰ ②								
卒業研究Ⅱ ②								
プロジェクト実践Ⅰ(SLOP)②								
プロジェクト実践Ⅱ(SLOP)②								
企業経営研究 ②								
経営プロジェクト研究Ⅰ ②								
経営プロジェクト研究Ⅱ ②								
インターンシップ(事前事後指導を含む) ②								
ボランティア研修 ②								
短期海外研修 ②								

◆ 基本型の履修モデル

		124 単位				★主要授業科目を青フォントで表記				学位：学士 (経営学)	
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎 教育 科目	学習力の養成	●和地共生 1									2
	思考力の養成	●情報リテラシー 1	●データリテラシー 1	統計分析法 1			●問題解決法 1			★●創造思考法 1	5
	表現力の養成	●コミュニケーション英語Ⅰ (必修) 1	●コミュニケーション英語Ⅱ (必修) 1	●コミュニケーション英語Ⅲ (必修) 1							6
	人間力の養成	●自己管理と社会規範 1	●自己理解と信頼関係 1								4
	社会力の養成	●チームワークとリーダーシップ 1									2
	人間の理解	人間心理と人間行動 1	日本社会と歴史文化 1								3
	社会の理解	健康心理と身体活動 1	経済構造と経済政策 1								3
	国際の理解	国際社会と国際問題 1	国際平和と安全保障 1								2
	基礎教育科目 (小計)	11	6	6	2	0	1	0	0	1	27
	専 門 教 育 科 目	導入科目	●キャリアデザインⅠ 1 (経営専攻Ⅰ)	●キャリアデザインⅡ 2 (経営専攻Ⅱ)							
基礎科目		●経営学概論 2	●経営情報総論 2	●会計学総論 2							8
経営学分野		●経営学総論 2	●経営学総論 2	●経営学総論 2							18
展開科目				●消費者行動論 2	●人材開発論 2	●消費者行動論 2	●広告論 2	●販売管理論 2	●財務会計論 2	●コーポレートファイナンス 2	10
専門教育科目 (小計)		7	12	11	15	18	16	10	10	8	97
合 計		18	18	17	17	18	17	10	10	9	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。

観光経営学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び観光経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 観光経営学分野における知識・技能・態度】

観光経営学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、社会の多種多様な実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 経営学及び観光産業に関する基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。
- (2) 観光産業等が直面している諸課題を、経営学・観光学等の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

観光経営学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

- (1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。
 - ① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。
 - ② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。
 - ③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。
 - ④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。
 - ⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 観光経営の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「導入科目」及び「基礎科目」では、経営学や関連する観光学・観光産業論の基礎知識・技能の修得を教育内容とする。

②「展開科目」では、経営学、観光学・観光産業論の各分野を構成する各論に関する知識・技能の修得を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実践科目」では、演習でのケーススタディや観光産業の経営活動の取り組みを観察・体験することにより、理論の実践への適用や観光産業の経営に対する態度の育成を教育内容とする。

④「関連科目」では国内外の地域経済活動等と観光英語に関する知識を修得することで、そこでの企業経営の係り方を考えることを教育内容とする。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4) 「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5) 学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6) 学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1) 学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2) 学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3) 学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

観光経営学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

- (1) 高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有しており、それをを用いて課題を解決することができる。
- (2) 観光経営あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かそうとする意欲を有している。
- (3) 本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがうことができる。
- (4) 各種資格の取得に向けた旺盛な意欲を持ち、不断に努力することができる。
- (5) 自分の考えを、口頭や文章で適切に表現するコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動することができ、物事に主体的に取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

観光経営学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

観光経営学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- (1) 「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付ける学習
- (2) 幅広い分野に興味・関心を持ち、旺盛な学習意欲を保持すること。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 観光経営学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育による人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

- 【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】**
 (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
 (2)情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
 (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
 (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
 (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

- 【2 専門教育分野における知識・技能・態度】**
 (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
 (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<観光経営学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び観光経営学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

- 【2 観光経営学分野における知識・技能・態度】**
 観光経営学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、社会の多種多様な実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。
 (1)経営学及び観光産業に関する基本的かつ体系的な知識・技能を身に付けている。
 (2)観光産業等が直面している諸課題を、経営学・観光学等の観点から総合的に分析して、課題の解決を実践する意欲や能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数	授業形 態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要 授業 科目				
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	1	2	3	4	5	1	2					
基礎 教育 科目	学習力の養成	初年次セミナー(学習の 目的と技術)	1前	1	講義・ 演習	●																		
		利他共生	1前	1	講義	●																		
	思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・ 演習	●																★		
		データリテラシー	1後	1	講義・ 演習		●																★	
		統計分析法	2前	1	講義・ 演習			○																
		問題解決法	3後	1	講義・ 演習						●													
		創造思考法	4後	1	講義・ 演習							●												★
	表現力の養成	コミュニケーション英語 I(基礎)	1前	1	講義・ 演習	●																	★	
		コミュニケーション英語 II(応用)	1後	1	講義・ 演習		●																	★
		コミュニケーション英語 III(実践)	2前	1	講義・ 演習			●																★
		コミュニケーション英語 IV(実践)	2後	1	講義・ 演習				○															
		表現技法I(読解・分析)	1前	1	講義・ 演習	●																		
		表現技法II(作文・論文)	1後	1	講義・ 演習		●																	
		表現技法III(発表・討論)	2前	1	講義・ 演習			●																
		表現技法IV(企画・立案)	2後	1	講義・ 演習				○															
	人間力の養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・ FW		●																	
		チームワークとリーダー シップ	1後	1	講義・ 演習	●																		
		地域活動と社会貢献	2前	1	講義・ FW			●																★
		他者理解と信頼関係	2後	1	講義・ 演習				●															
	社会力の養成	社会的・職業的自立I	2前	1	講義・ FW			●																★
社会的・職業的自立II		2後	1	講義・ 演習				●															★	
人間の理解	人間心理と人間行動	1・2 ・3・ 4前	1	講義・ 演習	○		○		○		○													
	現代家族と育児介護	2・3 ・4前	1	講義			○		○		○													

専 門 教 育 科 目		健康管理と身体活動	1・2 ・3 ・4 前	1	講義・ 実技	○		○		○									◎					
		スポーツと運動科学	1・2 ・3 ・4 後	1	講義・ 演習		○		○		○									◎				
		日本社会と歴史文化	1・2 ・3 ・4 後	1	講義・ FW		○		○		○									◎				
		生命科学と物理化学	2・3 ・4 後	1	講義・ 実験				○		○									◎				
	社会の理解	情報社会とデータサイエ ンス	1・2 ・3 ・4 前	1	講義	○		○		○										◎				
		法律社会と法律問題	1・2 ・3 ・4 前	1	講義	○		○		○										◎				
		福祉政策と福祉制度	1・2 ・3 ・4 前	1	講義	○		○		○										◎				
		日本国家と政治行政	2・3 ・4 前	1	講義			○		○										◎				
		経済構造と経済政策	1・2 ・3 ・4 後	1	講義		○		○		○									◎				
		現代医療と生命倫理	2・3 ・4 後	1	講義				○		○									◎				
	国際の理解	国際社会と国際問題	1・2 ・3 ・4 前	1	講義	○		○		○										◎				
		世界宗教と民族問題	1・2 ・3 ・4 後	1	講義		○		○		○									◎				
		世界動向と国際貢献	1・2 ・3 ・4 前	1	講義	○		○		○										◎				
		国際平和と安全保障	1・2 ・3 ・4 後	1	講義		○		○		○									◎				
		国際関係と日本外交	2・3 ・4 後	1	講義				○		○									◎				
		地球環境と環境対策	2・3 ・4 前	1	講義			○		○										◎				
	専 門 教 育 科 目	導入科目	アカデミック・ライティ ングⅠ(経営演習基礎Ⅰ)	1前	1	演習	●													◎	◎		★	
			アカデミック・ライティ ングⅡ(経営演習基礎Ⅱ)	1後	2	演習		●													◎	◎		★
			観光経営学入門	1前	2	講義	●														◎			★
		基礎科目	経営学総論	1・2 ・3 ・4 後	2	講義		○		○		○									◎			★
			観光学総論	1・2 ・3 ・4 前	2	講義	○		○		○										◎			★
			観光産業総論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○										◎			★
			会計学総論	1・2 ・3 ・4 前	2	講義			○		○										◎			
		展 開 科 目	経 営 学 分 野	経営組織論	2・3 ・4 後	2	講義			○		○									◎			
CSR 論				3・4 後	2	講義			○		○									◎				
国際経営論				2・3 ・4 前	2	講義			○		○									◎				
経営戦略論	2・3 ・4 後			2	講義			○		○										◎				
ベンチャー起業論	3・4 後			2	講義					○		○								◎				
エコビジネス論	3・4 前			2	講義				○		○									◎				
人材開発論	3・4 前			2	講義				○		○									◎				
育 専 門 科 目 教 育																								

	中小企業論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		
会計・ファイナンス分野	簿記Ⅰ	1・2 ・3 ・4 後	2	講義		○		○		○		○								◎		
	簿記Ⅱ	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		
	財務会計論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		
	管理会計論	3・4 前	2	講義					○		○									◎		
	コーポレートファイナンス	3・4 後	2	講義							○		○							◎		
	会計データ分析Ⅰ	2・3 ・4 後	2	講義				○		○		○								◎		
	会計データ分析Ⅱ	3・4 前	2	講義						○		○								◎		
	データサイエンス分野	データアナリシスⅠ	2・3 ・4 前	2	演習			○		○		○								◎		◎
データアナリシスⅡ	2・3 ・4 後	2	講義				○		○		○								◎		◎	
情報デザイン	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎			
AI ビジネス論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎			
イノベーション論	2・3 ・4 後	2	講義				○		○		○								◎			
観光学分野	観光政策論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		★
	観光地経営論	3・4 後	2	講義							○		○							◎		★
	アクセシブル・ツーリズム論	3・4 後	2	講義							○		○							◎		★
	サステイナブル・ツーリズム論	3・4 前	2	講義						○		○								◎		★
	観光地理国内	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		★
	観光地理海外	2・3 ・4 後	2	講義					○		○		○							◎		
	世界遺産研究	2・3 ・4 後	2	講義					○		○		○							◎		
	観光文化論	2・3 ・4 後	2	講義					○		○		○							◎		
	国際観光論	3・4 後	2	講義							○		○							◎		★
	観光資源論	1・2 ・3 ・4 前	2	講義	○		○		○		○									◎		★
	地域振興論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		★
観光産業分野	観光経済論	3・4 前	2	講義					○		○									◎		
	交通ビジネス論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		
	旅行ビジネス論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		★
	エアライン・ビジネス論	2・3 ・4 後	2	講義					○		○		○							◎		★
	ホテル・ビジネス論	2・3 ・4 後	2	講義					○		○		○							◎		★
	ブライダル・ビジネス論	2・3 ・4 後	2	講義					○		○		○							◎		
	レジャー・リゾート・ビジネス論	2・3 ・4 前	2	講義			○		○		○									◎		★

		ホスピタリティ・リーダーシップ	3・4後	2	講義															◎		★			
		MICE 産業論	3・4後	2	講義				○		○										◎				
		観光マーケティング	3・4前	2	講義				○		○										◎		★		
関連科目		ビジネス・イングリッシュ	2・3・4前	2	講義			○		○										◎					
		マーケティング戦略	1・2・3・4後	2	講義			○		○												◎			
		国際マーケティング	3・4後	2	講義						○											◎			
		サービスマーケティング	3・4前	2	講義					○		○											◎		
		広告論	2・3・4後	2	講義					○		○											◎		
		消費者行動論	2・3・4前	2	講義				○		○												◎		
演習科目		観光経営専門演習Ⅰ	2前	2	演習			●													◎	◎	★		
		観光経営専門演習Ⅱ	2後	2	演習				●													◎	◎	★	
		観光経営専門演習Ⅲ	3前	2	演習					●												◎	◎	★	
		観光経営専門演習Ⅳ	3後	2	演習						●												◎	◎	★
		卒業研究Ⅰ	4前	2	演習							●											◎	◎	★
		卒業研究Ⅱ	4後	2	演習								●										◎	◎	★
実践科目		観光経営実践入門	1後	2	演習			●														◎	◎	★	
		観光経営実践Ⅰ	3・4前	2	講義					○		○											◎	◎	
		観光経営実践Ⅱ	3・4後	2	講義						○		○										◎	◎	
		プロジェクト実践Ⅰ(SLDP)	1前	2	演習	○																◎		◎	
		プロジェクト実践Ⅱ(SLDP)	1後	2	演習		○																	◎	
		ボランティア研修	2・3・4前後	2	実習			○	○	○	○	○	○											◎	
		インターンシップ(事前事後指導を含む)	2通	2	実習			○	○															◎	
		短期海外研修	2後	2	実習				○		○													◎	

※ ★それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

経営学部 観光経営学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標

■観光経営分野における基本的な思考形式を理解する
 ・大学での学習およびその延長線上にある社会生活では、知識の蓄積に加え、知識を創り活用する技能が要求されることを理解し、大学での学びを一通り学習します。
 ・観光経営学の各科目を受講するにあたり、事前に観光経営学の各科目の基礎知識を修得します。
 ・複式簿記の基本原則(貸借複記)と期首から期末までの流れ(簿記一巡の手続き)、会計学の基礎概念を学習します。

■経営学を構成する各学問分野について理解する
 専門教育体系的に学習するうえで基礎となる各論議を学びます。
 ・経営学の基本的な概念を理解し、専門的なカリキュラムに進むために必要な知識、技能、能力を身に付けます。
 ・観光についての基礎的な知識の習得を通じて、観光の意義や実態を理解します。
 ・代表的な観光産業の事例を学ぶつつ、観光産業の関連、仕組み、その特性を理解し、観光産業の今日の課題、将来の可能性を考察します。
 ・利他的行動への理解を深め、社会の公認であるべき企業の経営にそれがどのように生かされているのかを知り、それを基盤とした日本企業の利他共生の理念やその実践を学習します。

■経営学分野の体系知識について学習する
 ・企業を主とした社会の中の組織をイメージできるように、社会システムの基本、働くことの基本、経営用語、組織用語の基本などを理解し、組織の中の個人、組織と個人の関係を考える機会に及び、具体的なイメージができるようになります。
 ・実際の企業の事例から経営課題を把握し、その内容を分析し、それを総合的に解決するための能力を身に付けます。
 ・企業の国際経営活動をめぐる様々なビジネス課題を経営理論や事例を通じて学習し、国際経営についての様々な課題を論理的に分析します。
 ・マーケティング論の基本的内容を理解することにより、現在企業がマーケティングをどのように実践しているかを把握します。さらに、サービス化が進化する現代の経済社会の仕組みと、サービスマーケティングにかかわる様々な概念や分析枠組みを理解します。
 ・企業におけるメディアを通じたPRを具体的に学びます。
 ・企業と利害関係者の関係性を理解した上で、社会に対する企業の社会的責任の意義を論理的に分析します。

■会計・情報学分野の体系知識について学習する
 ・企業における情報にあって、特に応用範囲の広い簿記の基礎について理解をすすめる、基本的な仕訳ができる力を身に付けます。
 ・財務諸表の仕組みについて理解し、会計数値を用いて経営分析する方法を学びます。
 ・ホテル企業で重視されている経営指標や会計手法について学び、将来ホテルのマネジメントとして重要な意思決定が行えるよう財務の基礎的知識を修得します。
 ・デジタル形式の情報を中心として、それらを処理する情報通信技術の考え方や特徴を理解し、現在の情報社会での影響と可能性を考えます。

■観光学分野の体系知識について学習する
 ・日本の観光政策、地域の観光行政の基礎を学び、国や地方が観光政策になぜ取り組むのかを理解します。
 ・国際的な観光と訪日観光の動向、訪日客の消費動向とそのもたらす経済効果について学びます。
 ・実績を挙げている観光地・地域の何が観光客を惹きつけているのか、また海外における日本人旅行者の行動パターンを把握し、現在、現地の観光資源の位置・特徴を把握します。また、日本人旅行者に人気の高い旅行先・国の地理について学び、基本的な知識を身に付けます。
 ・観光が観光地の社会や文化にどのような影響を与えているのか、また、世界遺産制度を概観するとともに、世界遺産に対する貢献とその対策について理解します。
 ・日本の地域およびヨーロッパやアジアの国々の暮らしや歴史・文化に理解を深め、文化観光資源の知識を習得し、観光まちづくりに活用できる素養を身に付けます。
 ・産業、人口、グローバル等の視点から地域経済の現状と諸課題を概観し、国や自治体による政策の流れと課題解決に向けた地域の取り組みについて理解します。

■観光産業分野の体系知識について学習する
 ・旅行ビジネスや交通ビジネスの歴史の変遷、現在の事業モデル、関連法令について基礎知識を習得します。
 ・旅行業法および種業旅行業約款をはじめとする規定について学びます。
 ・観光と経済のつながりについて、統計データを用いて理解します。
 ・ホテル、エアライン、レジャー、フライダル、各種ビジネスの基礎知識を習得します。
 ・優良なイベント・コンベンションを実現するために、企画・運営までのプロセスを理解します。
 ・観光における安全の大切さを理解し、リスクマネジメントの基礎知識と実際を習得します。

■政治・経済・社会・企業経営等に関連する知識を修得する
 知識を修得する経営学を学ぶ上で必要とされる経済学関係科目、企業における人間関係を理解し、コミュニケーション能力を修得します。
 ・観光地でのシーンや場所など、目的を絞り込んで学習することで、効果的に英会話を習得します。
 ・戦後の日本経済のキーワードを手掛かりに日本経済の現状について理解し、経済における法律の基本的な意義を理解します。
 ・アジア地域の経済事情および経営特徴について学習します。
 ・現在の働く環境を理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な知識と能力を身に付けます。

■自ら課題を発見し、課題を解決する能力を修得する
 グループ討議、事例研究、現地調査などの実践的な授業方法により、専門科目の各分野で学んだ知識と技能を基に、総合的な応用能力を修得するとともに、実務を行うための実践的手法を身に付けます。
 ・学期のテーマを決定し、資料収集をしながらグループ討議を行い、プレゼンテーション能力を向上させます。
 ・提示されたテーマについて、学修した手法を活用し調査研究をします。

■実践的に学習するシステムを構築する
 理論の内ならず具体的な実行力を伴った人材となるため、理論と実践の有機的な統合により、高度で得た知識を基に、経営活動の現場を概観し、現場で体験し、成果を報告します。
 ・観光産業のしくみを理解し、様々な具体事例について学びます。
 ・インターンシップを通じて職業に関する知識を修得し、キャリア形成に結びつけます。
 ・他国の社会や文化、宗教等を体験・学習することで、ビジネスのグローバル化に対応できるマナーや人権といった社会常識を身に付けます。
 ・国内の自治体、学校、組織において、本学学生が自主的かつ積極的ボランティア活動に参加し、地域社会への貢献を通してボランティアの心を得ます。
 ・質的研究法としてのフィールドワークの手法を学びながら地域の企業活動を調査研究します。

	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
観光経営学入門 ②								
会計学総論 ②								
経営学総論 ②								
観光学総論 ②								
観光産業総論 ②								
経営組織論 ②								
経営戦略論 ②								
国際経営論 ②								
簿記Ⅰ ②								
簿記Ⅱ ②								
財務会計論 ②								
会計データ分析Ⅰ ②								
ABビジネス論 ②								
イノベーション論 ②								
データ分析Ⅰ ②								
データ分析Ⅱ ②								
情報デザイン ②								
観光政策論 ②								
観光地理国内 ②								
観光地理海外 ②								
観光資源論 ②								
世界遺産研究 ②								
観光文化論 ②								
地域振興論 ②								
観光地経営論 ②								
交通ビジネス論 ②								
エアライン・ビジネス論 ②								
旅行ビジネス論 ②								
ホテル・ビジネス論 ②								
レジャーリゾート・ビジネス論 ②								
フライダル・ビジネス論 ②								
MICE産業論 ②								
観光マーケティング論 ②								
観光経済論 ②								
観光マーケティング ②								
観光マーケティング戦略 ②								
観光マーケティング ②								
国際マーケティング ②								
消費者行動論 ②								
広告論 ②								
観光経営専門演習Ⅰ ②								
観光経営専門演習Ⅱ ②								
観光経営専門演習Ⅲ ②								
観光経営専門演習Ⅳ ②								
卒業研究Ⅰ ②								
卒業研究Ⅱ ②								
観光経営実入門 ②								
観光経営実践Ⅰ ②								
観光経営実践Ⅱ ②								
プロジェクト実践Ⅰ(SLP) ②								
プロジェクト実践Ⅱ(SLDP) ②								
インターンシップ(事前・事後指導を含む) ②								
ボランティア研修 ②								
短期海外研修 ②								

◆ 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計		
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期			
基礎教育科目	学習力の養成	1 ●他者共生							2		
	思考力の養成	1 ●情報リテラシー	1 ●データリテラシー			1 ●問題解決法		1 ●創造思考法	4		
	表現力の養成	1 ●プレゼンテーション基礎Ⅰ(基礎)	1 ●プレゼンテーション基礎Ⅱ(応用)	1 ●プレゼンテーション実践(演習)					6		
	人間力の養成	1 ●表現技法Ⅰ(説明・分析)	1 ●表現技法Ⅱ(作文・論文)	1 ●地域活動と社会貢献	1 ●他者理解と信頼関係				4		
	社会力の養成	1 ●チームワーク・リーダーシップ		1 ●主体的・職業的自立Ⅰ	1 ●主体的・職業的自立Ⅱ				2		
	人間の理解	1 健康経営と身体活動	1 日本社会と歴史文化						3		
	社会の理解	1 健康社会とアータクサイエンス	1 スポーツと運動科学						3		
	国際の理解	1 国際社会と国際問題	1 福祉政策と福祉制度	1 経済構造と経済政策	1 国際平和と安全保障				3		
	基礎教育科目(小計)	10	8	4	3	0	1	0	1	27	
	専門教育科目	導入科目	1 ●カガミクラフクワイティングⅠ(経営演習基礎Ⅰ)	2 ●カガミクラフクワイティングⅡ(経営演習基礎Ⅱ)							5
基礎科目		2 ●観光経営学入門	2 ●経営学総論	2 ●観光産業総論	2					6	
経営学分野						2 人材開発論	2 中小企業論	2 経営戦略論	2	14	
展開科目						2 エコビジネス論	2 国際経営論	2 国際経営論	2 CSR論	2	
						2 簿記Ⅰ				4	
観光教育科目			2 ●観光資源論	2 ●観光地理国内	2 観光地理海外	2 世界遺産研究	2 ★観光地経営論	2 ★観光地経営論	2 ★観光政策論	2	20
				2 ●旅行ビジネス論	2 フライダル・ビジネス論	2 ★エアライン・ビジネス論	2 ★国際観光論	2 ★アタセンプル・ツーリズム論	2 ★地域振興論	2	
					2 交通ビジネス論	2 ★ホテル・ビジネス論	2 ★観光マーケティングⅠ	2 ★国際観光論	2 ★地域振興論	2	
						2 マーケティング戦略	2 ★観光マーケティングⅡ	2 ★観光マーケティングⅢ	2 ★観光マーケティングⅣ	2	
演習科目				2 ●観光経営専門演習Ⅰ	2 ●観光経営専門演習Ⅱ	2 ●観光経営専門演習Ⅲ	2 ●観光経営専門演習Ⅳ	2 ●観光経営専門演習Ⅴ	2 ●卒業研究Ⅰ	10	
実践科目		2 ●観光経営実践入門	2 短期海外研修	2 観光経営実践Ⅰ	2 観光経営実践Ⅱ	2 観光経営実践Ⅲ	2 観光経営実践Ⅳ	2 卒業研究Ⅱ	12		
専門教育科目(小計)	7	10	13	15	18	16	12	6	97		
合計	17	18	17	18	18	17	12	7	124		

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生更覧の該当箇所を確認すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期については入れ替わることあり、各年度当初に必ず確認してください。

【観光経営学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル

124 単位

★主要授業科目を青フォントで表記

学位：学士
(観光経営学)

12.人文学部

教育目的及び人材養成に係る目的を達成するための人材像

◆淑徳大学教育に関する規則(教育の基本方針)第2条

(7) 人文学部

ア 教育目的

人類が創出した言語による表現と人類が積み重ねてきた歴史を柱とする人間の所産に関する教育研究を通じて、幅広い基礎的な研究を展開することにより、新しい知識を創造するとともに、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を身に付ける。

イ 人材像

理論的な知識や能力を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考力や深い洞察に基づく主体的な行動力を身に付けて、社会に広く貢献できる人材

歴史学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び歴史学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 歴史学分野における知識・技能・態度】

歴史学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域社会・国際社会などさまざまな場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1) 歴史学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2) 歴史分野における体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

歴史学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

①大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

②「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 歴史の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の体系的修得に加えて、それらを実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」では、歴史分野の基本的思考様式と基礎知識を理解し、調査研究における基礎知識と技法の修得を教育内容とする。

②「基幹科目」では、日本史・東洋史に関する知識・技能・態度の育成を教育内容とする。

③「展開科目」では、歴史の体系全般について、日本史・東洋史の2分野における知識と技能の修得を教育内容とする。

④「演習科目」及び「関連科目」では、歴史分野での課題学修を総合的に行うとともに、歴史学に隣接する分野に関する知識の修得を教育内容とする。

⑤教員免許あるいは学芸員資格取得に係る科目は、別途に配置する。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1) 「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2) 「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス（授業計画）には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「歴史専門演習Ⅶ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5)学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6)専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

歴史学科は、入学者の受入れの方針(アドミッション・ポリシー)として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

- ・高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。
- ・歴史あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを社会で生かす意欲を有している。
- ・本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。
- ・免許・資格の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。
- ・自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

歴史学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1)高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2)高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3)小論文
- (4)面接
- (5)プレゼンテーション

(6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

歴史学科における学修への円滑な移行が可能になるよう、次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- ・「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・歴史を中心に幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲を持っている。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 歴史学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2)情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<歴史学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び歴史学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 歴史学分野における知識・技能・態度】

歴史学に関する考え方及び基礎知識・技能を体系的に理解し、地域社会・国際社会などさまざまな場で活用する技能・能力を身に付けている。

- (1)歴史学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2)歴史学分野における体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目			
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2				
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前※集中	1	講義・演習	●																		
	利他共生	1前	1	講義	●																		
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●											◎						★	
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●										◎						★	
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○									◎							
	問題解決法	3後	1	講義・演習						●							◎						
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●				◎	◎	◎	◎	◎			★
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●										◎							★	
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●									◎							★	
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●								◎							★	
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○							◎								
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●										◎								
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●									◎								
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●								◎								
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○							◎								
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○						◎								
人間力の養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●											◎							
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●										◎							
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●									◎						★	
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●								◎							
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●									◎						★	
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●								◎						★	
人間の理解	人間心理と人間行動	1前～	1	講義・演習	○		○		○		○						◎						
	現代家族と育児介護	1前～	1	講義			○		○		○						◎						
	健康管理と身体活動	1前～	1	講義・実技	○		○		○		○						◎						
	スポーツと運動科学	1前～	1	講義・演習		○		○		○		○					◎						

	日本史演習Ⅲ(近世)	3前	2	演習				○	○										◎		
	近代史演習	3前	2	演習				○	○										◎		
	現代史演習	3前	2	演習				○	○										◎		
	東洋史演習Ⅰ(東アジア)	3前	2	演習				○	○										◎		
	東洋史演習Ⅱ(内陸アジア)	3前	2	演習				○	○										◎		
	東洋史演習Ⅲ(海域アジア)	3前	2	演習				○	○										◎		
	日本美術史	3・4後	2	講義					○	○									◎		
	日本思想史	3・4後	2	講義					○	○									◎		
	民俗学概論	4前	2	講義						○									◎		
	仏教史概論	3後	2	講義						○									◎		
	仏教文化史	2・3・4前	2	講義			○		○	○									◎		
	日本宗教史	2・3・4後	2	講義				○		○	○								◎		
	日本地域史	2・3・4前	2	講義				○		○	○								◎		
	日本女性史	2・3・4後	2	講義					○		○	○							◎		
	考古学概論	2・3・4前	2	講義				○		○	○								◎		
	日本考古学	3・4後	2	講義						○	○								◎		
	考古学実習	3・4後	2	実習						○	○								◎		
	東洋美術史	3・4前	2	講義						○	○								◎		
	東洋思想史	3・4後	2	講義						○	○								◎		
	歴史フィールド実習	2前	1	実習				○		○	○								◎	★	
関連科目	人文地理学	3・4前	2	講義					○	○									◎		
	自然地理学	3・4前	2	講義						○	○								◎		
	地誌学	3・4後	2	講義							○	○							◎		
	社会学概論	2・3・4後	2	講義					○		○	○							◎		
	法律学概論	2・3・4後	2	講義						○		○	○						◎		
	宗教学概論	3・4前	2	講義							○		○						◎		
	教職概論	1前	2	講義	○		○		○		○									◎	
	教育原理	1前	2	講義	○		○		○		○									◎	
	教育心理学	1後	2	講義		○		○		○		○								◎	
	発達心理学	2後	2	講義						○		○	○							◎	
	教育行政学	1後	2	講義		○		○		○		○								◎	
	教育課程論	2後	2	講義						○		○	○							◎	
	特別支援教育の理解と方法	2後	1	講義						○		○	○							◎	
	社会科教育法Ⅰ	3前	4	講義							○		○							◎	
	社会科教育法Ⅱ	3後	4	講義								○		○						◎	
	地理歴史科教育法	3前	4	講義							○		○							◎	
	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	2後	2	講義							○		○	○						◎	
	道徳の指導法	2前	2	講義						○		○	○							◎	
	総合的な学習の時間の指導法	2前	2	講義						○		○	○							◎	
	特別活動の指導法	3後	2	講義								○		○						◎	

	生徒・進路指導の理論と方法	3 後	2	講義						○	○									◎
	教育相談の理論と方法	3 前	2	講義					○	○										◎
	教育実習事前事後指導	4 前	1	演習							○									◎
	教育実習(中・高)	4 前	4	実習							○									◎
	教育実習(高)	4 前	2	実習							○									◎
	教職実践演習(中・高)	4 後	2	演習								○								◎
	日本国憲法	2 前	2	講義			○		○		○									◎
	生涯学習概論	1 後	2	講義		○		○		○	○									◎
	博物館概論	1 後	2	講義		○		○		○	○									◎
	博物館経営論	3 後	2	講義							○	○								◎
	博物館資料論	2 前	2	講義			○		○		○									◎
	博物館資料保存論	2 後	2	講義				○		○	○									◎
	博物館展示論	3 前	2	講義					○		○									◎
	博物館教育論	2 後	2	講義				○		○	○									◎
	博物館情報・メディア論	3 前	2	講義					○		○									◎
	博物館実習	4 前	3	実習							○									◎
演習科目	歴史専門演習Ⅰ	1 後	1	演習		●													◎	★
	歴史専門演習Ⅱ	2 前	1	演習			●												◎	★
	歴史専門演習Ⅲ	2 後	1	演習				●											◎	★
	歴史専門演習Ⅳ	3 前	1	演習					●										◎	★
	歴史専門演習Ⅴ	3 後	1	演習						●									◎	★
	歴史専門演習Ⅵ	4 前	1	演習								●							◎	★
	歴史専門演習Ⅶ	4 後	1	演習									●						◎	★

※ ★それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

歴史学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

科目群の学習目標・到達目標	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
歴史学の概念及び存在意義について学ぶ ・歴史学の基本的な思考様式と知識が増進できている。 ・歴史学の学問の体系と存在意義が理解できている。	歴史学入門 ②	歴史学概論 ②						
歴史学に関する専門知識の習得のために必要とされる調査方法・研究方法を学ぶ ・歴史学研究の前提となる文献収集のスキルが身に付いている。 ・歴史学研究の前提となる参考文献のまとめ方が身に付いている。 ・歴史学研究の基礎である史料の読解解題のスキルが身に付いている。	歴史学概論 ②	歴史学概論 ②	歴史学概論 ②					
日本・アジア・ヨーロッパの各地域の大きな歴史の流れを学ぶ ・東洋史全体の流れについて、各地域・各時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・西洋史全体の流れについて、各地域・各時代の特色を踏まえながら理解できる。		日本史概論 ④ 東洋史概論 ④ 西洋史概論 ④						
日本の歴史を時代区分によって学ぶ ・日本古代史の歴史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本中世史の歴史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本近世史の歴史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本とアジアにおける近代史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・日本とアジアにおける現代史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。			日本古代史 ② 日本中世史 ② 日本近世史 ② 近代史 ② 現代史 ②					
日本の各時代について、特定のテーマを数値しより研究学ぶ ・日本古代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本中世史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本近世史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本とアジアの近代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・日本とアジアの現代史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。			日本史研究Ⅰ(古代)② 日本史研究Ⅱ(中世)② 日本史研究Ⅲ(近世)② 近代史研究 ② 現代史研究 ②					
日本史の史料的読解を通して現代ごとの歴史的な事実を学ぶ ・日本史の史料的読解を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。 ・日本中世史の史料的読解を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。 ・日本近世史の史料的読解を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。 ・日本とアジアの近代史の史料的読解を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。 ・日本とアジアの現代史の史料的読解を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。			東洋史Ⅰ(東アジア)② 東洋史Ⅱ(内陸アジア)② 東洋史Ⅲ(海境アジア)②			日本史演習Ⅰ(古代)② 日本史演習Ⅱ(中世)② 日本史演習Ⅲ(近世)② 近代史演習 ② 現代史演習 ②		
アジアの歴史を地域区分によって学ぶ ・東アジア史全体の歴史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・内陸アジア史全体の歴史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。 ・海境アジア史全体の歴史の流れについて、画期的な時代の特色を踏まえながら理解できる。			東洋史研究Ⅰ(東アジア)② 東洋史研究Ⅱ(内陸アジア)② 東洋史研究Ⅲ(海境アジア)②					
アジアの各地域の歴史について、特定のテーマを数値しより研究学ぶ ・東アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・内陸アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。 ・海境アジア史のうちで、担当教員の選んだ研究テーマの意義を理解することができる。			東洋史演習Ⅰ(東アジア)② 東洋史演習Ⅱ(内陸アジア)② 東洋史演習Ⅲ(海境アジア)②					
東洋史の史料的読解を通して各地域の歴史的な事実を学ぶ ・東アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。 ・内陸アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。 ・海境アジア史研究を行う上で必要不可欠な文献史料の読解方法が身に付いている。			東洋史演習Ⅰ(東アジア)② 東洋史演習Ⅱ(内陸アジア)② 東洋史演習Ⅲ(海境アジア)②					
文化・生活・宗教・思想などの歴史について、文書史料以外の資料を用いながら学ぶ ・文化・生活・宗教・思想などの歴史について、政治・社会・経済・対外関係などの歴史との関わりを通して理解することができる。 ・文書史料以外の資料を援用して各地域・各時代の歴史像を総合的に理解することができる。			仏教文化史 ② 日本宗教史 ② 日本地域史 ② 日本女性史 ② 仏教史概論 ②			日本美術史 ② 日本思想史 ② 東洋思想史 ②		
歴史学と深い関係にある隣接分野の研究を学ぶことで、歴史学を広い視野から見つめる ・歴史学と隣接する隣接分野の研究成果を援用して、各地域・各時代の歴史像を総合的に理解することができる。			考古学概論 ② 社会学概論 ② 法律学概論 ②			民俗学概論 ② 地誌学 ② 人文地理学 ② 自然地理学 ②		民俗学概論 ②
様々な地域・分野の歴史研究をとおう上で不可欠な基礎的調査方法について学ぶ ・現地において資料や情報の収集を行うことができるスキルが身に付いている。 ・調査結果にもとづき文脈読解や資料分析ができる能力が身に付いている。		歴史専門演習Ⅰ①	歴史フィールド実習① 歴史専門演習Ⅰ① 歴史専門演習Ⅱ①					
歴史学を自身の研究課題に關した研究計画を立案し、史料の収集・分析・報告のプロセスを経て研究を完成させる ・歴史学の分野において、自らを立てた課題の解決に向け、今までに学んだ知識・技能を組み合わせて課題を解決することができる。						歴史専門演習Ⅲ① 歴史専門演習Ⅳ① 歴史専門演習Ⅴ① 歴史専門演習Ⅵ①		
教職に必要な基礎的知識を学ぶ ・教職教養の基となる基礎的知識について、教育学及び心理学の知見を踏まえながら理解できる。	教育概論 ② 教育行政学 ② 教育原理 ② 教育心理学②							
社会科及び地理歴史史の指導法を研究する ・社会科及び地理歴史史の指導法を研究できる。			社会科教育法② 社会科教育法② 地理歴史科教育法② 地理歴史科教育法② 道徳の指導法②			社会科教育法Ⅰ④ 社会科教育法Ⅱ④ 地理歴史科教育法④ 地理歴史科教育法④		
教育実践における基本的な知識と技能を修得する。 ・教職として教育実践を遂行する基本的な知識と技能を理解し、修得している。						教育相談の理論と方法② 教育課程論② 社会科教育法Ⅰ④ 特別活動の指導法② 地理歴史科教育法④ 社会科教育法Ⅱ④ 社会科教育法Ⅰ④ 社会科教育法Ⅱ④		教育実習事前事後指導① 教職実践演習② 教育実習人(中・高)④ 教育実習人(高等学校)④
専門職員養成教育において体系的な知識・技能を学ぶ ・博物館及び生涯学習社会の基礎的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・博物館における資料の収集保管の実践的知識について博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・博物館における教育・展示の実践的知識について博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・博物館におけるマネジメントの実践的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。 ・学芸員業務を遂行する際の実践的知識について、博物館の機能を踏まえながら理解できる。		生涯学習概論 ② 博物館概論 ②	博物館資料論② 博物館資料保存論② 博物館教育論②			博物館展示論② 博物館情報メディア論② 博物館経営論②		博物館実習③

◆ 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎教育科目	学習力の養成 <small>●他共生</small>	1							2	
	思考力の養成 ★情報リテラシー	1	★アートリテラシー	1					2	
	表現力の養成 <small>●表現技法Ⅰ(理解・分析)</small>	1	●表現技法Ⅱ(発表・討論)	1					2	
	人間力の養成 ●自己管理と社会規範	1	●チームワークとリーダーシップ	1					2	
	社会力の養成 健康・管理と身体運動 人間心理と人間行動	1	日本社会と歴史文化	1					2	
教育科目	職業社会とキャリア・ライセン ス	1	経済構造と経済政策	1					2	
	法律社会と法律問題	1							2	
社会科学	国際社会と国際問題	1	地球環境と環境対策	1					2	
	世界動向と国際貢献	1							2	
基礎教育科目(小計)	12	7	4	3	0	1	0	1	28	
基礎科目	★歴史学入門	2	★歴史比較法	2						10
	★歴史調査法	2	★歴史研究法	2						10
基礎科目	★歴史学概論	2	日本古代史	4	近代史					28
			日本中世史	4	現代史					28
専門教育科目			東洋史概論	4	西洋史概論	4				28
			東洋史概論	4	日本近代史	2	東洋史Ⅱ(内陸アジア)	2	東洋史Ⅲ(海峽アジア)	2
専門教育科目			★歴史フイールド実習Ⅰ	1	★歴史フイールド実習Ⅱ	1	★歴史フイールド実習Ⅲ	1	★歴史フイールド実習Ⅳ	1
			★歴史フイールド実習Ⅱ	1	★歴史フイールド実習Ⅲ	1	★歴史フイールド実習Ⅳ	1	★歴史フイールド実習Ⅴ	1
専門教育科目			★歴史フイールド実習Ⅲ	1	★歴史フイールド実習Ⅳ	1	★歴史フイールド実習Ⅴ	1	★歴史フイールド実習Ⅵ	1
			★歴史フイールド実習Ⅳ	1	★歴史フイールド実習Ⅴ	1	★歴史フイールド実習Ⅵ	1	★歴史フイールド実習Ⅶ	1
専門教育科目(小計)	6	11	14	15	17	17	11	11	5	96
合計	18	18	18	18	17	18	11	11	6	124

※科目名の頭に「●がついている科目は卒業要件必修科目」、その他科目は選択科目である(ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を参照すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。

学位：学士
(文学)

★主要履修科目を青フォントで表記

124 単位

【歴史学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル

表現学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び表現分野における知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 表現分野における知識・技能・態度】

表現の基礎理論について理解し、文芸表現、編集表現、放送表現に関する専門的知識を修得した上で、独創性、創造性に富む表現技法を身に付け、職業人としてそれらを活用する態度を有している。

- (1) 表現の学問分野における基礎理論を理解し、言語に関する知識や創造的な表現技法を身に付けている。
- (2) 文芸表現、編集表現、放送表現などに関する専門的な知識と能力を修得し、それらをもって地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

表現学科では、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

- (1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。
 - ① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。
 - ② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。
 - ③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。
 - ④ 社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。
 - ⑤ 社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2) 表現の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の体系的修得に加えて、それらを実践に応用しうる知識・技能・態度の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」では、表現の学問分野における基礎理論を理解し、言語に関する知識や創造的な表現技法を修得する教育内容とする。

②「基幹科目」では、文芸表現、編集表現、放送表現の3分野における知識と能力の基盤を育成する教育内容とする。

③「展開科目」では、文芸表現(文芸表現、創作表現)、編集表現(視覚表現、制作表現)、放送表現(放送表現、映像表現)の3分野における実践的な知識と技能の修得を教育内容とする。

④「関連科目」では、表現分野に関連するメディアの歴史的変遷と社会に与える影響に関する知識の修得を教育内容とする。

⑤「演習科目」では、表現分野における実践的な調査方法や分析手法を身に付け、研究課題や創作テーマを設定したうえで、知識・技能を総合的に組み合わせた演習を行う。

(3) 科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1)「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3) 授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5) 学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6) 学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1) 学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2) 学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3) 学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「表現文化専門演習Ⅶ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

表現学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識・能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

- ・高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。
- ・表現あるいはそれに関連する分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。
- ・本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。
- ・自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に進んで取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

表現学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

表現学科における学修への円滑な移行が可能になるよう次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- ・「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・表現に係る幅広い分野に興味・関心を持ち、また高い学習への意欲を持っている。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 表現学科科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2)情報リテラシーや数論的スキルを修得している。
- (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】

- (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
- (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<表現学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び表現分野における知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 表現分野における知識・技能・態度】

表現の基礎理論について理解し、文芸表現、編集表現、放送表現に関する専門的知識を修得した上で、独創性、創造性に富む表現技法を身に付け、職業人としてそれらを活用する態度を有している。

- (1)表現の学問分野における基礎理論を理解し、言語に関する知識や創造的な表現技法を身に付けている。
- (2)文芸表現、編集表現、放送表現などに関する専門的な知識と能力を修得し、それらをもって地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2		主要授業科目		
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2			
学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前※集中	1	講義・演習	●																	
	利他共生	1前	1	講義	●																	
思考力の養成	情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●											◎						★
	データリテラシー	1後	1	講義・演習		●										◎						★
	統計分析法	2前	1	講義・演習			○									◎						
	問題解決法	3後	1	講義・演習						●							◎					
	創造思考法	4後	1	講義・演習								●				◎	◎	◎	◎	◎		
表現力の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●										◎							★
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●									◎							★
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●								◎							★
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○							◎							
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●										◎							
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●									◎							
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●								◎							
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○							◎							
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○						◎							
人間力の養成	自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●											◎						
	チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●										◎						
	地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●									◎						★
	他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●								◎						
社会力の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●									◎						★
	社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●								◎						★
人間の理解	人間心理と人間行動	1前～	1	講義・演習	○		○		○		○						◎					
	現代家族と育児介護	1前～	1	講義			○		○		○						◎					
	健康管理と身体活動	1前～	1	講義・実技	○		○		○		○						◎					

展開科目	表現文化研究Ⅰ(文芸表現)	2 後	4	演習				○														◎											
	表現文化研究Ⅱ(文芸表現)	2 後	4	演習				○															◎										
	表現文化研究Ⅲ(文芸表現)	3 前	4	演習					○															◎									
	表現文化研究Ⅳ(文芸表現)	3 前	4	演習					○																◎								
	表現文化研究Ⅴ(創作表現)	3 前	4	演習					○																	◎							
	表現文化研究Ⅵ(創作表現)	3 後	4	演習						○																	◎						
	表現文化研究Ⅶ(創作表現)	3 後	4	演習						○																		◎					
	表現文化研究Ⅷ(創作表現)	4 前	4	演習							○																		◎				
	表現文化研究Ⅰ(視覚表現)	2 後	4	演習					○																				◎				
	表現文化研究Ⅱ(視覚表現)	2 後	4	演習					○																					◎			
	表現文化研究Ⅲ(視覚表現)	3 前	4	演習						○																				◎			
	表現文化研究Ⅳ(視覚表現)	3 前	4	演習						○																				◎			
	表現文化研究Ⅴ(制作表現)	3 前	4	演習						○																					◎		
	表現文化研究Ⅵ(制作表現)	3 後	4	演習							○																				◎		
	表現文化研究Ⅶ(制作表現)	3 後	4	演習							○																				◎		
	表現文化研究Ⅷ(制作表現)	4 前	4	演習								○																			◎		
	表現文化研究Ⅰ(放送表現)	2 後	4	演習						○																					◎		
	表現文化研究Ⅱ(放送表現)	2 後	4	演習						○																					◎		
	表現文化研究Ⅲ(放送表現)	3 前	4	演習							○																				◎		
	表現文化研究Ⅳ(放送表現)	3 前	4	演習							○																				◎		
	表現文化研究Ⅴ(映像表現)	3 前	4	演習							○																				◎		
	表現文化研究Ⅵ(映像表現)	3 後	4	演習								○																			◎		
	表現文化研究Ⅶ(映像表現)	3 後	4	演習								○																			◎		
	表現文化研究Ⅷ(映像表現)	4 前	4	演習									○																		◎		
関連科目	編集文化論	2・3 前	2	講義				○		○																				◎			
	出版文化論	2・3 後	2	講義					○		○																				◎		
	放送文化論	2・3 後	2	講義						○		○																			◎		
	映像文化論	2・3 前	2	講義					○		○																				◎		
	雑誌文化論	2・3 後	2	講義						○		○																			◎		
	広告文化論	3・4 後	2	講義								○		○																	◎		
	新聞文化論	3・4 前	2	講義							○		○																		◎		
	報道文化論	3・4 後	2	講義								○		○																	◎		
	メディア産業論	3・4 後	2	講義									○		○																◎		
演習科目	表現文化専門演習Ⅰ	1 後	1	演習		●																								◎		★	
	表現文化専門演習Ⅱ	2 前	1	演習			●																								◎		★
	表現文化専門演習Ⅲ	2 後	1	演習				●																							◎		★
	表現文化専門演習Ⅳ	3 前	1	演習					●																						◎		★
	表現文化専門演習Ⅴ	3 後	1	演習						●																					◎		★
	表現文化専門演習Ⅵ	4 前	1	演習							●																				◎		★
	表現文化専門演習Ⅶ	4 後	1	演習								●																			◎		★

※★それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

◆履修体系図（専門科目）

表現学科 専門教育科目 体系図

※青字記載科目は主要授業科目

科目別の学習目標・到達目標

<p>■表現の基礎と創作の基礎について理解する 表現学科の学習分野について理解し、4年間の学習目標を明確にします。</p>	表現文化入門 ②
<p>■表現の基礎となる「言語」の体系について学ぶ ・日本語における言語表現の多様性を理解した上で、自分の意見を効果的に伝える口頭表現について考察します。 ・言語学の歴史を理解した上で、日本語の本質や構造、特長について理解します。 ・言語を社会との関わりで捉え、様々な社会的要因や属性がいかに影響を受けるかを考察します。</p>	言語表現論 ②
<p>■さまざまな分野の「創作表現」の理論や表現手段を学ぶ ・口承文芸から文字表現へ、文芸形式の変遷を理解すると同時に、文学作品を分析・批評する手法を学びます。 ・文章表現の基礎を理解し、正確な文章、心を動かす文章の記述や表現方法を学びます。 ・修辭学や詩学など文芸的な著述の規範について学び、古典から現代へいかに受け継がれているかを考察します。 ・デジタル技術の発展により、表現手法やメディアがいかに変化を遂げているかを考察します。 ・表現したいイメージを身体でいかに表現するか、理論と実践で学びます。</p>	創作表現論 ② 文章表現論 ②
<p>■演習形式で「文章表現」と「創作表現」の基礎を学ぶ ・演習形式の授業により、創作のための文章表現の基礎的な知識と技能を身につけます。 ・演習形式の演技の授業により、言語表現と身体表現の連動、さらにはチームワークを生かしての創作表現を学びます。</p>	創作表現技法Ⅰ(文章)④ 創作表現技法Ⅱ(文章)④ 創作表現技法Ⅰ(演技)④ 創作表現技法Ⅱ(演技)④
<p>■文章表現の基礎を学ぶ ・名作や人気小説中の描写を題材に、心理描写、人物描写、情景描写などの技法を学び、短文の創作を行います。 ・テーマ設定やプロット作成など、小説を書くうえで基本的な流れに沿って短編小説を完成させ、実践的な技法を学びます。 ・文学作品の論評と評価に関する基礎的な知識と方法を学び、作品を多角的に鑑賞・論考する力を身につけます。 ・書籍・雑誌・Webなどの原稿書式やタイトルの付け方について学び、媒体や企画に応じた適切な原稿制作に取り組みます。</p>	文章表現論Ⅰ(創作の表現)② 文章表現論Ⅱ(小説の技法)② 文章表現論Ⅲ(論評と評価)② 文章表現研究Ⅳ(執筆の技法)②
<p>■文章表現の完成度を高めるための知識や技術を演習を通して習得する ・日本の古典文学から現代社会を捉え、時代を超える普遍的なテーマについて思索を深めます。 ・多様なノンフィクション作品を題材に、社会・時代・人間の変化について洞察します。 ・海外文学作品を読み、作品が書かれた背景や多様な国・文化の理解を深めます。 ・日常の中の小さなドラマに注目し、歌詞、ミニドラマ、エッセイなど複数の表現形態による創作に取り組みます。 ・場所や人を軸にしたテーマを設定し、情報収集や取材を重ねたうえで、事実にもとづく取材記事を完成させます。 ・「書」の仕事の実態や文芸ジャンルの現状について理解を深めながら、執筆した作品の発表と講評を行い、文章創作を実践的に学びます。</p>	表現文化研究Ⅰ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅱ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅲ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅳ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅴ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅵ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅶ(文章表現)④ 表現文化研究Ⅷ(文章表現)④
<p>■編集媒体やWebメディアにおける編集表現と広告表現の基礎を学ぶ ・編集の基本となる企画の立て方、デザインの基礎知識を身につけます。 ・ホームページやソーシャルメディアなどインターネット編集の基礎理論と最新動向を学びます。 ・広告におけるコミュニケーションデザインの理論、ならびに広告クリエイティブの基礎知識を身につけます。 ・書籍、雑誌、Webメディアの出版を、編集の視点、また出版ビジネスの視点から学びます。</p>	編集文化研究Ⅰ(文字と図像)② 編集文化研究Ⅱ(視覚と伝達)② 編集文化研究Ⅲ(広告の技法)② 編集文化研究Ⅳ(出版の技法)②
<p>■編集媒体やWebメディアの編集表現、広告表現について演習を通して習得する ・各メディアの特性と視覚効果について理解を深め、記事や広告の制作に取り組みます。 ・エディトリアルデザインやWebサイト制作について、演習を通して学びます。 ・出版物やデジタルコンテンツの企画・制作の流れを理解したうえで、実践的な演習を通して編集力を身につけます。</p>	表現文化研究Ⅰ(視覚表現)④ 表現文化研究Ⅱ(視覚表現)④ 表現文化研究Ⅲ(視覚表現)④ 表現文化研究Ⅳ(視覚表現)④ 表現文化研究Ⅴ(制作表現)④ 表現文化研究Ⅵ(制作表現)④ 表現文化研究Ⅶ(制作表現)④ 表現文化研究Ⅷ(制作表現)④
<p>■音声による表現、また放送番組づくりの基礎を学ぶ ・分かりやすく正しい日本語の発音技術を身につけ、ニュース原稿を読み取り、自分の言葉で実況レポートしたりする基礎を学びます。 ・番組がどのように制作されるかを学び、映像表現の基本を身につけます。</p>	放送文化研究Ⅰ(発音の技術)② 放送文化研究Ⅱ(文章を聴く)② 放送文化研究Ⅲ(発音で話す)② 放送文化研究Ⅳ(映像の技法)②
<p>■番組制作、SNS動画、音声表現を演習を通して習得する ・情報素材を集めてポイントを見極め、映像表現や音声表現によって伝える理論と技術を学びます。 ・番組制作の企画から制作まで、演習を通して知識と技術を学びます。</p>	表現文化研究Ⅰ(放送表現)④ 表現文化研究Ⅱ(放送表現)④ 表現文化研究Ⅲ(放送表現)④ 表現文化研究Ⅳ(放送表現)④ 表現文化研究Ⅴ(映像表現)④ 表現文化研究Ⅵ(映像表現)④ 表現文化研究Ⅶ(映像表現)④ 表現文化研究Ⅷ(映像表現)④
<p>■メディアの歴史的変遷と社会にもたらした影響を学ぶ ・新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、Webメディア、SNSなど、各メディアの歴史的変遷と文化的意義、また社会にもたらした影響力と社会的責任を講義形式で学びます。</p>	編集文化論 ② 放送文化論 ② 雑誌文化論 ② 出版文化論 ② 放送文化論 ② 放送文化論 ② 放送文化論 ② 新聞文化論 ② 広告文化論 ② 放送文化論 ② 放送文化論 ② 放送文化論 ② メディア産業論 ②
<p>■専門分野における実践的な調査方法や分析手法を身につける ・表現分野の研究における文献調査、資料分析、現地調査などの方法について実践的に学び、研究活動能力の向上を目指す。</p>	表現文化専門演習Ⅰ ①
<p>■研究課題を設定し、創造的かつ意欲のある研究成果として発表する ・表現学分野において、グループや個人で研究課題や創作テーマを設定し、今までに学んだ知識・技能を組み合わせた演習を行います。 ・専門課程で学んだことの実践となる研究課題を各自が設定し、卒業研究(論文もしくは制作)に取り組みます。</p>	表現文化専門演習Ⅰ ① 表現文化専門演習Ⅱ ① 表現文化専門演習Ⅲ ① 表現文化専門演習Ⅳ ① 表現文化専門演習Ⅴ ① 表現文化専門演習Ⅵ ① 表現文化専門演習Ⅶ ① 表現文化専門演習Ⅷ ①

◆ 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
【表現学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル	★主要授業科目を青フォントで表記									
学位：学士 (文学)										
学習力の養成	● 情報リテラシー 1	● 他者共生 1								2
思考力の養成	● 情報リテラシー 1	★ データリテラシー 1				● 問題解決法 1			★ 創造思考法 1	1
表現力の養成	● 表現技法Ⅰ (基礎・分析) 1	● 表現技法Ⅱ (応用) 1	● 表現技法Ⅲ (発展・応用) 1	● 表現技法Ⅳ (実践・評価) 1						6
人間力の養成	● 自己管理と社会規範 1	● 社会活動と社会連携 1	● 他者理解と信頼関係 1							4
社会力の養成	● 表現技法Ⅰ (基礎・分析) 1	● 社会活動と社会連携 1	● 社会活動と社会連携 1	● 社会的・職業的自立Ⅰ 1	● 社会的・職業的自立Ⅱ 1					2
人間の理解			人間心理と人間行動 1		日本社会と歴史文化 1			現代家族と育児介護 1		3
社会の理解			経済構造と経済政策 1		日本国家と政治行政 1		福祉政策と福祉制度 1			3
国際の理解			世界宗教と民族問題 1		国際平和と安全保障 1		国際関係と日本外交 1			3
基礎教育科目 (小計)	6	5	5	5	1	3	1	1	1	27
基礎科目	★ 表現文化入門 2	● 言語表現論 2	● 言語概論 2	● 社会言語学 2						30
	● 創作表現論 2	● 文章表現論 2	● 文章表現論 2							
	● 創作表現技法Ⅰ (文章) 4	● 創作表現技法Ⅱ (文章) 4	● 創作表現技法Ⅲ (文章) 4							
	● 創作表現技法Ⅳ (演技) 4	● 創作表現技法Ⅴ (演技) 4	● 創作表現技法Ⅵ (演技) 4							
専門教育科目			文章作品研究Ⅰ (創作の表現) 2	文章作品研究Ⅱ (小稿の表現) 2	文章作品研究Ⅲ (論評と評価) 2	文章作品研究Ⅳ (広帯の技法) 2	文章作品研究Ⅴ (執筆の技法) 2			10
			文章作品研究Ⅵ (小稿の表現) 2	文章作品研究Ⅶ (論評と評価) 2	文章作品研究Ⅷ (広帯の技法) 2	文章作品研究Ⅷ (執筆の技法) 2	文章作品研究Ⅸ (執筆の技法) 2			
展開科目			表現文化研究Ⅰ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅱ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅲ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅳ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅴ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅵ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅶ (文章表現) 4	32
			表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	表現文化研究Ⅷ (文章表現) 4	
関連科目			編集文化論 2	新聞文化論 2	編集文化論 2	新聞文化論 2	出版文化論 2	映像文化論 2	放送文化論 2	18
			メディア産業論 2	雑誌文化論 2	雑誌文化論 2	雑誌文化論 2	雑誌文化論 2	雑誌文化論 2	雑誌文化論 2	
演習科目			★ 表現文化専門演習Ⅰ 1	★ 表現文化専門演習Ⅱ 1	★ 表現文化専門演習Ⅲ 1	★ 表現文化専門演習Ⅳ 1	★ 表現文化専門演習Ⅴ 1	★ 表現文化専門演習Ⅵ 1	★ 表現文化専門演習Ⅶ 1	7
専門教育科目 (小計)	12	13	13	13	17	15	7	7	7	97
合計	18	18	18	18	18	18	8	8	8	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である (ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること)。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りには実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもありまので、各年度当初に必ず確認してください。

人間科学科

◆三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び人間科学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- (1) 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
- (2) 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
- (3) 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
- (4) 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
- (5) 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 人間科学分野における知識・技能・態度】

人間科学における心理・福祉・健康・教育などの学問領域から人間について多角的・総合的に理解し、さまざまな場で活用し人と社会を支えることができる理論的かつ実践的な知識、技能、態度を身に付けている。

- (1) 人間科学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、人間尊重の態度を重視しながら現実社会の多様な場で積極的に活用する技能を修得している。
- (2) 人間が心身ともに健康的な生活を営むための実践的な支援を実現するために、心理学、社会福祉学、健康科学及び教育学に関する幅広い知識をもって、地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。
- (3) 自己理解、他者理解、人間関係形成についての基本的な知識と技能を理解し、他者と協力・協調・協働しあう能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法及び教育評価の3つの観点から定める。

【1 教育課程の編成・教育内容】

(1) 社会の構成員として、これからの社会を生き抜くために求められる基本的な力を「基本的知識・技能・態度」として修得するために、以下の編成からなる「全学共通の基礎教育科目」を置く。

① 大学での学びの目的、そして本学で学ぶ意義を理解する観点から、「基礎教育科目」の中に「初年次セミナー（学習の目的と技術）」と「利他共生（本学で学ぶことの意義）」を初年次の必修科目として置き、「学習力の養成」を図る。

② 「情報リテラシー」及び「データリテラシー」を通じて「思考力の養成」を図り、主体的に問題を発見し、その解決に必要な情報収集や分析・整理の能力を育成するとともに、獲得してきた知識・技能・態度などを総合的に活用する実践的な能力の養成に努める。

③ 社会の構成員としての「表現力の養成」のために、「コミュニケーション英語」および「表現技法」を配置する。コミュニケーション英語は基本的な英語の運用能力の獲得を目指す。また表現技法は日本語コミュニケーションの運用能力を身に付け、発表・討論、プレゼンテーション等の多角的な能力の養成を目指す。

④社会の構成員としての「人間力の養成」と「社会力の養成」について、社会性の涵養と将来への目的意識の醸成を目的に、「自己管理と社会規範」、「チームワークとリーダーシップ」、「地域活動と社会貢献」、「他者理解と信頼関係」、さらに「社会的・職業的自立」を配置する。

⑤社会人としての幅広い知識を獲得するために、「人間の理解」「社会の理解」「国際の理解」の科目を置く。

(2)人間科学の主要分野における基礎・基本となる知識・技能及びより深い専門性の修得に加えて、理論的知識や技能を実践に応用しうる知識・技能・資質の修得のため、「専門教育科目」を置く。

①「基礎科目」及び「基幹科目」では、人間科学領域における心理学、社会福祉学、健康科学、教育学において基盤となる各学問の基礎知識を理解し、各学問の意義及び人間の捉え方を修得する教育内容とする。

②「展開科目」では、人間を理解する上で重要な視点である仏教・哲学系、臨床心理・発達心理・社会心理といった心理学系、高齢者や障がい者を取り巻く環境や他者を支援するための援助論といった福祉学系、運動・食事と健康の関連性や身体メカニズムといった健康科学系、子どもを取り巻く学校や家庭環境、人間の発達といった教育学系を置き、専門性の高い知識と技能、倫理観の修得を教育内容とする。

③「演習科目」及び「実践科目」では、課題を発見し解決する能力を高めるためのグループ討議や、幅広いフィールドでの観察・体験により、理論の実践への適用や持続可能な人間の幸福を探求するための教育内容とする。

(3)科目の体系及び各科目において身に付けるべき知識・技能・態度を明示するため、「基礎教育科目体系図」及び「専門教育科目体系図」を作成する。

【2 教育方法】

(1)「基礎教育科目」では、4年間を通じて、社会の構成員として求められる幅広い知識、技能、態度を身に付ける科目配置を行い、学習活動の活性化のためにグループワーク、フィールドワーク、実験等の教育手法を積極的に導入する。英語教育では習熟度別クラス編成を実施する。

(2)「専門教育科目」では、講義科目はアクティブラーニングの活用を容易にするために履修者サイズの少人数化に努める。また、少人数クラスによる様々な演習・実習科目あるいはフィールドワーク科目等を採用し、臨床的応用的な「主体的学びの場」を用意する。

(3)授業科目ごとのシラバス(授業計画)には、卒業認定・学位授与の方針に基づいた、学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業の方法等を明示するとともに、単位制度の実質化の観点から授業外学修の課題の提示やその取り扱い等を具体的に記載する。

(4)「主要授業科目」を軸とした学位取得のための学位プログラムに加え、学生のキャリア形成に支援することを目的に、正課外授業との連携を含む各種の履修モデルを示す。これにより、免許・資格の取得を支援する。

(5)学生の主体的な学びを促進するため、参加型授業やフィールドワーク、授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。

(6)学生の学習活動の活性化、並びに個別授業科目の到達目標との関連から効果的な学習活動として、「遠隔授業」の形態を採用することがある。

【3 教育評価】

教育活動・学修活動の成果について、以下の諸点から評価し、それらを分析・考察することによって改善に資する。

(1)学生対象の授業評価アンケート及び学修行動等調査を実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかを含め、改善すべき課題の把握との検証を行う。これは、学修成果を間接的に把握するとともに、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(2)学生の事後学修レポートによる授業ごとの到達確認、さらに学期末の最終到達確認に基づく厳格な成績評価を検証するとともに、全体としてGPA(科目の成績評価)制度を用いて学修成果を把握する。

(3)学士カールブリック(学修成果を測るための評価基準表)を用いて、学生自身が学期末において自己の学修成果のリフレクション(振り返り)を行う。

(4) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、基礎教育科目においては「創造思考法」、専門教育科目においては「人間科学専門演習Ⅶ」で確認を行う。学修成果を間接的に把握するため、定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行い、学年進行に伴う学生の成長変化や学修支援の評価を行う。

(5) 学生が4年間の学修成果として獲得した知識、技能、態度等の身に付けた能力を、複数の教員により確認を行う。

(6) 専門職としての免許・資格等の取得状況を参考に、養成する人材教育の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学科は、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）として、以下の知識、能力、学修意欲、資質等を有している者を受け入れる。

【1 求める学生像】

- ・高等学校で履修した主要科目について、基礎的な知識を有し、課題を解くことができる。
- ・人間科学（心理、福祉、健康、教育）の分野に対する強い興味と関心を持ち、それを実践の場で生かす意欲を有している。
- ・本学科での学修により学位授与が見込まれる資質・能力を、高等学校での活動等からうかがわれる。
- ・免許・資格の取得に向け、高い意欲と絶えざる努力ができる態度を有している。
- ・自分の考えを、口頭や文章で適切に表現できるコミュニケーション能力を持ち、他者と協調・協働して行動でき、主体的に物事に取り組むことができる。

【2 入学者選抜の方法】

人間科学科では、次の方法を単独又は複数組合わせて選抜を行う。

- (1) 高等学校での学習成績の状況及び活動の履歴・成果等に関する書類による審査
- (2) 高等学校での履修科目に対する学力検査
- (3) 小論文
- (4) 面接
- (5) プレゼンテーション
- (6) 入学志願者本人が記載する資料による審査

【3 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度】

人間科学科における学修への円滑な移行が可能になるよう、次の知識の学習及び意欲の保持が望まれる。

- ・「国語」及び「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すこと及び聞くことの基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・人間科学という幅広い分野（心理・福祉・教育・健康）に興味・関心を持ち、また学修継続への強い意欲を持っている。

◆カリキュラムマップ

カリキュラムマップ 人間科学科目

<淑徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>
 本学は、大乗仏教の精神に基づき、社会福祉の増進と教育とによる人間開発、社会開発に貢献する人材の養成を目的としている。この教育理念の実現に向け、学則に示す卒業要件を満たし、以下に示す知識・技能・態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【1 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】
 (1)日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。
 (2)情報リテラシーや数量的スキルを修得している。
 (3)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。
 (4)自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。
 (5)人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。

【2 専門教育分野における知識・技能・態度】
 (1)自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。
 (2)修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。

<人間科学科 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>
 学則に定める卒業要件を満たし、社会の構成員としての基本的教育及び人間科学に関する専門教育に関する知識・技能及び態度を有する者に卒業を認定し、学位を授与する。

【2 人間科学分野における知識・技能・態度】
 人間科学における心理・福祉・健康・教育などの学問領域から人間について多角的・総合的に理解し、さまざまな場で活用し人と社会を支えることができる理論的かつ実践的な知識、技能、態度を身に付けている。
 (1)人間科学の学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、人間尊重の態度を重視しながら現実社会の多様な場で積極的に活用する技能を修得している。
 (2)人間が心身ともに健康的な生活を営むための実践的な支援を実現するために、心理学、社会福祉学、健康科学及び教育学に関する幅広い知識をもって、地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。
 (3)自己理解、他者理解、人間関係形成についての基本的な知識と技能を理解し、他者と協力・協調・協働しあう能力を身に付けている。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	1年		2年		3年		4年		1					2			主要授業科目							
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	1	2	3	4	5	1	2	3								
基礎教育科目	学習力の養成	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1前※集中	1	講義・演習	●																						
		利他共生	1前	1	講義	●																						
	思考力の養成		情報リテラシー	1前	1	講義・演習	●																				★	
			データリテラシー	1後	1	講義・演習		●																			★	
			統計分析法	1後	1	講義・演習		○																				
			問題解決法	3後	1	講義・演習						●																
			創造思考法	4後	1	講義・演習							●															★
	表現力の養成		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1前	1	講義・演習	●																				★	
			コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1後	1	講義・演習		●																				★
			コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	2前	1	講義・演習			●																			★
			コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2後	1	講義・演習				○																		
			表現技法Ⅰ(読解・分析)	1前	1	講義・演習	●																					
			表現技法Ⅱ(作文・論文)	1後	1	講義・演習		●																				
			表現技法Ⅲ(発表・討論)	2前	1	講義・演習			●																			
			表現技法Ⅳ(企画・立案)	2後	1	講義・演習				○																		
			表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3前	1	講義・演習					○																	
	人間力の養成		自己管理と社会規範	1前	1	講義・FW	●																					
			チームワークとリーダーシップ	1後	1	講義・演習		●																				
			地域活動と社会貢献	2前	1	講義・FW			●																			★
			他者理解と信頼関係	2後	1	講義・演習				●																		
	社会力の養成		社会的・職業的自立Ⅰ	2前	1	講義・FW			●																		★	
			社会的・職業的自立Ⅱ	2後	1	講義・演習				●																		★
	人間心理と人間行動	1前～	1	講義・演習	○	○	○	○	○	○	○																	

人間の理解	現代家族と育児介護	2前～	1	講義			○		○		○							◎						
	健康管理と身体活動	1前～	1	講義・実技	○		○		○		○							◎						
	スポーツと運動科学	1後～	1	講義・演習		○		○		○		○						◎						
	日本社会と歴史文化	1後～	1	講義・FW		○		○		○		○						◎						
	生命科学と物理化学	2後～	1	講義・実験				○		○		○						◎						
社会の理解	情報社会とデータサイエンス	1前～	1	講義	○		○		○		○							◎						
	法律社会と法律問題	1前～	1	講義	○		○		○		○							◎						
	福祉政策と福祉制度	1後～	1	講義		○		○		○		○						◎						
	日本国家と政治行政	2前～	1	講義			○		○		○							◎						
	経済構造と経済政策	1後～	1	講義		○		○		○		○						◎						
	現代医療と生命倫理	2後～	1	講義				○		○		○						◎						
国際の理解	国際社会と国際問題	1前～	1	講義	○		○		○		○							◎						
	世界宗教と民族問題	1後～	1	講義		○		○		○		○						◎						
	世界動向と国際貢献	1前～	1	講義	○		○		○		○							◎						
	国際平和と安全保障	1後～	1	講義		○		○		○		○						◎						
	国際関係と日本外交	2後～	1	講義				○		○		○						◎						
	地球環境と環境対策	2前～	1	講義			○		○		○							◎						
専門教育科目	基幹科目	人間科学概論	1前	2	講義	●														◎	◎		★	
		人間行動論	1後	2	講義		●															◎	◎	★
		心理学概論Ⅰ	1前	2	講義	●																◎	◎	★
		心理学概論Ⅱ	1後	2	講義		○																◎	
		社会福祉概論Ⅰ	1前	2	講義	●																◎	◎	★
		社会福祉概論Ⅱ	1後	2	講義		○																◎	
		健康科学論Ⅰ	1前	2	講義	●																	◎	★
		健康科学論Ⅱ	1後	2	講義		○																◎	
		教育学概論Ⅰ	1前	2	講義	●																	◎	★
		教育学概論Ⅱ	1後	2	講義		○																◎	
	展開科目	人間と哲学	1前	2	講義	○																◎		
		人間と倫理	1後	2	講義		○																◎	
		人間と思想	2前	2	講義			○															◎	
		人間と仏教	2後	2	講義				○														◎	
		公認心理師の職責	3前	2	講義					○													◎	
		臨床心理学概論	2後	2	講義				○														◎	★
		心理学研究法	2前	2	講義			○															◎	
		心理学統計法	2前	2	講義				○						◎								◎	
		心理学実験	2前	2	講義			○															◎	
		心理学基礎実験	2後	2	実習				○														◎	
心理的アセスメント実習	3前	2	実習					○													◎	◎		
知覚・認知心理学	1後	2	講義		○																◎			

学習・言語心理学	2前	2	講義			○													◎		
感情・人格心理学	2後	2	講義			○													◎		
神経・生理心理学	3前	2	講義				○												◎		
社会・集団・家族心理学	2前	2	講義			○													◎		
発達心理学	1後	2	講義			○													◎	★	
障害者・障害児心理学	2後	2	講義				○												◎		
心理的アセスメント	2後	2	講義				○												◎	★	
心理学的支援法	2後	2	講義				○												◎	◎	★
健康・医療心理学	1後	2	講義			○													◎		
福祉心理学	3後	2	講義					○											◎	◎	★
教育・学校心理学	2前	2	講義				○												◎		★
司法・犯罪心理学	3前	2	講義					○											◎		★
産業・組織心理学	3後	2	講義						○										◎		
人体の構造と機能及び疾病	2後	2	講義					○											◎		
精神疾患とその治療	3後	2	講義						○										◎		
関係行政論	2前	2	講義				○												◎		
心理演習(基礎)	3前	1	演習					○											◎		
心理演習(応用)	3後	1	演習						○										◎	◎	
心理実習	4通	2	実習							○	○								◎	◎	◎
スポーツ心理学	2後	2	講義					○											◎		
恋愛心理学	3前	2	講義					○											◎		
ストレスマネジメント	3後	2	講義						○										◎		
心理描写研究	3後	2	講義						○										◎		
相談援助論	2前	2	講義				○												◎	◎	★
相談援助方法論	2後	2	講義					○											◎	◎	★
家族社会論	2後	2	講義					○											◎		
地域福祉の理論と方法	2前	2	講義				○												◎		
ジェンダー論	1後	2	講義				○												◎		
児童に対する支援	3前	2	講義						○										◎	◎	
家庭に対する支援	3後	2	講義							○									◎		
高齢者に対する支援	3後	2	講義								○								◎	◎	
障害者に対する支援	3前	2	講義							○									◎	◎	
栄養学	1後	2	講義				○												◎		
健康と栄養	2前	2	講義					○											◎		
スポーツ生理学	2前	2	講義					○											◎		
健康と運動	2後	2	講義						○										◎		★
子どもの身体運動と健康	3前	2	講義							○									◎		
高齢者の身体運動と健康	3後	2	講義								○								◎		
スポーツビジネス	3前	2	講義								○								◎		

	教育哲学	2 前	2	講義			○											◎				
	教育社会学	2 前	2	講義			○												◎			
	教育心理学	2 後	2	講義			○												◎		★	
	日本の教育事情	2 後	2	講義			○												◎			
	子どもの生活環境	3 後	2	講義				○											◎			
	子どもの権利擁護	3 前	2	講義			○												◎			
	教育相談	3 後	2	講義				○											◎		◎	
演習 科目	人間科学専門演習Ⅰ	1 後	1	演習		●													◎	◎	★	
	人間科学専門演習Ⅱ	2 前	1	演習			●												◎	◎	★	
	人間科学専門演習Ⅲ	2 後	1	演習				●											◎	◎	★	
	人間科学専門演習Ⅳ	3 前	1	演習					●					◎					◎	◎	◎	★
	人間科学専門演習Ⅴ	3 後	1	演習						●				◎					◎	◎	◎	★
	人間科学専門演習Ⅵ	4 前	1	演習							●			◎					◎	◎	◎	★
	人間科学専門演習Ⅶ	4 後	1	演習								●		◎					◎	◎	◎	★
実践 科目	フィールドワークⅠ (事前事後学習を含む)	2 通	3	実習			○	○											◎	◎	◎	
	フィールドワークⅡ (事前事後学習を含む)	3 通	3	実習				○	○										◎	◎	◎	

※ ★それぞれの DP において、学修成果を測定する重要科目

履修体系図 (専門科目)

淑徳大学 人文学部人間科学科 専門教育科目体系図

は主要授業科目

基礎科目	専門教育科目							
	1年前学期	1年後学期	2年前学期	2年後学期	3年前学期	3年後学期	4年前学期	4年後学期
<p>■ 人間科学の基礎理論や学習方法を理解する 心理学、社会福祉学、健康科学、教育学を体系的に理解する。 *基礎を体系的、構造的に深く理解し、重要性を理解する。 *特異な文化圏の人の人間科学の視点を理解する。</p>	人間科学概論 ②	人間行動論 ②						
<p>■ 人間を理解するうえで重要な領域の基礎を修得する 心理学概論、心身学を体系的に理解する。心身の基礎を理解する。 社会福祉の原理や理論を学び、具体的な社会福祉の特性を理解する。 健康の定義や社会的健康観など健康科学の基礎を理解する。 教育学における主要概念を学び、教育の重要性を理解する。</p>	心理学概論 I ② 社会福祉概論 I ② 健康科学論 I ② 教育学概論 I ②	心理学概論 II ② 社会福祉概論 II ② 健康科学論 II ② 教育学概論 II ②						
<p>■ 人間研究における基本理論を理解する 人間科学についての学、心理学、思想及び仏教の重要性を理解する。 *人間性や健康の多様な価値観を学び、深い洞察力を修得する。</p>	人間と哲学	人間と倫理(倫理と人間)②	人間と思想(思想と人間)②	人間と仏教(思想と人間)②				
<p>■ 心身学概論の理解 心身学概論の基礎理論、社会的健康や疫学を理解する。 *専門職としての行動規範(倫理)を理解する。</p>			関係性論 ②	公認心理師の職業 ②				
<p>■ 心理学研究法とその分析の視点を修得する 心理学の基礎的・応用的研究法を学び、研究倫理の基礎を理解する。 心理学研究の基礎知識として、データ分析の基本的な手法を理解する。 心理実験の計画・実施・分析・レポート作成まで一連の流れを理解する。 *代表的な心理実験(性差・発達・認知)を基礎知識として理解する。 心理学の発展に貢献する基本姿勢と多様なアプローチ法を理解する。</p>			心理学統計法 ② 心理学研究法 ② 心理学実験 ②	心理学基礎実験 ② 心理的アセスメント ②		心理的アセスメント実習 ②		
<p>■ 基礎心学の知識を修得する 歴史、知覚、認知、意識といった人の心身の機能を理解する。 人間の心の発達過程に関する基礎知識を理解する。 記憶や学習のメカニズム、言語習得のプロセスを理解する。 *社会や文化といった環境が、人の心身の発達にどのような影響を及ぼすかを理解する。 感情、人間に特有な主要理論を学び、自己・他者理解を深める。 心の働きを脳活動の構造や機能について、生物学的基礎知識を修得する。</p>		知覚・認知心理学 ② 発達心理学 ②	学習・言語心理学 ② 社会・集団・家族心理学 ②	感情・人格心理学 ②	神経・生理心理学 ②			
<p>■ 応用心理学の知識を修得する 健康・医療心理学の知見とその応用についての基礎知識を修得する。 *障害者に対する理解を深め、社会的参加の促進を目指す。 *児童・若年者に対する理解を深め、心理的ケアの提供を目指す。 *スポーツや企業に関する心理学の知見とその応用を理解する。 *働く人の安全や健康を守るための心理学的知見と応用方法を理解する。 *ストレスの発現メカニズムや予防法、対処法を心理学の知見から理解する。 *映画などの登場人物の心理描写から、人間の心の複雑性を理解する。</p>		健康・医療心理学 ②	教育・学校心理学 ② 社会心理学 ②	臨床心理学概論 ② 障害者・障害児心理学 ② スポーツ心理学 ②	司法・犯罪心理学 ②	福祉心理学 ② 産業・組織心理学 ② 恋愛心理学 ② ストレスマネジメント ② 心理描写研究 ②		
<p>■ 人間の健康と疾病のメカニズムを理解する 人間の心身の健康と疾病、生活習慣病の基礎知識を理解する。 *精神疾患の症状、診断法、薬理作用を学び、支援の基礎を理解する。</p>			人間の構造と機能及び疾病 ②			精神疾患とその治療 ②		
<p>■ 心理学の支援方法を体系的に理解する *個人レベルの支援から、企業・地域社会の課題を体系的に理解する。 *心理的支援を要する人のニーズを把握し、実践的支援計画立案する。 *生涯学習を通して包括的支援(個別・グループ・プログラム)を修得する。 *演習・実習を通して、多職種連携及び地域連携の実践を理解する。 *公認心理師としての職業倫理や法的義務について体験的に理解する。</p>						心理演習(基礎) ① 心理演習(応用) ① 心理実習 ②		
<p>■ カウンセリングの手法を理解する 心理学の支援の基礎理論と主要な心理療法を理解する。 *カウンセリングの意義、適応、限界を学び多様な支援ニーズを理解する。</p>				心理学的支援法 ②				
<p>■ 社会福祉領域に関する知識を修得する ソーシャルワーク理論の基礎知識と実践的スキルを理解する。 *地域福祉の課題、支援実践やコミュニティソーシャルワークを理解する。 *児童福祉の課題(虐待・児童虐待)について、社会学的視点から分析を修得する。 *子どもや障害者の権利意識を養い、社会参加の促進を目指す。 *障害者福祉を学ぶためのニーズに応じた包括的支援法を理解する。 *高齢福祉の課題や課題を学び、高齢者に対する支援法を理解する。 *ジェンダーの視点から現代社会を捉え多様な課題を修得する。</p>			相談援助論 ② 地域福祉の理論と方法 ② ジェンダー論 ②	相談援助方法論 ② 家族社会学 ②	児童に対する支援 ② 障害者に対する支援 ②	高齢者に対する支援 ② 子どもに対する支援 ②		
<p>■ 健康領域に関する知識を修得する 健康増進のための栄養学の基礎知識を理解する。 *生活習慣病(心臓病)の発症メカニズムや予防法について理解する。 *運動やスポーツの心身への影響や生理学的メカニズムを理解する。 *心の健康増進の観点から、生活習慣病の予防法を理解する。 *子どもや高齢者の心身の健康づくりに関する具体的な運動の支援法を理解する。 *スポーツビジネスの現状を概観し、現代的意義と課題を理解する。</p>		栄養学 ②	健康と栄養 ② スポーツ生理学 ②	健康と運動 ②		子どもの身体運動と健康 ② 高齢者の身体運動と健康 ② スポーツビジネス ②		
<p>■ 教育領域に関する知識を修得する 教育の概念と理論を学び、教育哲学の視点からその本質を理解する。 *学制の史的変遷や教育内容・方法の発展を体系的に理解する。 *現代の日本の教育と海外の教育の比較的理解を修得する。 *国際的な児童福祉への具体的な心理学的支援・指導方法を理解する。 *子どもの育ちを支援し、生涯学習の重要性について理解する。 *子どもの権利の観点から、現代社会を捉え多様な課題について理解する。</p>			教育哲学 ②	教育社会学 ② 日本の教育事情 ② 教育心理学 ②		教育相談 ② こどもの生活環境 ② こどもの権利擁護 ②		
<p>■ 課題を発見し、解決する能力を修得する *研究の意義と重要性、主体的に課題を発見し解決する力を修得する。 *研究の基本知識・技術を学び、計画的発表から発表力・伝達力を高める。 *卒業論文・研究報告書・研究論文の作成方法を修得する。 *卒業論文の作成や研究発表を修得する力を修得する。</p>		人間科学専門演習 I ①	人間科学専門演習 II ①	人間科学専門演習 III ①	人間科学専門演習 IV ①	人間科学専門演習 V ①	人間科学専門演習 VI ①	人間科学専門演習 VII ①
<p>■ 体験学習を通して人間理解力を修得する *現場体験を通して、気づき、観察力、対話力、実行力を修得する。 *現場体験から実践的課題を学び、フィールドワークの視点を修得する。 *フィールドワークの実践から人間理解と自己探求の能力を深める。</p>			フィールドワーク I (事前事後学習を含む) ③		フィールドワーク II (事前事後学習を含む) ③			

◆ 基本型の履修モデル

	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
学習力の養成	●他者理解と自己理解 (必修)								
	●利他共生								
	●情報リテラシー	●データリテラシー I							
	●自己理解と自己発見 (必修)	●自己理解と自己発見 (必修)							
基礎教育科目	●自己理解と自己発見 (必修)	●自己理解と自己発見 (必修)							
	●自己理解と自己発見 (必修)	●自己理解と自己発見 (必修)							
	●自己理解と自己発見 (必修)	●自己理解と自己発見 (必修)							
	●自己理解と自己発見 (必修)	●自己理解と自己発見 (必修)							
基礎教育科目 (小計)	7	4	5	2	1	1	3	4	27
	●人間科学概論 I	●人間行動論							
	●心理学概論 I								
	●教育概論 I								
基礎科目	●人間科学概論 I								
	●心理学概論 I								
	●教育概論 I								
	●社会福祉概論 I								
専門教育科目	●健康科学論 I								
	●人間と倫理	●人間と哲学	●人間と思想	●臨床心理学概論	●司法・犯罪心理学	●人間と仏教	●障害者に対する支援	●家族に対する支援	
	●知覚・認知心理学	●心理学研究法	●心理学的アセスメント	●感情・人格心理学	●児童に対する支援	●産業・組織心理学	●障害者に対する支援	●地域福祉の理論と方法	
	●発達心理学	●学習・言語心理学	●社会・集団・家族心理学	●障害者・障害児心理学	●健康と栄養	●高齢者に対する支援	●子どもの身体運動と健康	●高齢者の身体運動と健康	
専門基礎科目 (小計)	10	13	13	15	17	17	7	5	97
	●人間科学専門演習 I	●人間科学専門演習 II	●人間科学専門演習 III	●人間科学専門演習 IV	●人間科学専門演習 V	●人間科学専門演習 VI	●人間科学専門演習 VII		
	●人間科学専門演習 I	●人間科学専門演習 II	●人間科学専門演習 III	●人間科学専門演習 IV	●人間科学専門演習 V	●人間科学専門演習 VI	●人間科学専門演習 VII		
	●人間科学専門演習 I	●人間科学専門演習 II	●人間科学専門演習 III	●人間科学専門演習 IV	●人間科学専門演習 V	●人間科学専門演習 VI	●人間科学専門演習 VII		
合計単位	17	17	18	17	18	18	10	9	124

※科目名の頭に「●」がついている科目は卒業要件必修科目、その他科目は選択科目である（ただし免許・資格取得に必修となる科目は、学生便覧の該当箇所を確認すること）。
 ※上記の履修年次はあくまでもモデルであり、学生の希望や時間割の状況により実際の履修計画は変わってきます。また前学期・後学期についても、基本カリキュラム表通りに実施する予定ですが、年度によっては入れ替わることもあり、各年度当初に必ず確認してください。

学位：学士
(人間科学)

★主要授業科目を青フオンで表記

124 単位

【人間科学科】令和8年度入学生用 基本型の履修モデル

13. 淑徳大学の正課外プログラム

本学の学位プログラムは、専門的知識・技能の修得に加え、建学の精神である「共生（ともいき）」の理念を体現し、地域社会の一員として主体的に行動できる人材の育成を目的として構築されています。その実現のため、本学では学部・学科や各センターが連携し、多様な正課外プログラムを展開しています。これにより、正課で培った学修成果を地域社会での実践へと発展させる仕組みを整備し、学びの場を学内外へと広がっています。

淑徳大学ともいきリーダー制度

地域共生センターが実施する「淑徳大学ともいきリーダー」制度は、その具体的な取組の一つです。本制度は、全学共通基礎科目（S-BASIC）「地域活動と社会貢献」の単位修得に加え、ともいき基礎知識講座（T-BASIC）の受講を通じて、地域における正課外活動を通して「共生」を実践する学生を育成するものです。また、在学中に身につけたボランティア活動や地域活動における知識・経験を、オープンバッジとして認定しています。活動時間に応じて三段階（ブルー・シルバー・ゴールド）のバッジを付与し、学生の成長過程を段階的に可視化しています。

今後は、「淑徳大学ともいきリーダー」制度のさらなる充実に向け、正課と正課外活動の融合を一層推進し、教育効果の高い体系的なプログラムとして発展させていきます。

◆「淑徳大学ともいきリーダー」概要図

